

山の雄峰が仰がれる。旅館不老園、宮田、港屋外敷軒。
 【岩屋古墳】〔指定史蹟〕 淀江驛の東約一軒半、宇田川村福岡の向山と俗稱する丘陵にある。前方後圓墳で長軸六〇米、後圓部の中央に凝灰岩を以て造つた略南面して開口する石室あり、玄室側壁、天井何れも一枚石で、内部は平滑に削られ朱を塗り、前室との境界には中央に方形の孔を穿つた一枚石をたてゝ居る。前室も側壁は左右各一枚石で平滑に磨かれ、天井石は失はれて居る。羨道部との境界に方形の入口を有する板石がある。この古墳の封土から嘗て水鳥の埴輪が発見された。

宇田川村福岡向山には古墳塚穴多く存し、從來これ等から出土発見されたものに齋瓮、直刀、劍頭、鍬、金銅製三輪玉、瓔珞付金銅透板等の諸遺物があり、東京帝國大學その他に收藏されて居る。

【天神垣神社石馬】 淀江驛の東約二軒、岩屋古墳からは東南半軒、宇田川村福岡上淀の天神垣神社境内に置かれて居る。もと福岡の石馬ヶ谷の一古墳に在つたも

た。例祭十月九日。

社寶の短刀一口は備前長船兼光の銘あり、國寶に指定せられ、東京遊就館に出陳中である。

【大山寺】〔天台宗〕 伯耆大山驛の東南一四軒、山陰の名山大山の中腹景勝の地にあり、自動車の便がある。寺は大神山神社の舊供僧であつて修験練行の地である。その草創を養老年間と傳へ、後に慈覺大師留錫して大山寺と號したと云ふ。天慶の亂には勅命を奉じ、將門亂の平定を祈り、元弘年間後醍醐天皇隱岐より船上山に僭幸の時には、當山の僧侶名和氏の軍に赴き國事に勤めて功があり、後江戸時代には國家鎮護の道場となり、三千石の朱印を受けた名刹である。然るに維新後寺運衰退し、本堂は昭和三年焼失、今靈像權現堂を假本堂として居る。然し古建築には優秀な阿彌陀堂を存し、寶物の古佛像にも貴重なものが残つて居る。

阿彌陀堂(常行堂)〔國寶〕 本堂の西南約半軒、南光谷を隔てゝ建つて居る。五間五面單層、屋根四注造、柿葺、應永年間の建築である。内外素木造にして木割

のと云ふ。石造で高さ二尺餘、長さ五尺、埴輪土馬に似た趣を示して手綱、鞍、帶革等の着裝状態を現はし、赤色塗彩の痕を存して居る。上代の製作にかゝるもので、傍に故理學博士坪井正五郎氏の撰文碑がある。

伯耆大山驛 鳥取縣西伯耆郡嚴村蚊屋

▽伯 備 線 伯耆大山、倉敷間 一三九軒六

▽乗合自動車 岡城行、大山寺行

【大神山神社】〔國幣小社〕 伯耆大山驛の東南二軒半、大高村尾高にある。大穴牟遲神を祭神とし、大山神または大智明神とも稱さる。伯耆一宮で、もと伯耆大山に鎮座したのを明治年間現地に遷された。古來修験の靈場で、堂舎、僧坊あり、大穴牟遲神を大智權現と稱し、僧兵を置いた。元文二十四年尼子晴久社殿を造營し、次いで毛利、吉川、池田諸氏の社殿等の造營あり、武家の尊信厚かつた。大山の夏宮即ち大山權現は明治初年の神佛分離の際に尾高なる本社おおくのみやの奥宮に定められ

の雄大な太い圓柱を建て、榦組は壯大な出三斗を組んで居る。室町時代の建築であるが、鎌倉時代の風調を傳へて居る。向拜は後世附加したもので、主屋と調和を缺き、その他内部にも改作せる部分に舊態を失つた所がある。床は拭板敷にして後方の須彌壇には國寶の阿彌陀三尊像が安置されて居る。

阿彌陀如來及兩脇侍像〔國寶〕 木造漆箔、中尊は雄大なる丈六の坐像で彌陀の定印を結んで居る。高さ八尺八寸餘、漆箔は後世修理の際補つたために新らしく見えるが、その形相姿態に優美溫雅な藤原末期の特徴を示した作である。脇侍は何れも一手に蓮花を持つて立てる像で本尊と同時代の作である。尙本堂には優秀な古鐘がある。

寶物

一 聖觀音像〔國寶〕

一 軀

金銅製高さ一尺六分、細高い推古式の立像で、寶冠の正面には彌陀の坐像があり、垂れた左手の掌中には寶珠を持ち右手は胸側にて掌を下に向けて居る。臺座は八角形をなし、佛體と同鑄されて居る。金色も比較的よく残存し、頗る優秀な作である。

鳥取米子間

一 觀音像 【國寶】

金銅製、高さ一尺二寸一分、稍腰を捻つて立ち瓔珞を以て寶飾せる像で奈良時代の様式を傳へて居る。前腕は左右ともに缺失し嘗て火中せしものと見え、表面がびらんして居る。

一 觀音像 【國寶】

金銅製高さ九寸八分、體を稍々前方にかがめ、兩手を腹前にあつめて立つて居る像である。服飾は極めて單純にして天衣の外に頸飾あるのみである。佛身各部の均衡よからざるも奈良時代の作と思はれる。これも嘗て火中せしたため所々缺損して居る。

一 觀音像 【國寶】

金銅製、高さ一尺二寸。兩手を胸側にあけ、左に水瓶を持ち、帽子形の寶冠を戴き、全身に瓔珞をかけて居る。六朝佛の形式のものである。

一 厨子 【國寶】

一 基

鐵製、圓筒形をなす。高さ二尺二寸五分。徑一尺五寸四分、蓋は寶形中心に寶珠を附し、身の上部には地藏菩薩を表示せる梵字が鑄出されて居る。この厨子にも鐵製地藏菩薩像が安置され今その首の一部が残つて居る。寺傳によると厨子と共に寛政年間火災に大破したものと云ふ。尙厨子の周圍に取り付けてあつた長方形の鐵板が三枚残つて居る。この鐵板に鑄出の祈願文があつて承安二年に紀成盛がこの厨子を奉納したことが知られ、また鑄造師延曆寺僧西上等の文字が判讀せられる。國寶であつた大山寺縁起十卷は昭和三年に焼失した。

車の便がある。大山寺は戸數僅か數十戸、村内到處僧坊の址がある。古來有名であつた大山寺諸坊の址で規模の宏大であつた往時を追想せしむるに足る。當時は比叡山、高野山に比すべき靈場であつた。

溝口驛からは柳水原を経て山腹を横斷して大山寺へ通ずる自動車路もある、驛から枡水原までは約八軒、柳水原から頂上まで約三軒五、大山寺から山頂まで約四軒である。

山頂からは米子、淀江等を初め、夜見ヶ濱、中海、日本海の展望が素晴らしく、南東は蒜山から中國の連嶺を望む展望頗る雄大である。

大山は冬季積雪多く、この裾野一帯は山陰唯一の好スキー地として知られて居る。スキーの根據地は大山寺附近で、旅館も數戸あり、各スキー團體の合宿練習が盛んである。積雪は多雪の時は二米以上に達するが、普通一米内外で、多雪の時は大山寺まで自動車が通じないが、途中赤松までは行く。大山寺附近一帯は到處絶好のスロープであるが、主として上ノ原が中心で

鳥取米子間

【大山】 【二〇〇】 大山は伯耆の名山としてのみならず、中國に於ける唯一の高峰で、海拔一、七三米、秀麗な山容を聳えて居り、國立公園候補地として指定されて居る。この山は白山山脈に屬する雄大な休火山で、

伯耆の中央四〇方軒の地域に亙る一大火山帯の主峯である。海拔約一、〇〇〇米附近までは優美な裾野を曳き、それ以上凡そ七〇米は急峻で裾野との限界が明かである。山頂は南東に向つて一大連嶺をなし烏ヶ山、兜ヶ山などとなり、東方の船上山頂まで連互し、内方は大爆裂孔をなし、頂上より北方大山村方面に向つて蹄鐵形に開口して居る。大山は東方から望むと、山姿突兀として峻嶮を極めるが、西方からは富士式の山容を聳え、

伯耆富士の別名がある、裾野は概ね草原で、山腹は落葉松の植林の外ぶな、樺などの原生林が所々に散在し山頂附近は概ね熔岩礫帯で、山肌を表して居る。登山路は山陰本線大山口驛、伯耆大山驛及伯備線溝口驛からの三つがある。

伯耆大山驛から山腹の大山寺まで約一六軒の間自動

ある。また溝口驛から行く枡水原は大山中最廣い斜面でスキー小屋が出来て以來、スキー登山の絶好な根據地となつて居る。こゝから山頂まで約二時間行程で山頂から一氣に滑降することが出来る。山頂附近は時として雪が氷結してカンジキの必要があるが、雪質のよい時は山頂までスキーの使用が出来る。多雪の時は山頂から約二〇軒伯耆大山驛まで滑降が出来る。大山寺から赤松までの松林の滑降も愉快である。スキー季節は十二月下旬から三月下旬まで。

【大山きやらばく純林】 【指定天然記念物】 大山の絶頂にあり、東南より西北へ約三四米、東北より西南へ約二八米、面積約八〇〇アールを占め、遠く望めば一面暗綠色を呈して居る。幹は匍匐して〇・九米乃至一米八の高さを有し、太き幹は幾度も地中に入りて、その地表に出づる毎に一株の如く枝を叢生し、幹の太きものは周圍一米二に達するが、中央部は腐蝕して居る。きやらばくの自生地は本邦中大山のみであるらしく、同山には前記の外、彌山、三鉛峯等にも存在する。

【大山半馬市】 大山の裾野は牧畜が行はれ、大神山神社奥の宮の祭日即ち五月二十四日、七月十五日、九月二十四日には牛馬の大会が開かれ、非常に雑沓する。出場頭数は牛が多い。

米子驛 米子市西大谷

▽境 線 米子、境港間 一七九九

▽伯陽電鐵 米子町、法勝寺間 一二九四
阿賀、母里間 五九五

▽米子電車軌道 米子驛前、皆生温泉間 七九一

▽乗合自動車 伯耆溝口行、境港行、母里行、渡行、松江行、後藤行、岸本行、末吉行、法勝寺行

一日平均

乗車人員 一、七九五八 降車人員 一、八九八八

發送貨物噸數 五九九 到着貨物噸數 九六八

主要發送貨物 鹽(年三、三〇七噸)、米(年二、〇〇元噸)

主要到着貨物 鹽(年三、四九〇噸)、人造肥料(年二、五三三噸)

【米子市】 (二圖は3) 米子驛所在地。夜見濱半島の基部に位し、中海に沿ひ、加茂川に跨り、日野川から分れた米川が東境の一部を流れ、土地北方に開けて、他の三方には丘陵がある。この地は往昔加茂と稱した海濱

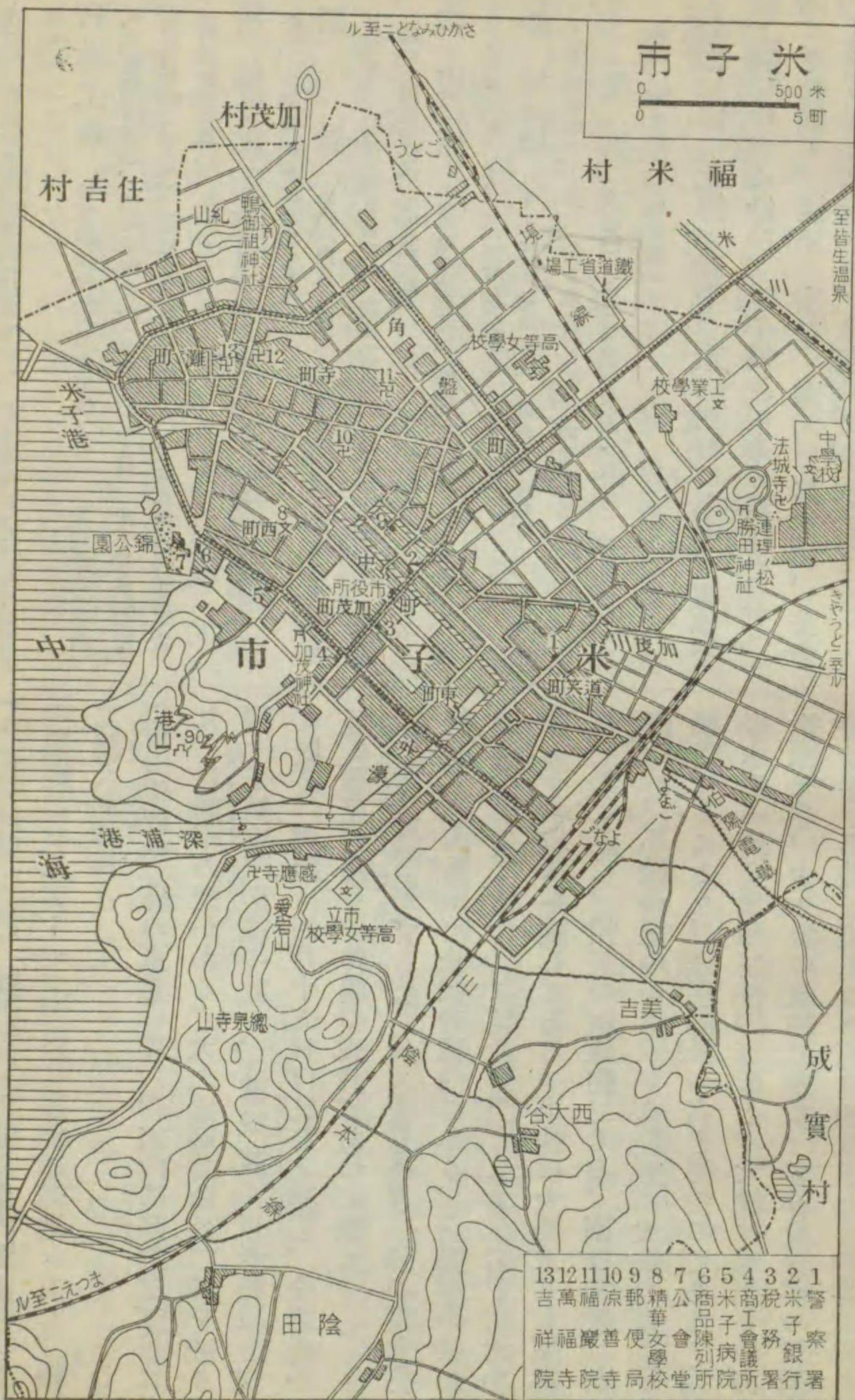
の小漁村で、伯耆守護名和長年の所領に属したが、慶長の初年吉川廣家湊山に久米城を築いた。關ヶ原戦後中村一忠入國し、城池を完成して街衢を整頓した。同十五年加藤貞泰美濃より轉封し、元和四年池田光政の家老池田由之城代として在城したが、寛永九年池田光仲備前より移り、徳川家光の命によりて家老荒尾但馬これに代り、爾來荒尾氏代々この城に居り、維新の際鳥取藩に收められた。

昭和二年市制施行地となり、東西約四軒、南北約二軒八、面積約九方軒四を有する。海陸交通の便多く、商工業繁榮し、生産總額六百四十五萬圓の九割以上は工業に屬し、その過半は生絲、刻煙草が占め、これ等に次ぐものは醬油、農具等である。繁華な所は法勝寺町から尾高町にかけての部分である。人口三萬四千。

▽官公廳その他 市役所(中町)、稅務署(加茂町)、地方裁判所

支部(西町)、運輸事務所(米子驛構内)、保線事務所(同)、公會堂(西町)、商品陳列場(同)、商工會議所(加茂町)

▽銀行 米子銀行(東倉吉町)、山陰銀行(道笑町一丁目) 松江銀行支店(道笑町一丁目、灘町二丁目)、安田銀行支店(四日



鳥取米子間

市町)、山陰貯蓄銀行支店(法勝寺町)、日本産業貯蓄銀行支店(日野町)

▽會社工場 日本製絲會社(角盤町四丁目)、坂口商店(郭内)

米子製鋼所(同)、伯陽電鐵會社(道笑町三丁目)、米子電車軌道會社(角盤町一丁目)、隱岐電氣會社(加茂町)、大阪鐵道局後藤工場(角盤町二丁目)

▽新聞社 山陰日日新聞社(日野町)、山陰毎夕新聞社(西町)、山陰報知新聞社(岩倉町)

▽旅館 岩佐(西倉吉町)、米村(同)、森屋(同)、南館(四日市町)、松屋(東倉吉町)、油屋(中町)、柏木(西大谷)、大阪屋(同)、岡田屋(同)、光田(同)

▽料理店 大名庵(加茂町)、錦明亭(同)、吟月(中町)、錦魚亭(道笑町二丁目)、三宜園(西町)

▽娯樂場 キネマ館(朝日町)、電氣館(角盤町三丁目)、米子館(角盤町二丁目)、朝日座(朝日町)、御幸座(萬能町)

▽土産物 米城燒、法勝寺燒、赤蕪千枚漬、青藻羊羹、防風糖、玉すたれ、峰の雪

【錦公園】 驛の北約一軒半、市内西町にあり、電車公園前下車、中海に沿ひ、米子城址のある湊山を負ひ、周圍に老松繁り、眺望に富む。園内に鳳翔閣、公會堂、諸種の記念碑等があり、清洞寺松もある。

圍約三米。本邦各地の根上り松中最も著しきものであらう。
【皆生温泉】 (二圖は三) 驛の東北五軒、電車の便がある。美保灣に面し、秀麗なる大山を仰ぐ夜見ヶ濱大天橋の基點に位置し、煙波渺茫たる間に隱岐島の青螺を望む海岸温泉である。以前は海中の沖合に熱湯噴出の箇所あり、漁夫はこれを「泡の場」と稱へて恐れて居たが、日野川の吞吐する砂の爲に漸次に海を埋め、「泡の場」も淺瀬となつて陸地近くなつたので、明治三十年温泉地經營の緒が開け、米子市の發展と共にこの温泉も急速に躍進し、旅館料亭軒を並べて脂粉の香の濃い遊樂地となつた。

温泉は弱鹽類泉で温度七一度、呼吸器病、婦人病、リウマチス、喘息、貧血症などに効くと云ふ。旅館 大山別館、靜養館、菊水樓、岩佐別館、金魚亭他十餘軒。
【瓊子内親王御墓】 驛の東南二軒半、五千石村福市安養寺境内にあり、電車の便がある。石造寶篋印塔にて周圍練堀を築き玉石垣をめぐらし、明治三十三年宮内

鳥取米子間

【西伯公設運動場】 驛の東一軒餘、市内勝田町にあり面積約二一八アール、三方に觀覽の高地を有し、優に二萬人を容れる。

【勝田神社】 驛の東北一軒六、市内博勞町二丁目にあり、自動車の便がある。天之忍穂耳命外二神を祀り、舊米子城鬼門鎮護の社で、社域廣く、老松枝を交へて居る。例祭は四月十五日、花祭と稱し、全市各戸の軒に櫻花を飾り、神輿の渡御があつて賑ふ。

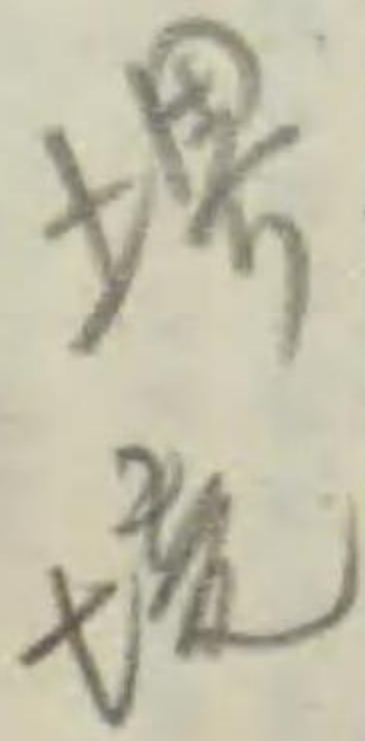
【法城寺連理根上り松】 [指定天然記念物] 驛の東北約一軒七、市内勝田町法城寺境内にあり、自動車の便がある。根上り松は入口の砂丘傾斜面の左方に樹ち、大小二株あり、木柵を繞してある。小株は大株よりも傾斜地の上部に生じ、相互の距離約二米七、兩株共根は高く露出し、小株の根の一は水平に出でて大株の根と全く接着せるにより、連理の松の名を得たのである。連理根水平の長さ及高さ各約二米七、大株は根上りの高さ約四米半、太き根の數約二十本、根幹境界部の周圍約五米半、小株は根上りの高さ約二米七、根幹境界の周

省に於て修治した所にかゝる。瓊子内親王は後醍醐天皇皇女で、寺は元弘年中内親王の開創と云ひ、安永四年朝廷から勅願の綸旨を賜はつた。寺寶に後醍醐天皇の御影その他の什寶を傳へる。

【天萬山】 驛の南約八軒、伯陽電鐵手間驛の南約八〇〇米、手間村にあり、神代に大巳貴命が八十神のために災厄を受けた舊蹟と傳へられる。

【粟島神社】 驛の西北約七軒、彦名村粟島にあり、自動車の便がある。少彦名神、大巳貴命を祀る。古記に少彦名命國土經營を終りて、常世の國に去り給ふ時、粟の穂上の風に拂はれて去り給ふとある遺跡と稱されて居る。

境線



この線は米子から東北境港まで、夜見濱半島の中央を縦貫するもので、白砂青松の間を縫うて走り、車窓の眺めが極めて佳い。途中後藤二軒二、弓ヶ濱五軒、大篠津四軒七、餘子三軒一の各驛を過ぎ境港二軒九に

至つて止まつて居る。

【夜見濱】(二圖は三) 弓ヶ濱とも云ひ、南から北に斗出して中海と日本海的美保灣とを分ち、島根半島と相對して中江瀬戸を形成して居る。夜見濱は長さ約二〇料、幅凡そ四料に及ぶ大砂洲で、日野川の分流米川貫流し、翠松ながく連り、詩人はこれを大天橋と呼んで居る。大天橋を雙眸に收めるには、島根半島の高尾山に登るがよい。弓狀に彎曲せる白砂青松の地長く連り、遙に伯耆富士が聳え、眞に雄大な畫景である。

【境港】(二圖は三) 境港驛所在地。夜見濱半島の北岸にあつて、中海の咽喉中江瀬戸に臨み、山陰地方の良港で、船舶の出入が少くない。開港場ではあるが、外國貿易は振はない。人口七千。

【境海水浴場】 境港驛から約二料、境町の東端にあり自動車の便がある。夜見濱の大天橋を控へて大山の雄峯を仰ぎ、北に島根半島の翠微が望まれる。附近に臺場公園、餘子神社などがある。旅館 油屋、唐津屋、渡邊、三保の松外十數軒。

隱岐

【隱岐】(四圖) 隱岐は日本海の群島で島根半島の沖に位し、島前、島後二部に分かれ、島後、西島、中島及知夫里島が主島である。面積約三〇方料、佐渡島よりも狭い。地勢平地に乏しく丘陵多く、最高峯大満寺山も海拔六〇米である。氣候は海洋の影響を受けて溫和である。人口は三萬五千あつて一方料約百人に當り、密度が小さくない。産物は農産が最も多く、水産これに次ぎ、農産は米、水産は鱈、鯖等が主なもので、鯛は名高いが今は微々たるものである。隱岐は昔遠流の地で古蹟の遺存するものが諸處にある。

隱岐へ渡航するには、松江から境及島前諸港を經由し、島後の西郷まで行く隱岐汽船會社の汽船便がある。その一つは知夫、浦郷、別府、菱浦の諸港を経て西郷へ、他は崎、知々井の港を経て西郷へ至る。

【知夫港】(四圖は三) 境港から六七料、美保關からは五九料、島前知夫島の南端にある小港で、地方即ち本

承久三年八月五日壬申に、隱岐の國あまの郡かり田の郷に申所に著かせ給へは、領主あやしき御所をつくりまうけて移し奉る。海水岸をあらひ山風木をわたることほしかりければ、法皇かくぞ思し召しつゞけける。

我こそはにひ島守よおきの海の
あらし波風こゝろして吹け
(承久軍物語)

土に最も近く、後醍醐天皇隱岐御遷幸の際の御上陸地と傳へられて居る。隱岐獨特の民謡ドツサリ節の起源地である。

【牧畑】 島前にある一種の耕作地である。同地に於ては普通の畑を本畑と云ひ、これに對して或る季節間大豆、小豆、大麥、小麥、粟、稗等の作物を栽培し、他の季節には牛、馬を放牧し、耕作、放牧を交々轉換する畑を牧畑と稱する。作物は土地所有者が耕作收穫し、放牧は土地を所有すると否とに拘らず、何人もこれを行ふ慣習である。隱岐馬は體軀が小さい。

【渡津】 知夫港の東方知夫村字薄毛にあり、郡下船、發動機船を傭入れるがよい。渡津島、錨島、笠島、産井傳馬島、風見姿島等の小嶼散在し、各島奇巖崛起し、老松枝を交へ、小松島の感がある。

【由色比賣神社】 島前西島浦郷にあり、浦郷は汽船の寄港地である。當社は須勢理姫命を祀り、延喜式名神大の社である。社前の小灣は烏賊の群集を以て著れて居る。社後の丘陵を超えること約三料三にして、國賀

（國佳）の絶景がある。外海に面し、大小無數の岩嶼翠松を戴き、陸前松島の縮景を成して居る。

【船引運河】 浦郷下船、島前西島にあり、美田灣が南から灣入して北の外海と接近し、字船引通稱船越に於て地峽を形成して居る。こゝに大正三年度運河を開鑿し幅約七米三、長さ約三七米である。この運河が竣工したため、浦郷半島を迂回する時間、努力、危険等を節約防止するを得た。

【焼火神社】 「縣社」 浦郷下船、島前西島黒木村美田の焼火山上にあり、浦郷から字波止まで發動機船、こゝから登り約二料、大日靈貴命を祀り、もと焼火權現と云ひ、一條天皇の御宇の創立と傳へて居る。老杉鬱蒼、社殿壯嚴、海運業者の崇敬が深く、數百人を宿泊せしむべき籠堂がある。同社に幾多の文書及社寶を所藏する。

【文覺窟】 焼火山の東南海岸にあり、高さ三米餘の巖窟である。隱岐に配流された文覺上人苦行の遺跡であると云ふ。と文覺に文覺の墓所と稱する所がある。

庭の一隅に御用水井戸が遺つて居るのみである。尙院の御遺物が附近の村上氏に保存してある。

【後鳥羽天皇御火葬塚】 同じく舊源福寺境内で行在所址に隣りて稍々低きところにあり、御塚は圓墳をなし周圍に土塀を繞らし、鐵柵を設けられて居る。延應元年二月天皇この地に崩じ給ふや、火葬して御遺骨を埋め奉つた舊址で、明治六年勅使下向還幸の式が行はれた。今「後鳥羽天皇御火葬所址」の石の標柱が建つて居る。宮内省の所管で、守部は往時奉仕した村上氏の後裔である。

【くろきづた産地】 「指定天然記念物」 島前黒木村及海士村、即ち知夫郡及海士郡にあり、くろきづたは海草で、緑藻植物管藻類いはづた科に屬し、短きものは三糎餘なれども、長きものは六〇糎以上である。常に安山岩等の石礫があつて、その上に黒色有機物の多い泥土がある所に、最もよく繁殖して居る。この植物は他の海草と異なつて胞子を有せず、夏期古い莖から盛に嫩莖を生じて長く伸び、且つ新根をも出して岩石に

【黒木御所址】 別府上陸、島前西島黒木村別府から約半料、東海岸出崎にあり、黒木御所址は後醍醐天皇の行在所の遺址と傳へられて居るが、異説もある。満山松林に蔽はれた小丘で、天皇山及その後方尾の城（王城）一帯の丘陵を云ふ。天皇山は黒木山の別名を有し、山上に小祠黒木神社がある。附近に荒堀、空堀、お茶屋、西の屋、局の内等の地名を存して居る。海上の目付島と稱する小島は行在所の警衛として、往來の船舶を監視した所と傳へられる。

【後鳥羽上皇行在所址】 島前西島海士村海士中里の小丘勝田山にあり、菱浦上陸、それより東約二料九、もと新田山源福寺があつて、承久三年八月五日後鳥羽院隱岐御遷幸後十九年間行在所となつて居た所である。寺は明治二年破却せられて今僅に礎石を存し、堂址には柵を繞らし、杉樹を植ゑ、中央に「後鳥羽院天皇行在所址」の石標が建つて居る。庭園は荒廢して「蛙なく勝田の池の夕たたみ聞かましものは松風の音」の御製に名高い勝田池は草に埋れ、音無の松風も聞えず、

つき、舊葉からは新に嫩葉を發生し、後相離れて各獨立の個體となつて増殖する。莖葉の先端常に二個の葉が又狀に並べることが特徴である。外國に於ける産地は紅海、大西洋及南洋であるが、飛び離れた隱岐にあるのは興味が多い。本邦の産地は隱岐以外にないらしい。

【崎港】 島前中島の南端にあり、汽船の寄港地である。後鳥羽上皇御腰掛の岩と稱するもの及一夜籠らせ給うたと云ふ三保神社がある。

【西郷町】 （四圍はこ） 境から二四料、美保關から九六料島後の南端にあつて、東西兩灣に分かれる西郷灣の中部に沿ひ、後に丘陵を負ひ、八尾川に跨り、日本海の良港である。隱岐支廳を置かれ、物貨の集散少からず避暑客の渡來年々増加の傾向がある。名産は海産製造物、馬蹄石細工、椎茸等である。人口五千。

【驛鈴及倉印】 西郷町隱岐支廳に保管される。驛鈴は高さ二寸八分、銅製て八稜形をなし腹背に「驛」「鈴」の文字を各、鑄出し清韻最も朗かである。大化二年諸

國に驛馬傳馬を置き、大寶元年驛鈴の制を定めて、諸國に向ふ官使がこれを振り鳴らして驛馬徴發の證となしたもので、この遺品は恐らく承和貞觀頃の製作にかゝるものであらう。倉印は大いさ約二寸四方、銅製、「隱岐倉印」の四字を篆書で鑄出して居る。共に集古十種等に載せられ、もと玉若酢命神社の祠官億伎國造家累代の什寶であつた。寛政二年十一月光格天皇が嚮に内裏炎上の爲在はした聖護院の假皇居より新内裏に御還幸の際、國造家から驛鈴を奉らしめて鹵簿の行列に加へしめられ、式畢りて國造家に返さしめ給うた。その際添へて賜はつた御唐櫃も驛鈴と共に保存されて居る。

【闘牛】牛と牛との角力で、後鳥羽院の御心を慰め奉るため、多くの牛を集めて闘はせたのが濫觴と傳へて居る。現今島前には常設場がないが、島後には檀鏡の茶山、池田の尼寺山、東部の八幡神社の三ヶ所に闘牛場がある。

闘牛は普通うしつきと稱へ、闘牛に使用する牛をつ

線畫が存する。畫題は漁村の風景で草小屋、海獸の如きもの、裸體の女等で頗る拙ない刻線を遺して居るが、上古の風俗畫として貴重な資料である。尙横穴は黒木御所址の附近なる黒木村物井にもある。

【隱岐國分寺】〔眞言宗東寺派〕西郷町の西北四料、中條村池田にある。維新後荒廢して今僅に明治十二年再興した小堂宇を存するのみであるが、大門址礎石、本堂址と傳ふる約三十個の礎石等を存し、附近より蓮華紋唐草紋の古瓦及布目瓦が出土して居る。元弘二年四月より翌三年二月迄後醍醐天皇の行在所址と云ひ、大正七年建設の記念碑あり、境内は指定の史蹟である。

【類無地藏】西郷町の西北約一〇料、中條村上西字都萬目にあり、小祠中に小野篁が刻んだと云ふ木像を安置し、齒治に靈驗ありと稱して、一般の信仰が厚い。

【水若酢神社】〔國幣中社〕西郷町の西北約一六料、五箇村郡にあり、自動車の便がある。水若酢命を祭り式内名神大社、隱岐國の一ノ宮である。本殿が神明造であるのもこの地方では珍らしい。例祭五月三日。

きうし、牛の綱を把るものをつなとり、検査役をみつくと云ふ。時刻が来ると、つなとりは各自の牛を牽いて土俵の中に入れ、綱を放さず而も牛の動作を拘束しない様にして奮戦させ、勝敗が決すると、双方の牛を分けるのである。

【玉若酢命神社】〔縣社〕西郷町の西約二料、磯村下西にある。玉若酢命を祭神とし、式内の古社である。中世國府の總社として崇敬が篤かつた。

【玉若酢神社の八百杉】〔指定天然記念物〕玉若酢神社境内社殿の前にあり、高さ二九米弱、幹圍は地上約四五纏で約一米、地上約一米半で約八米八。地方人は樹齡千年以上と稱する。隱岐に残存する有名な驛鈴の箱はこの杉の枯枝で造つたもので、木理が美しい。

【飯の山横穴】西郷町の西南約三料、西田灣の南縁に流入る溪流の左右に相對して在る丘陵の西丘、俗稱飯の山にある。大正七年硅藻土採掘の際發見したもので總數五十餘箇を算へ出土品に勾玉、齋瓮、直刀等がある。横穴群の中央の邊にある一穴は、奥壁と右壁とに

【檀鏡瀑】西郷町の西北約一四料、西郷から海路都萬に上陸すれば徒歩約四料、都萬村那久にあり、檀鏡川の上流横尾山中に懸り、老樹鬱蒼として屏風を列ねた様な岩壁の中央に檀鏡神社があつて、これを挟んで瀑布は二條となつて居る。右は雄瀧と云ひ、直下五一米餘、巖壁の洞窟に裏瀧觀音の銅像を安置し、こゝより瀧の裏を観ることが出来る。左を雌瀧と呼び、岩壁を瀧下して居る。瀧壺及附近の溪流に山椒魚が棲む。南方の茶山は闘牛の名所で、毎年陰曆八朔の日、檀鏡神社祭禮の餘興として行はれる。

【小野篁舊跡】西郷町の西約二〇料、都萬村那久松尾山光山寺は篁の舊跡であると云ふ。承久六年篁隱岐に配流され、島前中島の海士村豊田野田郷に居つたが、後こゝに移つたと傳へられる。

【明神の松】〔指定天然記念物〕西郷町の北約一八料、中村尋常高等小學校境内にあり。防風林の名残である大小二株の黒松にして枝振美しく、大なる方は地上約一米半に於ける周圍七米四弱である。

【高尾暖地性潤葉樹林】

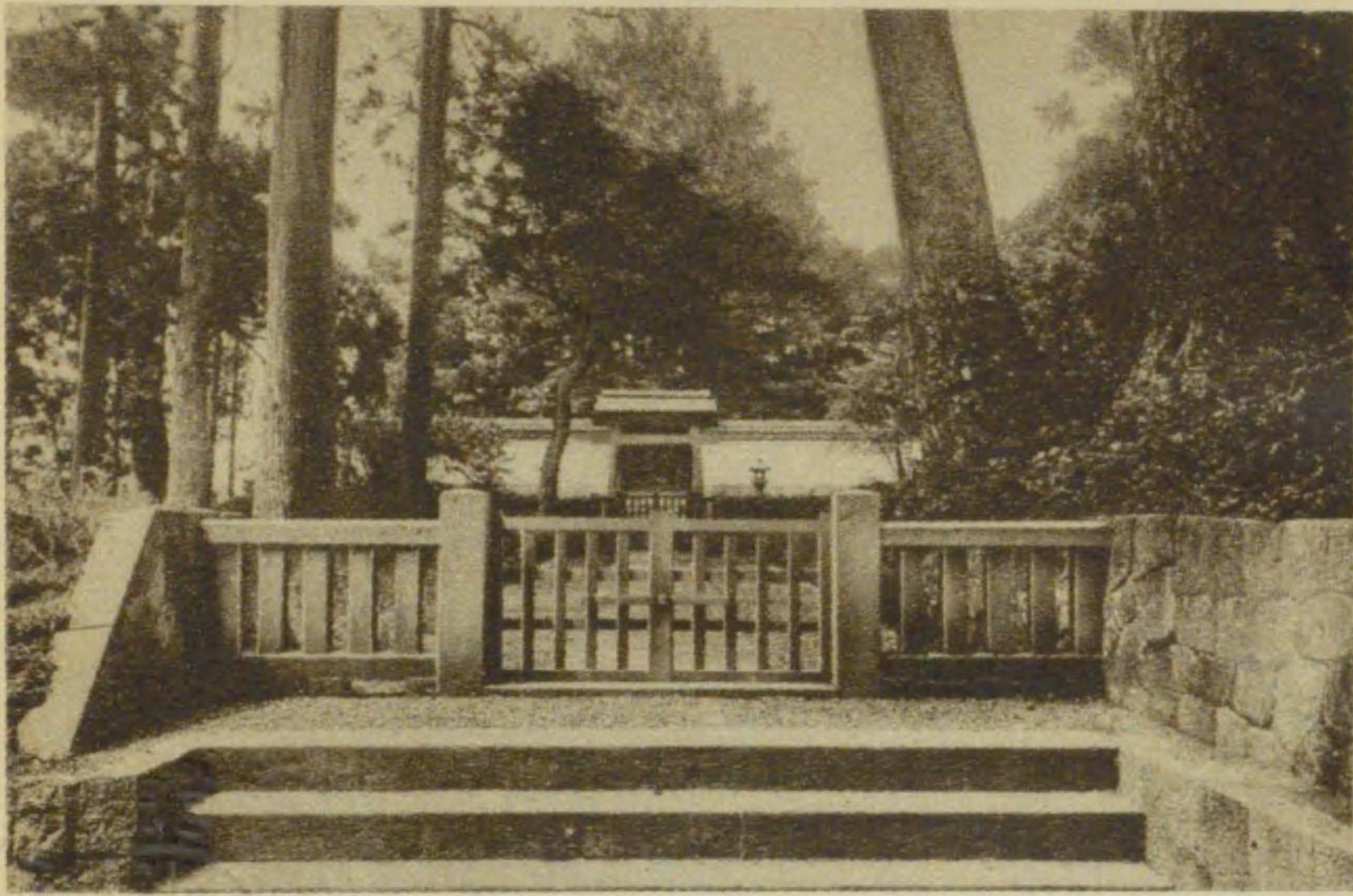
〔指定天然記念物〕 西郷町の北約

二〇軒、中村中字高尾にあり。樹種は主として檜類、さかき、ひさかきにして、少數のねずみもち、もちのき、つばき、しひのき、ゆづりは、しきみ、やまもも、かごのき等の暖地性常緑潤葉樹を交へて居る。ひめこまつ、くろべ、すぎ等の針葉樹、うりはだかへで、いたやかへで、かつら、みづなら等落葉潤葉樹は極めて僅である。樹梢よりは蔓性植物垂下し、附着せる羊歯、蘭類にはひもらん、なごらんの如く日本南部亞熱帯性植物の北限と見做すべき珍しいものもある。

【白島】 西郷町の北約二〇軒、中村西村にあり、白島埜及其の附近に散在する松島、小白島、沖島、白島四島嶼の總稱である。全島白色の石英粗面岩より成り、奇岩怪窟多く、青松參差名状すべからざる勝區である。こゝに大水凧島と稱する猛禽が栖息する。

【竹島】 隱岐島の西北一毛軒、日本海中にあり、二箇の岩嶼より成り、斷崖峭立、處々に洞門あり、海底深くして投錨困難である。海驢の蕃殖地で、西郷町の竹

島漁獵會社がその捕獲を營んで居る。住民はない。この島は洋人の稱するリヤンクール岩で、邦人はもと松島と呼んだが、明治三十八年島根縣の所屬となつて、現名に改まつた。日本海大海戰の際、我が艦隊は露國の第二艦隊をこの附近で追撃捕獲した。



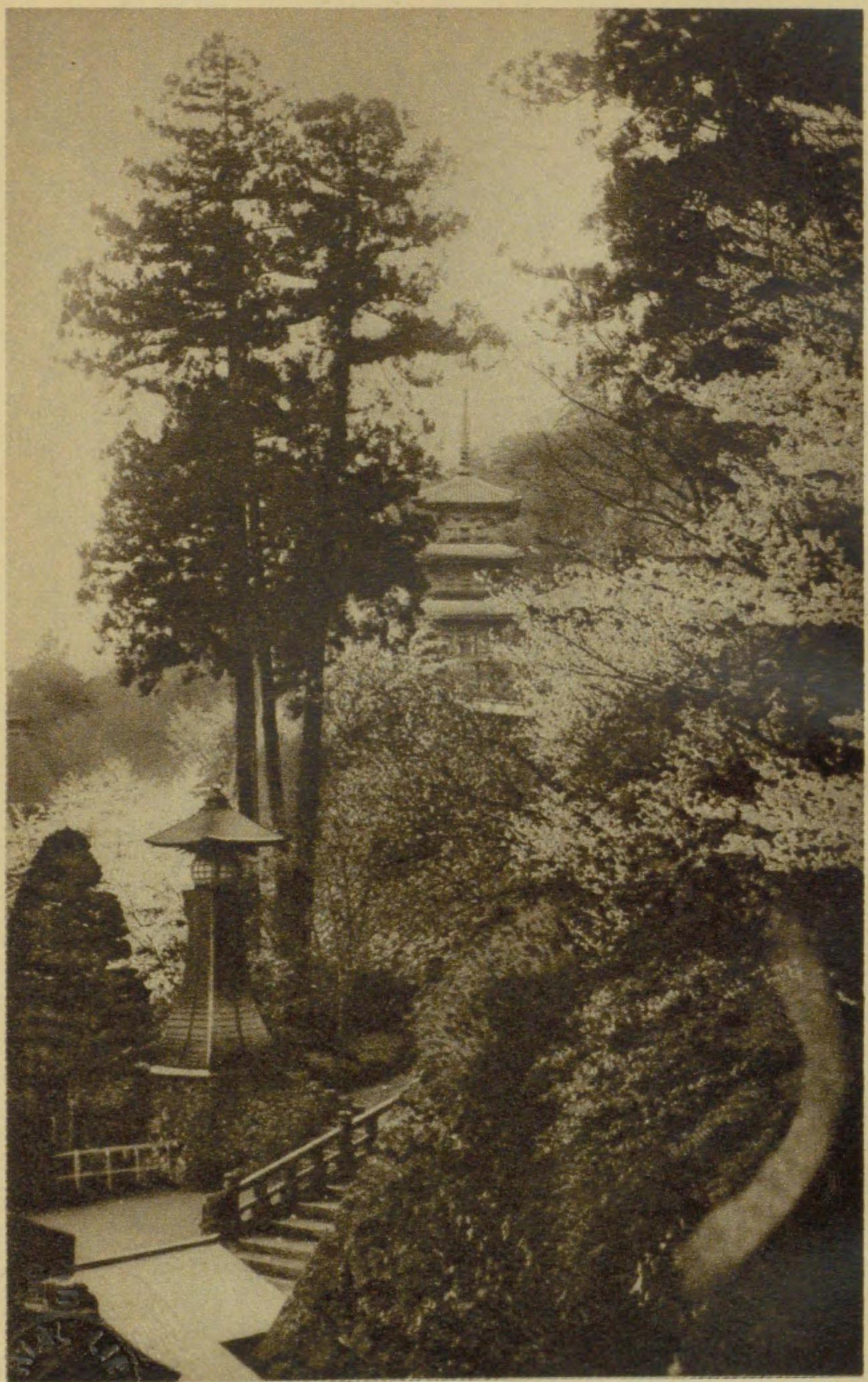
所葬火御皇上羽島後



港郷西岐隱

安來港





寺 水 清



米子 大社間

米子から西に向へば鳥取縣から島根縣に進んで、清水寺三軒九、安來四軒九を過ぎ廣瀬鐵道（荒島廣瀬間八軒三）の連絡驛荒島四軒八に至る。荒島を出ると右窓中海の風光を眺めつゝ、揖屋五軒六、馬瀧三軒一を通つて松江六軒六に着く。

【安來町】（二圖は3）安來驛所在地。中海南岸の商港で、製鐵が行はれる。この地は俗謠安來節の本場で、十神山、社日櫻等の名所があり、月の輪神事は安來名物の一つである。

この神事は陰曆七月十三日から三日間、近郷の男女が隊を作つて假裝をなし、太鼓、横笛等に和してはやしながら夜間町内を練り歩く奇習で、語臣猪鷹の靈を吊するものであると云ふ。猪鷹はその娘が鱈に足を咬まれて落命したため大いに悲んだことが出雲風土記に見えて居る。

【十神山】安來驛前。安來港の東を擁する海拔九三米

米子大社間

の小丘で、山容頗る雅美、松、樅等の樹木が全山を蔽ひ、翠影水に浮んで勝色がある。安來節で名高い山である。

【中海】（二圖ま3）宍道地溝帯の東部に位し、鳥取縣及島根縣に跨る。東は平坦にして蒼松長く連る夜見濱半島に限られ、その他の三面には山岳丘陵聳え、夜見濱半島の北端と島根半島の南岸との間にある中江瀬戸に依つて、外海と通じて居る。湖面の海拔零米、水質鹹味を帯び、鹹湖の一である。湖岸線は長さ九六軒に近く、南、西、北の三方に數多の出入を呈して居る。面積は二〇三万軒弱で、本邦有數の大湖である。水深は比較的淺く、最大一四米に過ぎない。湖中に大根島、江島（小大根島）等が浮んで居る。注入する河川は宍道湖の末流大橋川の外、飯梨川、伯太川等が主なるものである。湖中に赤貝、蝦、鰻、鱒、黒鯛等を産し、島根縣一年の漁獲高約十七萬圓に達する。米子松江間松江美保關間の定期航路は沿岸の諸港及大根島に交通の便を與ふ。この湖で使用されるソリコ船は構造奇異

なる和船である。風光の優麗なることは山陰沿線稀に見る所で、車窓からの眺望は旅情を慰めることが甚だ多く、船を湖上に泛べて大山を仰望する景觀もまた頗るよい。

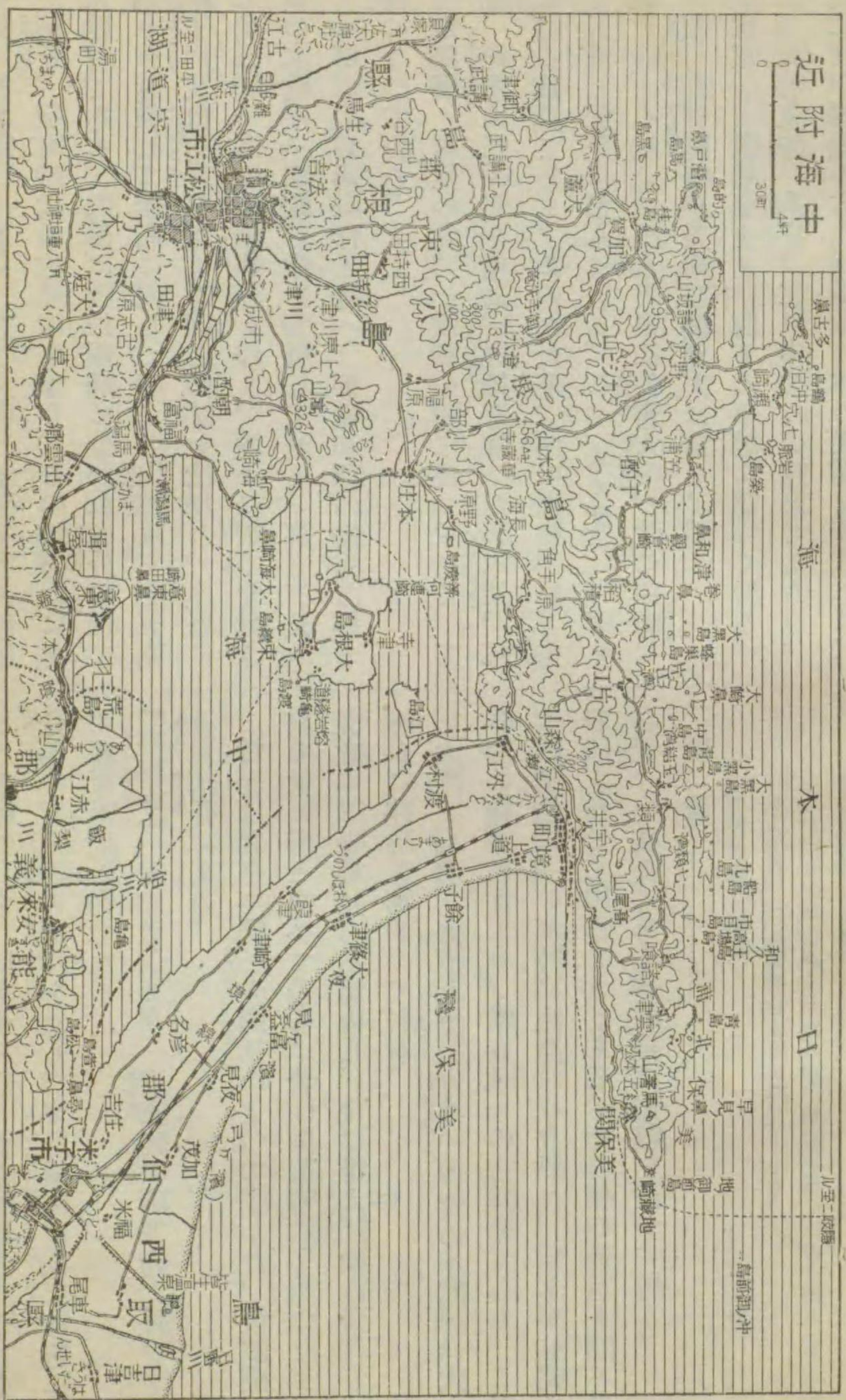
【大根島】 (二圖まる) 中海の湖心に位し、安來から南岸の波入まで定期船があり、松江美保關間を往來する船には、その西北入江に寄港するものがある。東西約三料三、南北二料二許で、形状楕圓に近く、面積約四万料である。島は玄武岩より成り、最高點も僅に三〇米餘で、傾斜極めて緩、地味肥沃にして、大根、薬用人蔘等を産し、牡丹も少くない。島の東端に熔岩隧道がある。

【大根島の熔岩隧道】 [指定天然記念物] 大根島の東端八束村運江にあり、大小二個あつて南北に位し、相通じて環状をなして居る。大なるものは南にあつて、長さ約六四米に及び、約五四米の所で約六米半の分岐を有し、高さは最大約二米四、幅は最大約七米三、洞穴は大體に於て楕圓で、上下に短く、左右に長い。入口

は上方に開け、右に入れば小洞、左すれば大洞である小洞を北すること少許にして西に廻り、行くこと約九米にして南に分岐を出す。分岐の大洞に連る所は土砂崩壊、伏して通ずべく、これを背擦と云ふ。小洞は更に西に延ぶこと二〇米餘にして行つまりとなる。背擦より南し、また東すること三四米許で、北に歸り、二九米餘にして出口に出る。

【清水寺】 [天台宗] 安來驛の東南約六料、自動車の便がある。宇賀莊村字清水、瑞光山の中腹幽邃の地にあり、春は櫻花、秋は紅葉美に富みて觀賞の客多く、花期は米子からも自動車の便がある。

當寺は推古天皇の御宇尊隆上人の創建で教寺と稱せしが、大同年間盛縁上人再興して清水寺と改めたと云ふ。後、永祿天正の間兵燹にかゝり内院の本堂を殘して殆んど烏有に歸した。現存せる古建築はこの本堂のみであるが、外に近世の造立にかゝる三重塔婆をはじめ、その他の堂宇山麓景勝の地に點在し、今尙雲州の古刹として名高い。



本堂（根本堂）〔國寶〕 七間七面、單層屋根入母屋造、柿葺、室町時代の建築にかゝり、この地方稀に見る大建築である。内部は内外兩陣に分かれ、外陣は二間通りを開放して參詣に便して居る。内陣は五間五面、部格子戸及板引戸を以て外陣との間を仕切り、奥壁に接して三間一面の大須彌壇を作り、壇上に厨子を置き國寶の木造十一面觀音像を安置して居る。高さ五尺六寸、寺傳に毘首羯摩作と傳へ、平安初期の優秀な作で祕佛になつて居る。

三重塔婆 本堂の北、一段高い所に建つて居る。方三間、桷組は三手先を用ゐる、尾極を加へた素木造、江戸末期の建築である。このあたり、西に島根半島、中海を見渡し展望に富んで居る。こゝより北につゞく春峯と稱する丘上に出ると東に伯耆大山、北に中海、弓ヶ濱、美保關等を見晴し展望美に富んで居る。

念佛堂 三重塔婆より一段下の平地に建つて居る。三間三面四注造、茅葺、江戸時代の小建築であるが、堂内には、國寶の木造阿彌陀三尊の坐像を安置して居

る。中尊の高さ二尺八寸八分、脇侍の高さ二尺二寸五分あり、來迎の形相をなし、姿態優美、衣文流麗にして藤原末期の作である。

【雲樹寺】〔臨濟宗妙心寺派〕 安來驛の南方約六料、宇賀莊村清井にある。

當寺は元亨年間三光國師によつて開かれ、後醍醐天皇の勅願所と傳へて居る。昔は伽藍宏壯であつたが、文政年間寺塔殆んど焼盡し、今は唯大門のみ残存して僅かに往時を物語つて居る。

大門 〔國寶〕 屋根切妻本瓦葺、四脚の小門で、大永年間の建築にかゝり、當寺唯一の古建築である。この門の構造について特に注意すべき點は、冠木が虹梁の形狀をなして居ることである。その他の構造も頗る珍奇で、小建築であるが莊重の姿態を持つて居る。

寶物

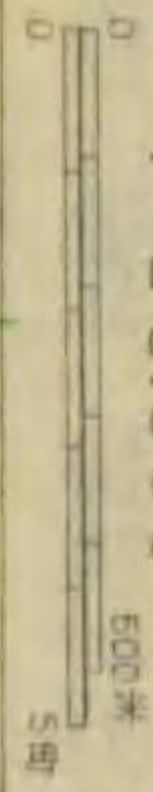
一三光國師像〔國寶〕

絹本着色。三光國師は當寺の開祖である。

上に正平廿五年の賛文があるが、剝落が甚しいので讀み難い。東京帝室博物館出陳。

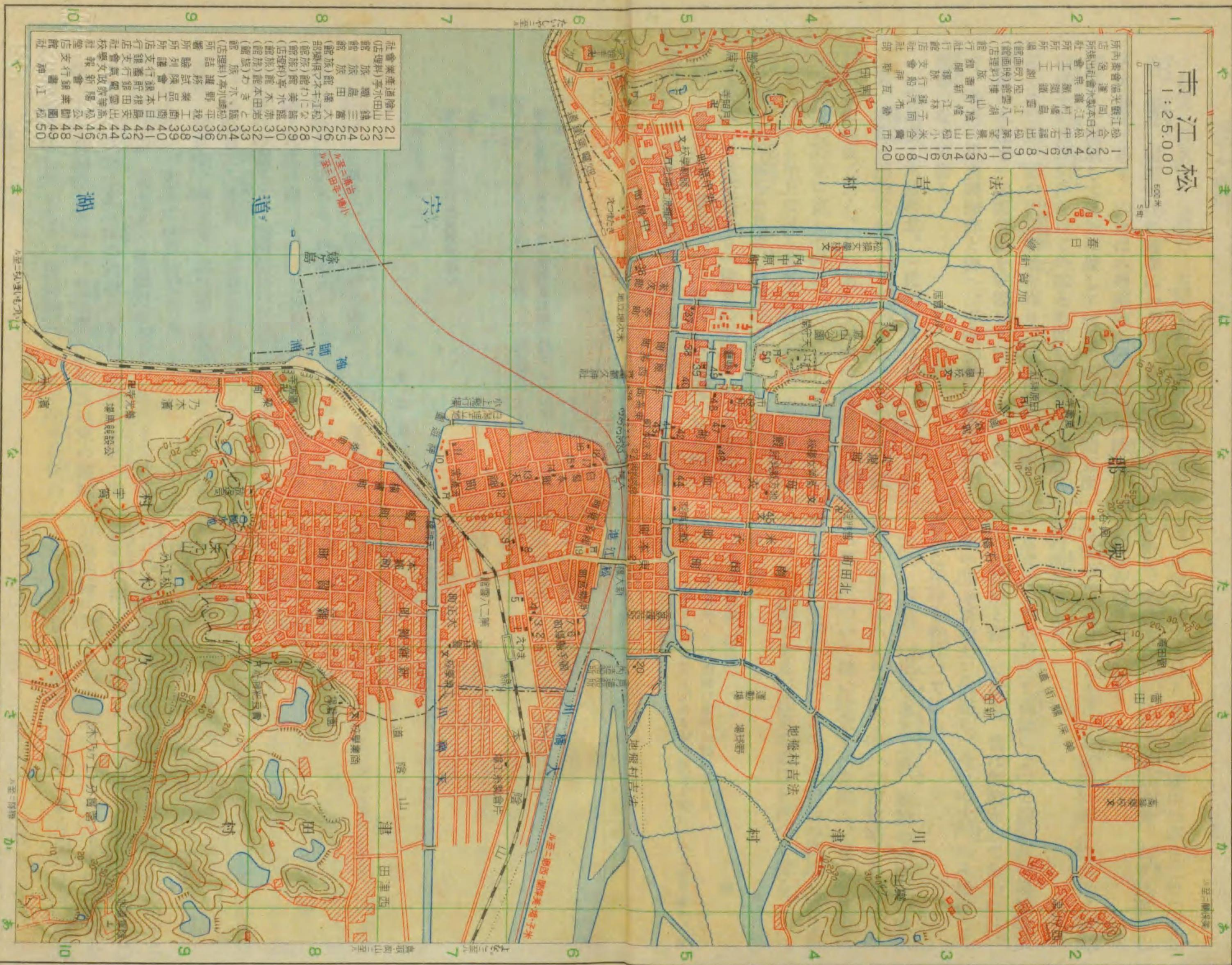
市江松

1:25,000



1 松山 2 江島 3 松島 4 松島 5 松島 6 松島 7 松島 8 松島 9 松島 10 松島
 11 松島 12 松島 13 松島 14 松島 15 松島 16 松島 17 松島 18 松島 19 松島 20 松島
 21 松島 22 松島 23 松島 24 松島 25 松島 26 松島 27 松島 28 松島 29 松島 30 松島 31 松島 32 松島 33 松島 34 松島 35 松島 36 松島 37 松島 38 松島 39 松島 40 松島 41 松島 42 松島 43 松島 44 松島 45 松島 46 松島 47 松島 48 松島 49 松島 50 松島

1 松島 2 松島 3 松島 4 松島 5 松島 6 松島 7 松島 8 松島 9 松島 10 松島
 11 松島 12 松島 13 松島 14 松島 15 松島 16 松島 17 松島 18 松島 19 松島 20 松島
 21 松島 22 松島 23 松島 24 松島 25 松島 26 松島 27 松島 28 松島 29 松島 30 松島 31 松島 32 松島 33 松島 34 松島 35 松島 36 松島 37 松島 38 松島 39 松島 40 松島 41 松島 42 松島 43 松島 44 松島 45 松島 46 松島 47 松島 48 松島 49 松島 50 松島



1 松島 2 松島 3 松島 4 松島 5 松島 6 松島 7 松島 8 松島 9 松島 10 松島
 11 松島 12 松島 13 松島 14 松島 15 松島 16 松島 17 松島 18 松島 19 松島 20 松島
 21 松島 22 松島 23 松島 24 松島 25 松島 26 松島 27 松島 28 松島 29 松島 30 松島 31 松島 32 松島 33 松島 34 松島 35 松島 36 松島 37 松島 38 松島 39 松島 40 松島 41 松島 42 松島 43 松島 44 松島 45 松島 46 松島 47 松島 48 松島 49 松島 50 松島

一銅鐘〔國寶〕

朝鮮高麗朝に鑄造された所謂朝鮮鐘に屬するもので、高さ一尺九寸六分、左記銘文は當寺に寄進された際刻書されたものである

銘

雲州瑞塔山天長雲樹興聖禪寺

應安七年甲寅十月一日

願主宗順

一口

【廣瀨町】(二圖ま4) 荒島驛の南約一〇軒、廣瀨電車及自動車の便がある。飯梨川一名富田川に沿ひ、三方山に圍まれ北に向つて開けて居る。松江藩の支藩松平氏三萬石の舊邑で、戰國時代には尼子氏の城下であつた。縣社富田八幡宮、尼子經久の墓、月山城址、大鼓壇址、岩倉寺、城安寺、新宮黨の遺跡等訪ふべき所が少なくない。名物に吐月糖がある。

【富田城址】〔指定史蹟〕 廣瀨町にあり、町の東方に屹立する山城址で富田川の右岸に臨む。一名月山城と云ひ、また富田城とも云ふ。尼子經久が父祖以來の舊城を擴張經營したもので、曾孫義久が三ヶ年間毛利氏の

米子大社間

大軍に包圍され籠城したので有名である。その後吉川廣家の居城となりしが、關ヶ原の役後堀尾吉晴代りて出雲に封ぜられ、慶長十二年城を松江に移すまでその居城であつた。廣瀨町の東から岩倉橋を渡り御子守口の路を登れば、子守社及岩倉寺あり、このあたりは御子守口の要害で、永祿八年毛利元就の來攻に際し、城主義久の奮戦した處である。岩倉寺の西に稍高く太鼓壇あり、尼子經久の設けた「時の太鼓」を打つた舊址と傳へ、今遊園地となる。その北に接する千疊平の遺址は、尼子氏以來居館とした所で、高き石垣を繞らし西端の崖に椎の老樹あり、また太鼓壇の西稍く低く書院址あり石垣を存し居る。岩倉寺の南方高所に堀尾吉晴の墓がある。本道を更に東に進めば御殿平に出る。こゝは大石垣と稱する石壁を繞らし大手、搦手の入口に古井戸竝に雄大なる石壁を存して居る。大石垣の下に鹽谷口(搦手口)の角櫓址、北方山手に菅谷口(大手口)方面通路に對する石垣がある。これより七曲の峻坂を上ると月山頂上の本丸址と推せられる遺址あり、諸處

に石壁を存して居る。附近に山中幸盛の記念碑、城の鎮守勝日高守神社がある。更にこれを南に下れば尼子經久墓がある。尙、城の外郭として城の東北に新宮谷あり、新宮黨の根據地で、大夫平と稱する場所に邸址存し附近に尼子國久父子の五輪石塔が存する。

【岩倉寺(岩倉山)】 廣瀬町富田にある。本尊聖觀音立像は元、岩倉檀寺の本尊で文治年間脇侍の帝釋天像と共に當地に移されたもので、寺傳毘首羯摩作と云ひ、木造高さ五尺八寸五分、平安時代の作である。脇侍の帝釋天立像は木造で、時代稍下り、高さ五尺一寸六分あり、本尊と共に國寶である。

【城安寺】 廣瀬町富田にある。正和年間僧源翁の開基にかゝる。寺寶の廣目天及多聞天立像(國寶)は二軀共に木造で前者は極彩色細金模様高さ三尺、室町時代の作にかゝり、後者もまた同時代の作である。尙寺に堀江友峯の畫いた月山古城繪卷を藏する。

【武内神社】 馬瀉驛の南約一軒、竹矢村宮内平濱八幡宮の境内にあり、武内宿禰を祀る。例祭は八月三十一

日で、神輿の渡御あり、賽客數萬境内に夜を徹し、地方の大祭である。三月十五日、十月三十一日の養盃安全祭には、農蠶具市が開催される。

【出雲國分寺址】 (指定史蹟) 馬瀉驛の西約二軒、竹矢村上竹矢寺領にある。田圃中、土壇あり、ダドコサンと呼び、土壇上礎石遺存し、古瓦破片も存して居る。礎石は低い圓柱座様の造り出しの中央に、更に低い圓形柄様の造出しを有する特異の形態のものに屬する。尙遺瓦は同村安國寺に所藏して居る。

尼寺址は上竹矢寺屋敷にありて、法華寺と稱し今小堂あり、礎石殘存し、遺瓦も多く存する。

松江驛 松江市朝日町

京都から 三五三軒五 十時間
大阪から 三七九軒四 九時間
下關から 三二六軒 十時間

▽一畑電氣鐵道 北松江、大社神門間 三七軒三

▽乗合自動車 熊野神社行、本庄村行、八重垣神社行、美保關行、大東町行、加賀行、横田行、片江行、玉造行、米子行 一日平均

瀧本町の南に續く天神町である。生産は昭和六年に六百萬圓弱で、その大部は工産が占め、工産の主なもの汽機、清酒、菓子等である。松江の珍味に蜆汁、鱸、鯉、公魚、白魚、鰻及蝦がある。

▽官公廳その他 市役所(殿町)、縣廳(同)、地方裁判所(母衣町)、稅務署(内中原町)、歩兵第六十三聯隊(市外津田村)、聯隊區司令部(同)、高等學校(市外川津村)、工業試驗所(殿町)、商品陳列所(同)、國藝試驗場(市外津田村)、放送局(雜賀町)、種畜場(市外乃木村)、商工會議所(殿町)、公會堂(同)、圖書館(同)、松江觀光協會案内所(驛前)

▽銀行 松江銀行(白瀧本町)、島根貯蓄銀行(殿町)、日本銀行支店(同)、日本勸業銀行支店(同)、安田銀行支店(末次本町)、山陰貯蓄銀行(天神町)、米子銀行支店(白瀧本町)

▽會社工場 合同汽船會社(白瀧魚町)、山陰道産業會社(東本町)、出雲電氣會社(母衣町)、合同運送店(朝日町)、大日本製水會社出張所(同)、松江鑛泉會社(同)、松江片倉製絲會社(市外津田村)、石橋鐵工所(御手船場町)、中村鐵工所(朝日町)、福島鐵工所(御手船場町)、竹内造船所(向島町)、望月造船所(同)、三島鑛詰所(東本町)、平野鑛詰所(末次町)

▽新聞社 松陽新報社(殿町)、山陰新聞社(白瀧本町)

▽旅館 皆美館(末次本町)、赤木館(同)、大橋館(同)、な

乗車人員 一、七四四人 降車人員 一、六九四人
發送貨物噸數 四二噸 到着貨物噸數 一三二噸

主要發送貨物 鮮魚(年二、三〇噸)、米(年五二噸)
主要到着貨物 人造肥料(年三、三〇噸)、セメント(年二、三三噸)

【松江市】 (一一圖) 松江驛所在地。宍道湖の東岸に沿ひ東西約三軒二、南北約四軒二、面積は約五方軒半である。南方と北方に山脈連互し東天遠く出雲富士を仰ぐ。市内は地勢概ね平坦、湖から出る大橋川が貫流して大橋、新大橋が架設され、同河の南に天神川があり、北には數多の水路があり、風光明媚なる水郷である。

この地はもと笠津と云ひ、一漁村に過ぎなかつたが慶長十六年、堀尾吉晴廣瀬の富田城を龜田山に移し、大橋川の北にあつた末次郷と南にあつた白瀧郷を併せて松江と稱した。堀尾氏から京極氏を經、寛永十五年越前宰相秀康の子松平直政信州松本から轉封、明治維新に至るまで十代二百三十四年間松平氏十八萬六千石の城下であつた。今島根縣々治、經濟等の中心で、人口四萬六千、山陰地方第一の都會である。市内で最も繁華な通りは大橋で連絡する白瀧本町、末次本町と白

米子大社間

にわ館(同)、岩田本館(同)、さきわ(茶町)、臨水旅館(茶町)、三島旅館(東本町)、錦織旅館(東本町)、富田旅館(東本町)、景山旅館(天神町)、同(殿町)、小林旅館(白濁魚町)

▽料理店 山田水亭(東本町)、松崎水亭(中原町)、臨水亭(末次本町)、望湖樓(灘町)

▽娯樂場 出雲劇場(寺町)、松江座(同)、松江キネマ俱樂部(末次本町)、第一八雲館(天神境内)、第二八雲館(寺町)

▽土産物 清酒、松江焼、樂山焼、布志名焼、瑪瑙製品、八雲塗、菓子、罐詰、蒲鉾、疊表

廻覽順序

松江驛—商品陳列所—城山—ヘルン舊居—菅田庵—八重垣神社

【天神遊園】(一圖な7) 驛の西約八〇〇米、天神町にあり、自動車の便がある。宍道湖に臨み、湖岸は料亭軒を並べ、貸ボート、屋形船を備へ、盛夏の納涼に絶の所である。園内に天満宮鎮座し、七月二十四、五日の祭禮は甚だ賑ふ。西南に見える島は嫁ヶ島で、月夜舟遊の人が多い。

【圓成寺】(臨濟宗)「一圖な8」 驛の西南約一軒半、榮町の小丘にあり、自動車の便がある。堀尾氏の菩提寺

【松江競馬場】(一圖な10) 驛の南約二軒、市外乃木村にあり、自動車の便がある。競馬は春秋二回に開催され、百數十頭の駿馬が出場し、走路の完全なことは關西稀に見るところである。

【宍道湖】(四圖あ2) 驛の西一軒六、一名を碧雲湖と云ふ。宍道地溝帯の中部を占めて、山岳南北より迫り水面の高さ僅に一米、湖形略矩形をなして屈曲極めて少く、湖岸線の長さ約五〇軒、面積は約八三方軒で、中海に及ばないが、我が國大湖の一である。水深は浅く、最大も六米四に過ぎない。注入する主な河川は斐伊川で、土砂を運搬して新陸地を造り、次第に湖面を東方に退縮させる。排水河は東にあつて、大橋川、天神川と呼ばれ、大橋川の中海に注ぐ所附近を馬瀉瀬戸と云ふ。以上の外、北岸の東部から佐陀川が起つて日本海に達して居る。島嶼は甚だ少く、嫁ヶ島が世に知られて居る。風光は中海よりも規模が稍小さいが、その絶佳なることは世人の賞嘆する所である。湖中に鱸、鯉、公魚、白魚、鰻等を産し、一年の漁獲高約一〇萬圓で

米子大社間

で、同家に關する遺物を有する。境内にある堀尾忠晴の墓は丈餘の五輪塔で「圓成寺神儀寛永十癸酉」の文字を刻まれて居る。圓成寺山西面の宍道湖岸を袖師ヶ浦と云ふ。二基の石佛汀に立ち、閑鷗浮び、沖に嫁ヶ島が浮んで居る。

【床几山】(一圖な9) 驛の南約一軒六、市の南境にある小丘で、麓まで自動車の便がある。堀尾吉晴が廣瀬から松江へ移城の際、こゝに登り床几に踞して湖山の形勢を相したところと傳へられ、松江を南から大觀するによく、公園豫定地である。こゝに市水道配水池明治二十七八年戦役記念銅佛、その他の記念碑があり附近に放送局がある。

【善光寺】(時宗)「一圖な9」 驛の南約二軒、市外乃木村にあり、自動車の便がある。宇治川の先陣に名高い佐々木高綱の創立して餘生を送つた處、本尊は源頼朝の守本尊であつたと傳へて居る。境内に高綱の納骨塔及乃木大將一家の齒髮塔がある。乃木大將は高綱の後裔で、在世中屢々參拜された。

ある。航路は松江を起點とし、湖西の平田、佐陀川河口の古浦等に至る。

【嫁ヶ島】(一圖な8) 袖師ヶ浦の西約三〇〇米、天神遊園からは西南一軒、宍道湖上にあり、屋形船、貸ボートの便があり、十五分で渡ることが出来る。面積約三〇アールの小嶼であるが、數株の青松、辨財天の小祠、花崗岩の鳥居があつて、湖上に一文字を描き、水郷松江の風光美の一焦點となつて居る。祠後に建つ嫁ヶ島詩碑に、永坂石埭の碧雲湖棹歌がある。

【大橋】(一圖な6) 驛の西北約一軒、自動車の便がある。宍道湖から流出する大橋川を横ぎつて南北に架設され、白濁本町と末次本町を連ね、長さ一四〇米、幅一〇米、唐銅擬寶珠は瀬田の唐橋に、橋欄は京都の三條大橋に模したものである。橋上からは東に出雲富士、西に宍道湖、三瓶山を望み、風光明媚である。この橋は下流の新大橋架設以前、橋南橋北間唯一の交通路であつた。

【松江港】(一圖な6) 驛の西北約一軒、大橋川にあ

り、東西約四八米、岸壁には五百噸級の船舶横著けとなり、上屋、陸上設備等も整ひ、宍道湖、中海の連絡をなすのみならず、境港を経て隠岐、朝鮮等の物資を集散する。起工は昭和三年度、竣功は同七年六月、工費十七萬圓。

【松江城址】「指定史蹟」 驛の西北約二軒、市内龜田山にあり、自動車の便がある。千鳥城と呼び慶長十六年堀尾吉晴ここに築城したのを濫觴とし後、寛永十年堀尾氏嗣絶えて京極高次これに代り、同十四年高次卒し、翌年松平直政移封せられ爾來子孫世襲して十代二百三十四年の長きに亘つて居城した。直政より七世、治郷（不昧公）の時は治績見るべきものありて古來中興の英主と稱せられる。濠壘完存し、天守閣は慶長當時の遺構と云ひ、基底東西二二米、南北二〇米、高さ二七米の五層樓で最上段に聳え、松江に入る觀光客を最初に喜ばせるものである。今城址は城山公園と呼ばれ縣社松江神社があり、また藩祖なる松平直政の銅像が建つて居る。

【城山公園】（一一圖は4） 龜田城山の一郭で、約二、八六メートル、山陰地方唯一の天守閣聳え、最上層の天狗の間は松江を大觀するに由い。附近に松平直政初陣の銅像、松平直亮撰松江城碑、西南之役雲石隱戰功記念碑があり、天守臺から下つた所に縣社松江神社、興雲閣がある。更に低い所に築城の昔を語る二本松があつたが今は一本となつて居る。この邊からも松江の市街を見下し、大山の雄姿湖上の白帆等も望まれ、景觀筆紙の及ぶ所でない。天守臺から二本松臺へかけて春は花の霞が棚引き、他の季節にも遊覽の客が多く、休憩の設備がある。

巨樹くろがねもちは目通幹圍約四米高さ一五米に及び、根本から三米の高さで、西方に一大支幹を出して居り天然記念物に指定されて居る。

【松江神社】「縣社」（一一圖は4） 城山公園天守臺上りの南にあり、藩祖松平直政、松平治郷及堀尾吉晴を合祀してある。

本社は市外川津村樂山から移轉したのもとも樂山

神社と呼ばれた。社域に川田斐江撰の樂山神社碑が建つて居る。

【ヘルン舊居】（一一圖は3） 驛の西北二軒半、市内北堀町にあり、自動車の便がある。城址北縁の濠端に臨み、もと舊藩の家中屋敷で玄關、庭園、座敷等舊態を遺存して居る。ラフカディオヘルン（小泉八雲）が明治二十四年五月から同二十五年十一月までの十九ヶ月間住居した所である。ヘルンは美の日本を題材とした數多の文學的作品を遺し、我が國に歸化して歿した英文學者である。今隣地に記念館建設中である。

【松江運動場】（一一圖は4） 驛の北約二軒、法吉村にあり、面積約三、四アール、約四萬人を容れ、スタンドは五千人を收容し、毎年五月全山陰道陸上競技選手權大會が開かれる。東隣の松江野球場は面積凡そ一、七〇アール、一萬八千人を容れる。

【普門院】「天台宗」（一一圖は4） 驛の北約二軒、市内北田町にあり、もと市外川津村にあつて、藩主堀尾吉晴の祈願所であつたが、寛永中松平氏封を襲ぐに及んで

こゝに移轉した。門内左方に芭蕉堂があり、松江の工藝美術家荒川龜齋作芭蕉の木像を安置し、當市の俳匠山内曲川筆芭蕉堂の扁額を掲げてある。本堂は規模が小さいが、その後、観月庵と稱する茶室がある。藩主であつた不昧公が屢々訪つれた所と云ふ。庭内に詩僧儒家の碑がある。

【田原神社】「縣社」（一一圖は2） 驛の西北約二軒半、市内奥谷町の丘陵にあり、途中まで自動車の便がある。天兒屋根命、武甕槌命、經津主命、姫大神を祀る。境内楓樹に富み、秋は美觀を呈す。櫻藤躑躅も多い。

【菅田庵】「指定史蹟・名勝」（一一圖は1） 驛の北四軒、川津村菅田、有澤家邸内にあり、途中まで自動車の便がある。享保四年、松江藩家老有澤式善がその山莊に設けた茶室で、藩主松平不昧（治郷）の指圖によつたものと云ひ、茶屋菅田庵の外に待合席風爐屋、庭園等を附屬して居る。山莊入口の門を潛り坂道を上り池畔を過ぎ、露地より待合風爐屋に進めば菅田庵に達する。二疊、代目附で中板、床間は洞床で屋根茅葺、破風内

に懸つて居る「菅田菴」の陶額は不昧公筆に成り不昧公好みの風爐屋また舊態を存して居る。明々庵有澤宗意の作にかゝると云ふ森閑たる茶庭がある。

向月亭は水屋によりて菅田庵と隣接し、四疊半、茅葺、亭前の砂庭は亭と共に不昧公の弟爲樂庵雪川の指圖と云ひ、前面の展望快濶、山莊中最も景勝の地を占める。亭内に雪川筆の木額がかゝつて居る。

亭の東北に明々庵茶室あり、有澤明庵々宗意のため設計された茶屋と云ひ、その東南にある古茶屋と呼ぶ建物は、松平直政の時月照寺靈屋の餘材を以て作る所と云ふ。

丘溪より成る園地は眺望豊かに、樹木に富み、老松あり、櫻樹、楓樹の景觀を有し、その間幽邃の境地を選びて設けられた茶亭はよくこれと調和し、全體の結構が整美である。

【樂山】 驛の北約三軒半、市外川津村市成にあり、老樹の茂る小丘で御山とも呼ばれ、寛文元年藩主松平綱隆が別莊地として開拓した所である。今は荒廢して辨

平の大龜の石碑、小林如泥作の廟門、數百基の花崗岩の燈籠等見るべきものが多い。

【天倫寺】 「臨濟宗妙心寺派」 驛の西三軒、法吉村國屋、一畑電鐵濱佐陀驛の東宍道湖畔にある。寺は慶長十六年國守堀尾吉晴の草創にかゝり、妙心寺の春龍和尚を開山とし、寛永十六年藩主松平直政、信濃松本より東愚和尚を請じたが、元祿年間東愚の弟子唯山和尚あり先師歴代の法燈を挑げ衆寮、經藏を經營した。毛利元就の白鹿城を攻むるや、本陣をこゝに構へたことがある。境内鐘樓にかゝつて居る銅鐘は、朝鮮役の際將來した所で、高さ二尺八寸、口徑一尺七寸五分あり、飛天、天蓋、坐佛、樂器その他のものが美しく現され、左の鑄出銘があり、國寶に指定されて居る。

高麗國東京内廻眞寺佛弟子釋口奉爲
聖壽天長國泰人安普勸有緣 者三千餘人 人香徒布檀奉敬造 金鍾
一軀 辛亥四月八日 記

この他饅頭形のあたりに十三箇の短冊形の鑄上げを造り、その各々に左の文字を現はして居る。

「夢言金口」「副棟梁光孝」「法賢融談」「玄徳大内」「金貞口口」「崔叶口

天池、櫻馬等僅に當時の 佛を存する。春秋の散策に適當の地である。城山公園に鎮座する松江神社はもとこゝにあつた。附近から樂山燒を産する。

【樂山燒】 驛の北約三軒半、川津村市成に産する陶器で御山燒とも云ひ、出雲燒の一つである。創業は延寶年間て長州萩の陶工倉崎權兵衛がこゝに窯を開いた。その後一旦中絶したが、享和元年に至り、藩主不昧古名器の長所を採り、布志名から移住した長岡住右衛門をして茶器を作らしめ、子孫その業を繼ぎ、主として雅致ある茶器を製して居る。長岡氏宅の附近に陶工權兵衛記念碑がある。

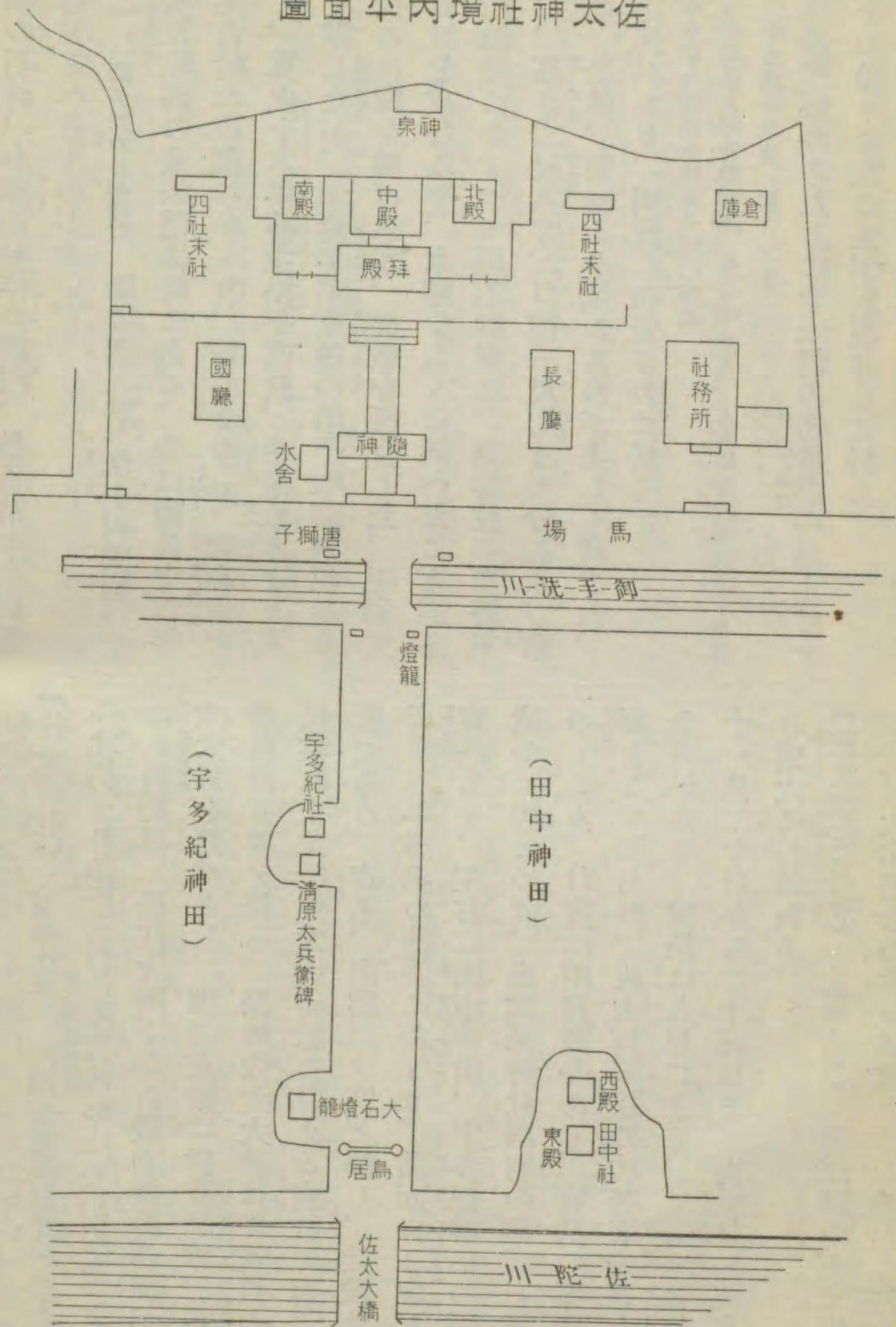
【月照寺】 「淨土宗」 松江驛の西北約二軒半、一畑電鐵北松江驛からは西北六〇米弱、市内外中原にあり、途中まで自動車の便がある。寛文四年藩主松平直政が生母月照院のために建立したもので、松平家の菩提寺である。もと輪奐壯觀であつたが、今は唐門、鐘樓を存するに過ぎない。松平家累代の墓地は後林にあつて、廟は最左端に於ける直政のを始とし十一を數へ、天愚孔

□「哭叶助□」

【佐太神社】 「國幣小社」 一畑電鐵許曾志または濱佐陀の北約三軒、佐太村佐陀宮内の三笠山の麓にあり、市内から自動車、松江大橋下から發動機船の便がある。佐太大神を祭神とし、別に左殿に伊弉諾尊、右殿に伊弉册尊外五神を祭る。祭神佐太大神は神魂神の孫神で、出雲風土記に佐太御子社と見える古社で且、式内の神社である。古來、出雲二ノ宮と稱し、社殿は大社造で貞享四年藩主の造營にかゝり、前面に丁字形の堅横の賽路あり、左右に田中神田、宇多紀神田の兩舊神田が遺つて居るのは、出雲系神社固有の型式を遺存したものである。什寶に甲冑數多あり、賽路の櫻樹は佐陀の櫻として知られ、佐太川開鑿の功勞者清原太兵衛の記念碑がある。例祭は九月二十五日て御座替祭と稱し、十一月二十日から二十五日まで御忌祭（神在祭）があり盛大に行はれる。

【佐太講武貝塚】 「指定史蹟」 松江驛の西北約一〇軒。講武村大字名分の佐阪鶴灘と呼ぶ地から佐太村大字佐

圖面平内境社神太佐



陀宮内クツ川、御子垣、山崎等に互り、天明年間に開鑿した佐陀川の兩岸に跨つて存して居る。地下一尺乃至三尺の箇所に彌生式土器、石器、骨器、鹿骨、鹿齒その他の遺物が貝層中に包含されて發見し、日本海沿岸地方の貝塚として著しきものである。發掘品は附近の佐太神社等に所藏して居る。

【惠曇港】 驛の西北約一三軒、惠曇村にあり、松江から汽船の便がある。宍道湖から流出する佐陀川の口に位し、日本海主要の漁港で、各種の設備が整うて來た夏は江角、古浦の兩海水浴場に浴客が群集する。村内の手結浦に、維新の志士因幡藩訃問樊六一行の墳墓がある。

【丹花庵古墳】 「指定史蹟」 一畑電鐵古曾志驛下車、古江村古曾志丹花庵にある。上圓下方墳で三段に築かれ墳頂に石棺の蓋が露出して居るが、蓋は一石を剝抜いたもので、長さ約二米、幅一米餘、表面蒲鉾形を呈し荒い網狀紋を陰刻して居る。棺身は板石を組合せたもので、底部の兩端に各一個の繩掛突起が附いて居る。

【枕木山】 驛の東北約一二軒、本庄村にあり、松江から途中まで自動車及船の便があり、山上までの自動車道の完成も近い。山は海拔四五米、古木鬱蒼、莊麗な華藏寺のある所で、眺望雄大、中海の烟波、大天橋の青松、大山の靈峯、美保灣、地藏岬、松江の市街、宍道湖等双眸に集まる。晩秋滿山錦繡を織り出し、盛夏は避暑の好適地である。

【華藏寺(枕木山)】 「臨濟宗禪寺派」 枕木山の半腹にあり、天長二年智元上人の草創で、明曆三年松平直政、濟遍禪師を聘し再興せしめた。藥師堂、釋迦堂、山王堂等あり、藥師堂の本尊藥師如來坐像は木造、高さ二尺九寸五分、藤原初期の遺作で國寶に指定されて居る。山内古木老杉鬱蒼とし、前面の展望が宜い。

【美保關町】 (二圖は3) 松江驛の東北約三二軒、自動車道の便があり、松江港から本庄、境等を経て汽船便もある。美保神社鎮座の地で、亭樂の港町である。佛谷寺、五本松公園、地藏岬燈臺等も巡覽すべき所である。【美保神社】 「國幣中社」 美保關町にあり、松江及境か

ら汽船の便がある。美保棧橋から神社まで三〇〇米。當社は「えびす神」と稱して名高く、今の本殿は江戸末期に造営されたものであるが、その創建は遠く上代にある。祭神は大國主神の御子事代主神で、父大國主神が天孫に國讓の時直にこれに同意し、自らは八重の蒼柴籬を作り、船楫を踏みて神遊り給ひし神である。

例祭四月七日、當日は青柴垣神事があり、また十二月三日には諸手船神事が執行される。何れも祭神に關係の深い特殊神事である。

【佛谷寺】〔淨土宗〕三保棧橋の北約二〇〇米、美保關町にある。當寺は聖德太子の御開創と傳ふる古刹で、後鳥羽上皇や後醍醐天皇が隱岐へ御遷幸の砌御立寄になつたと云ふ寺である。尙當寺には國寶に指定された五體の古佛像がある。薬師如來坐像、聖觀音立像三軀及菩薩形立像の五軀で、何れも平安時代の木彫佛である。各像凡そ同時代の作で、刀法粗豪表現また質樸にして力強くこの地方の特色をよく發揮して居る。

【五本松公園】美保關町の西端丘上にあり、坂路約七

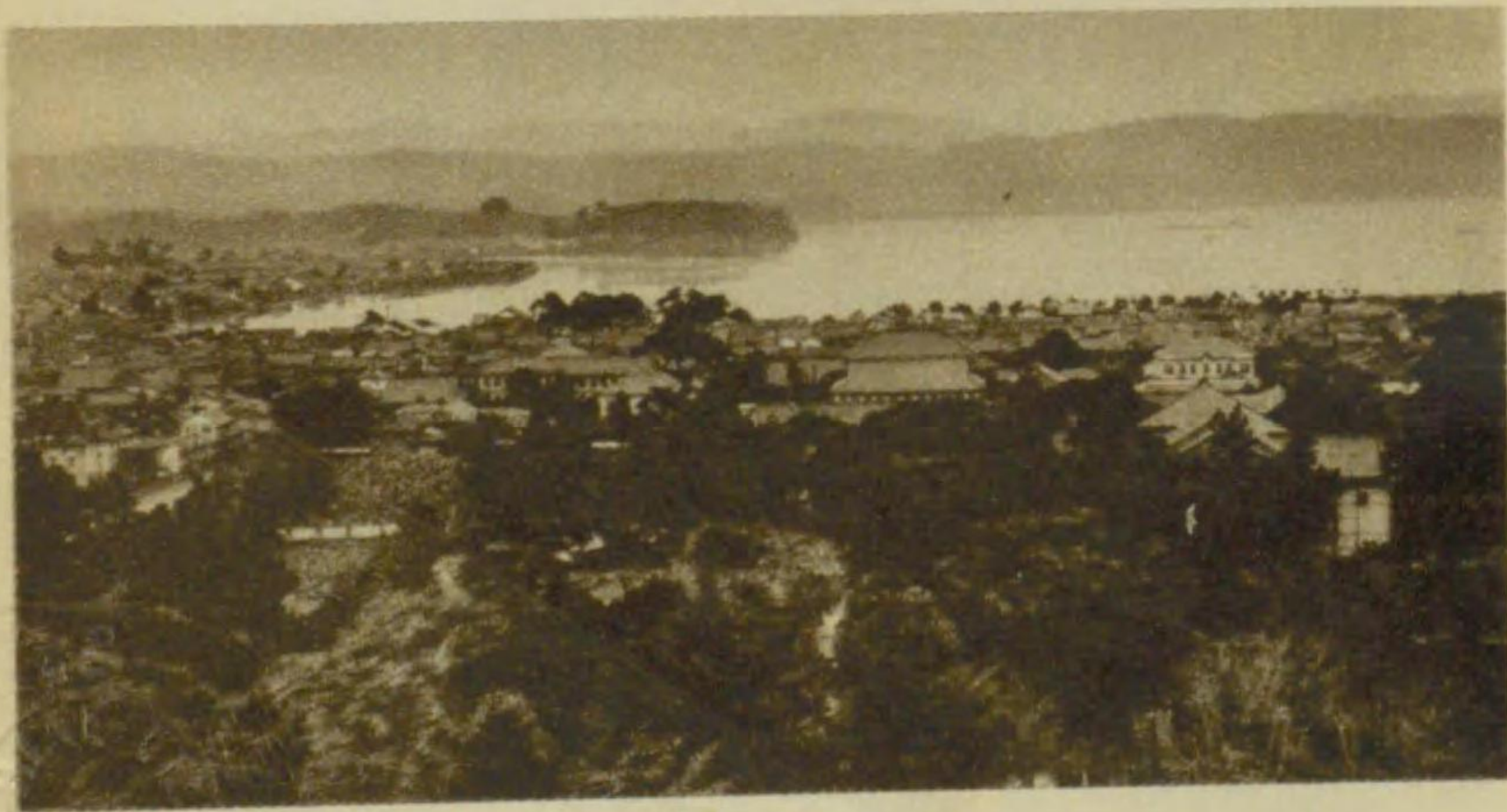
〇米に過ぎない。名は五本松であるが、今あるは四本で周圍何れも四米餘、傍に建つ標札に、關の五本松と記してある。こゝから美保灣を隔て、大山、大天橋、中海等が望まれ、一幅の繪巻物を見るやうである。約二〇〇米の上方に慰靈塔がある。海軍遭難死亡者のために建てたもので、鐵筋コンクリート高さ一四米に近い高塔である。

【地藏岬燈臺】美保關町の東端から約二軒、島根半島の東端地藏岬にあり、斷崖の上に建てられ、六十三萬燭光の電燈を裝置し、光達距離約四四軒の一等燈臺である。附近に地の御前、沖の御前の二岩礁があり、事代主命釣魚の舊跡と傳へて居る。

【美保の北浦】〔指定名勝〕島根半島東部の北側に日本海に面する部分で、美保關町美保關及雲津、片江村諸嶺にあり、伯耆の境港から同半島の西部惠曇港に至る汽船を利用して、勝景を觀賞することが出来る。凝灰岩を主とする第三紀層より成り、これを貫く安岩山質の岩脈が處々に存し、地層錯亂して斷層裂罅に富み、

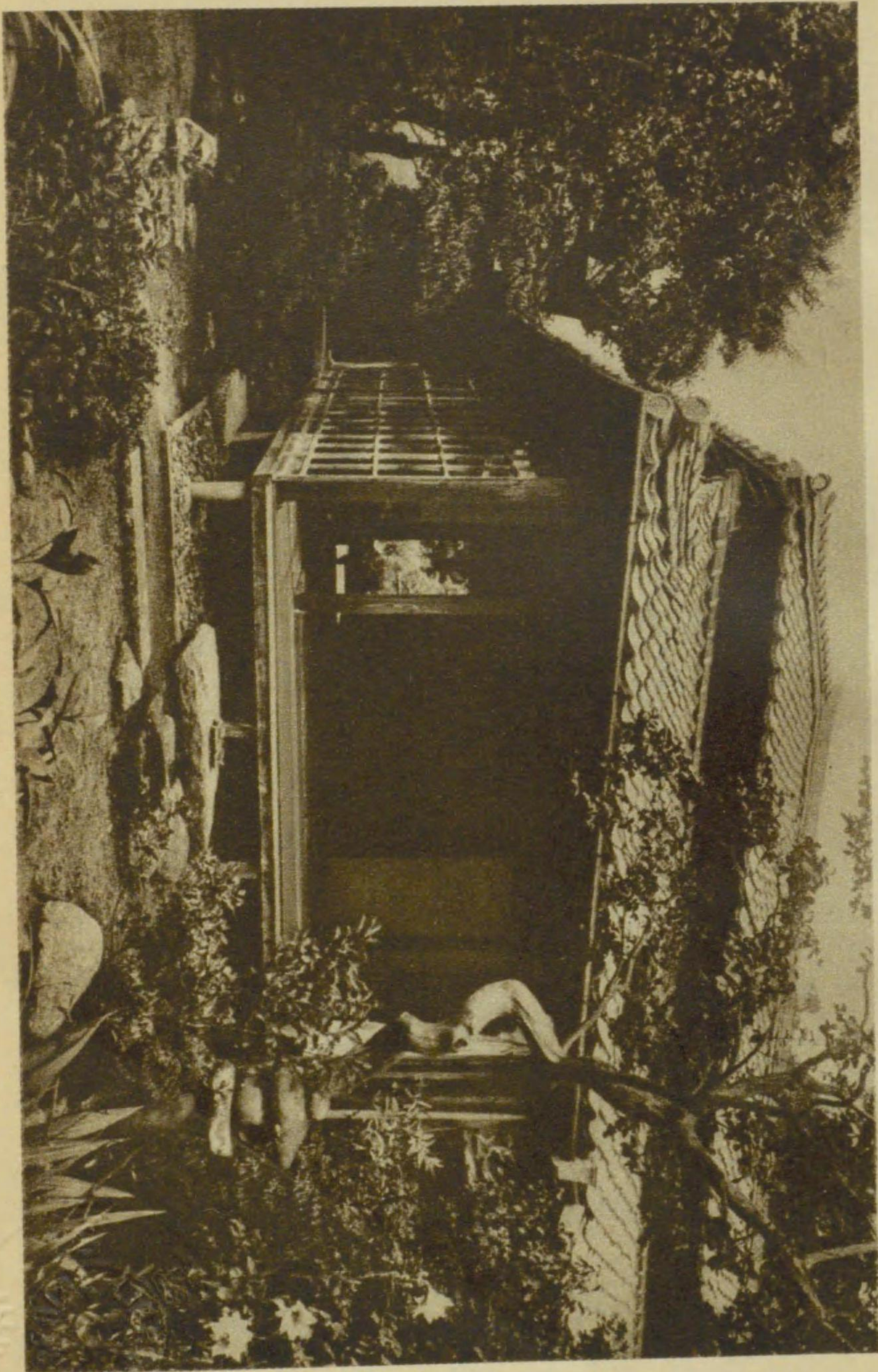


城 江 松



湖 道 尖 と 市 江 松

居 澤 ヲ ル ハ



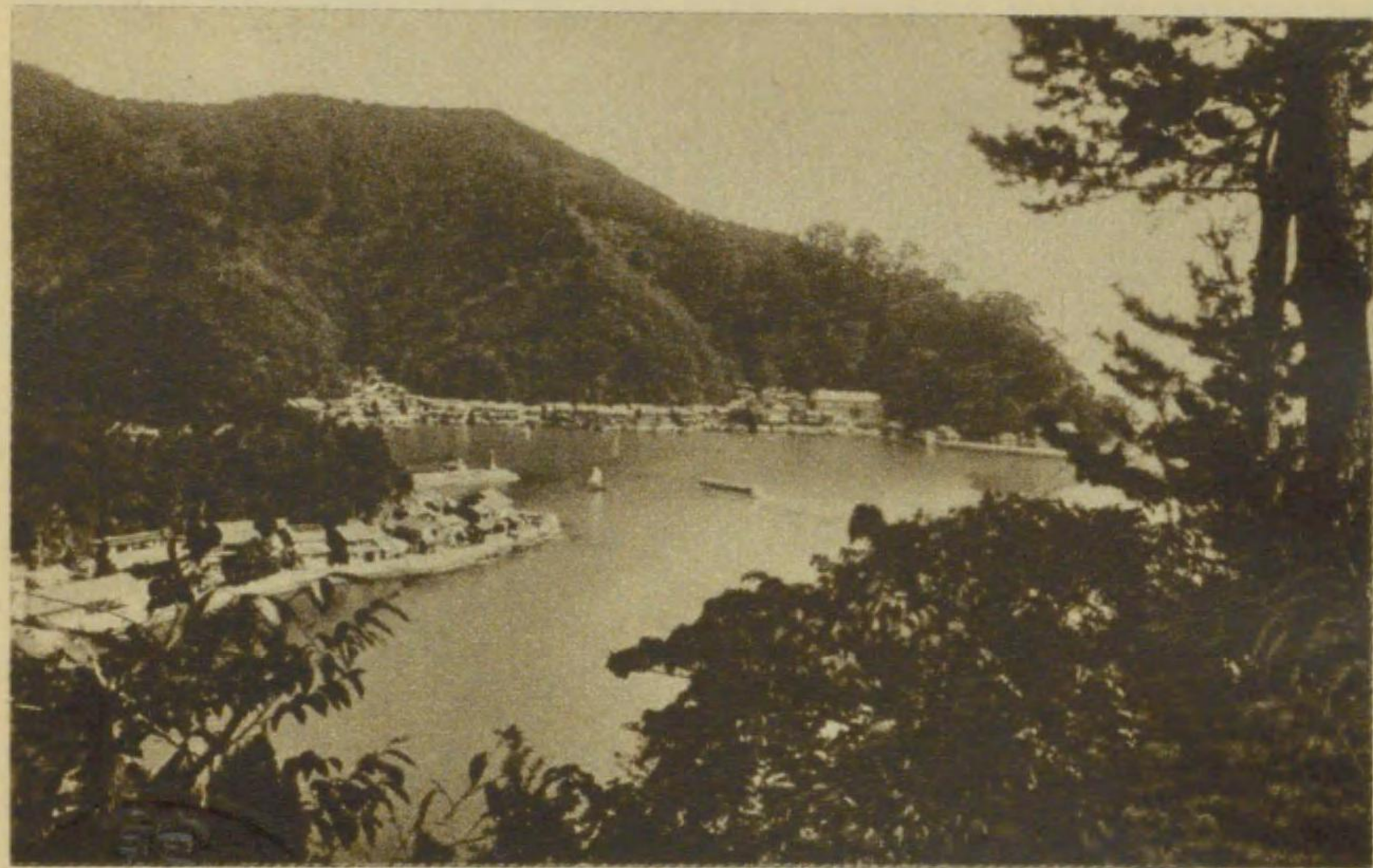


菅田庵

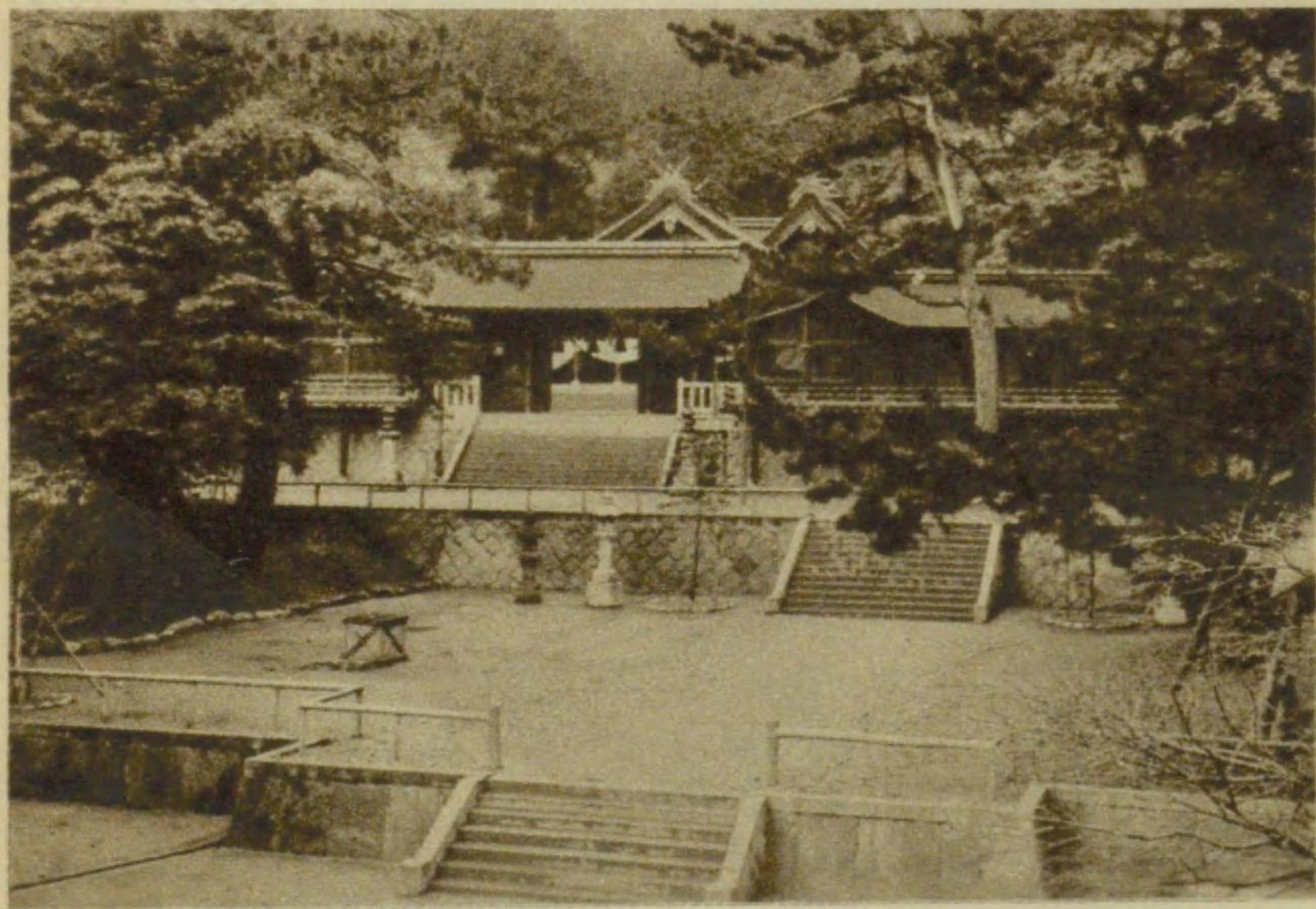


佐太神社

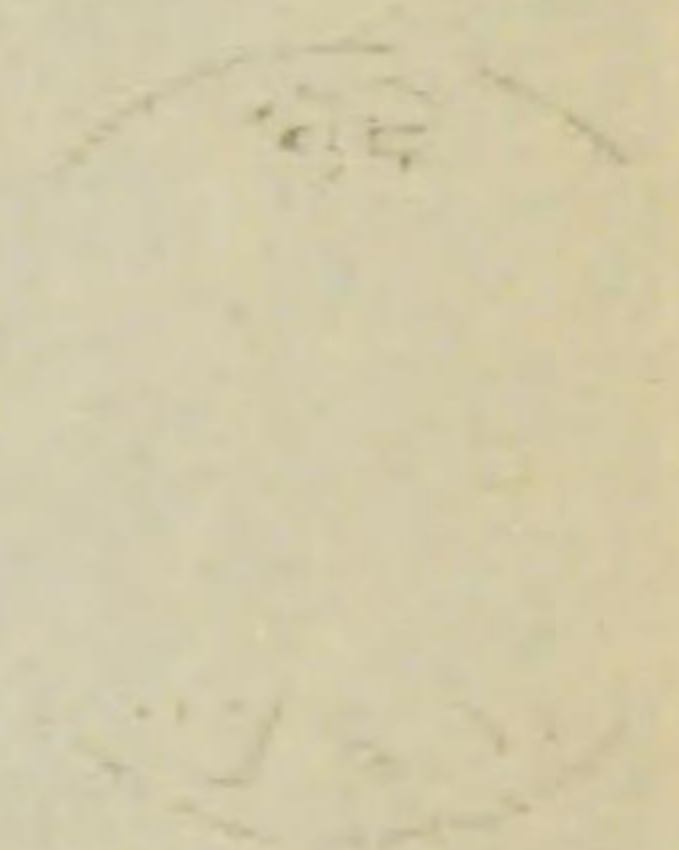


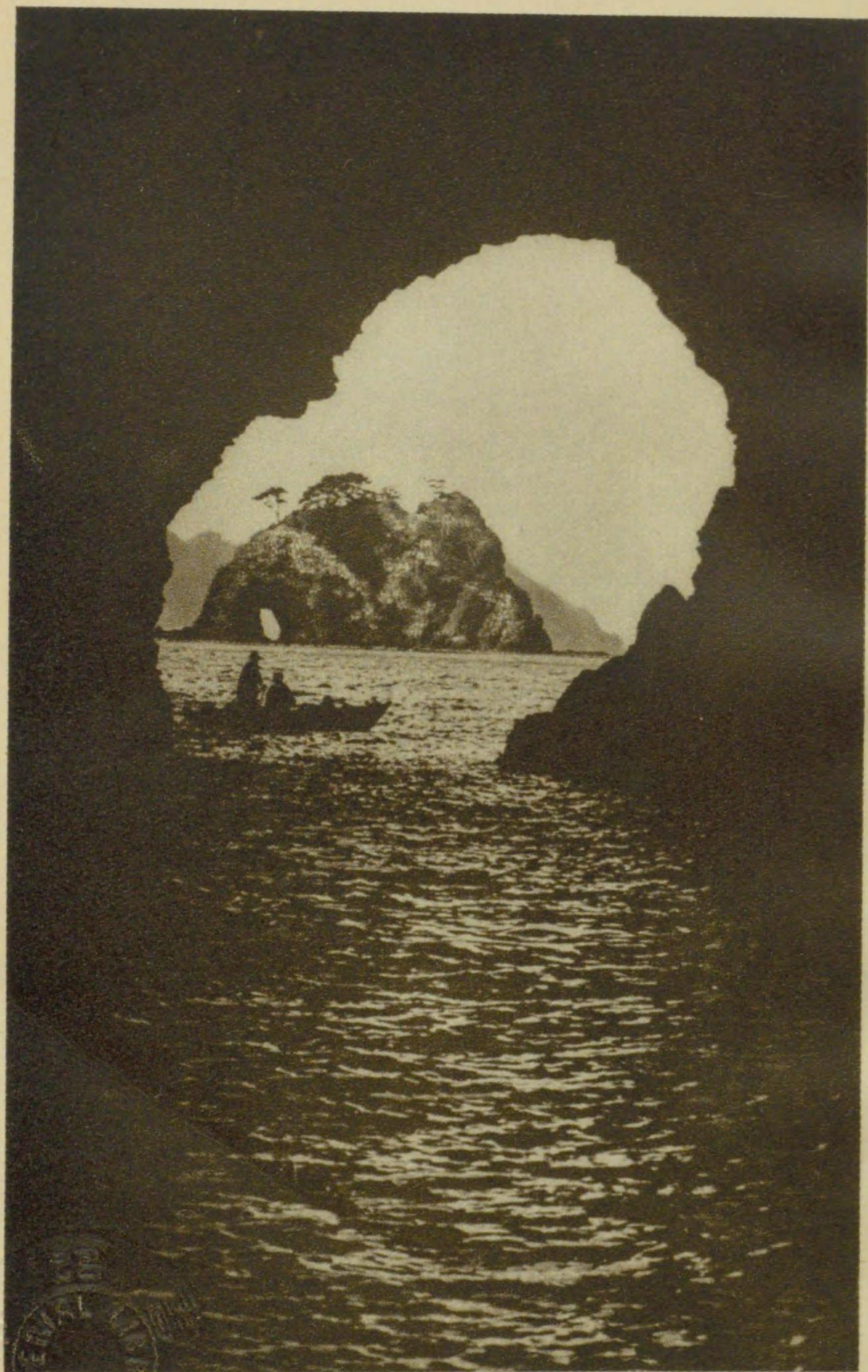


美保關



美保神社

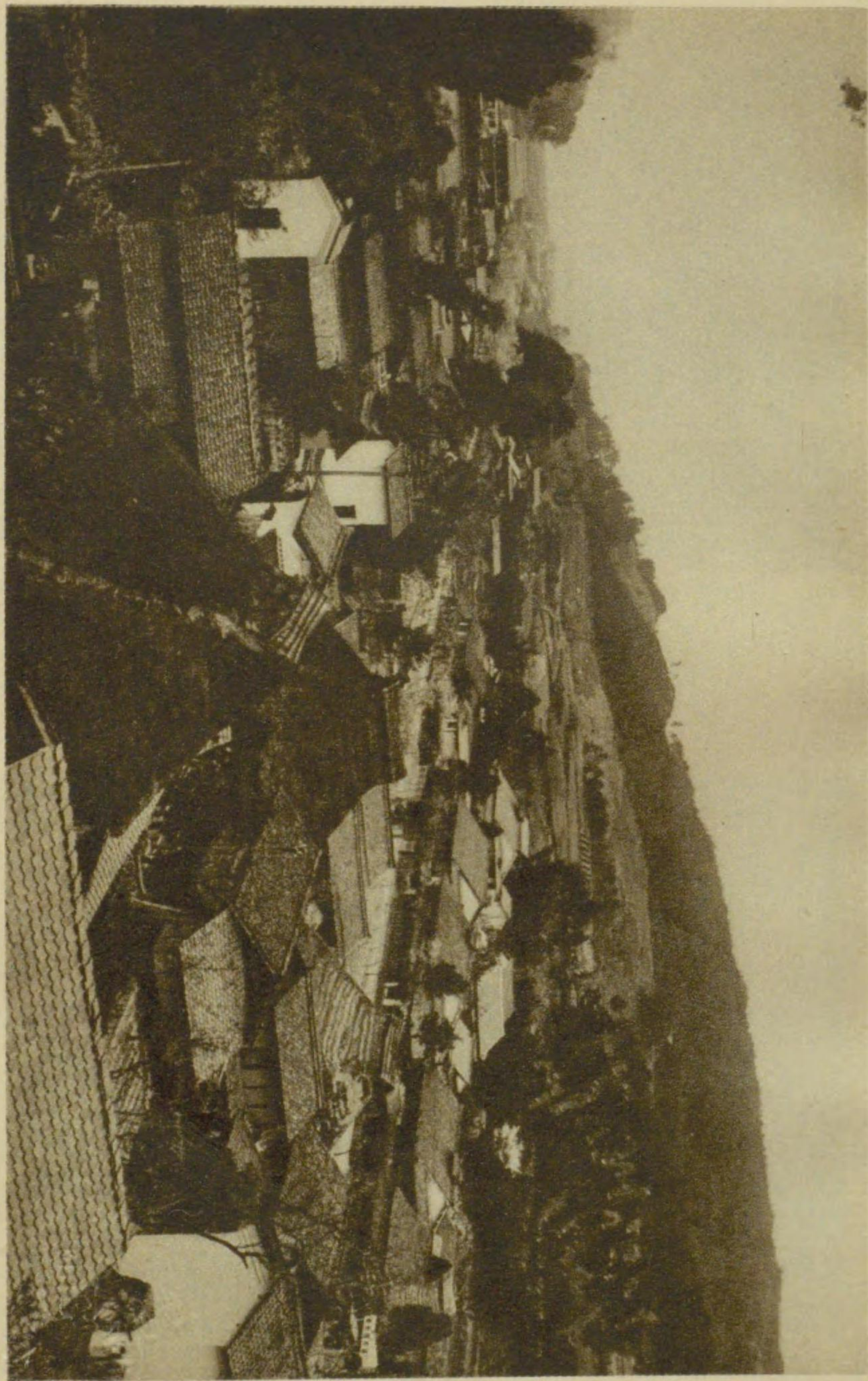




加賀の湊戸



泉 温 造 玉



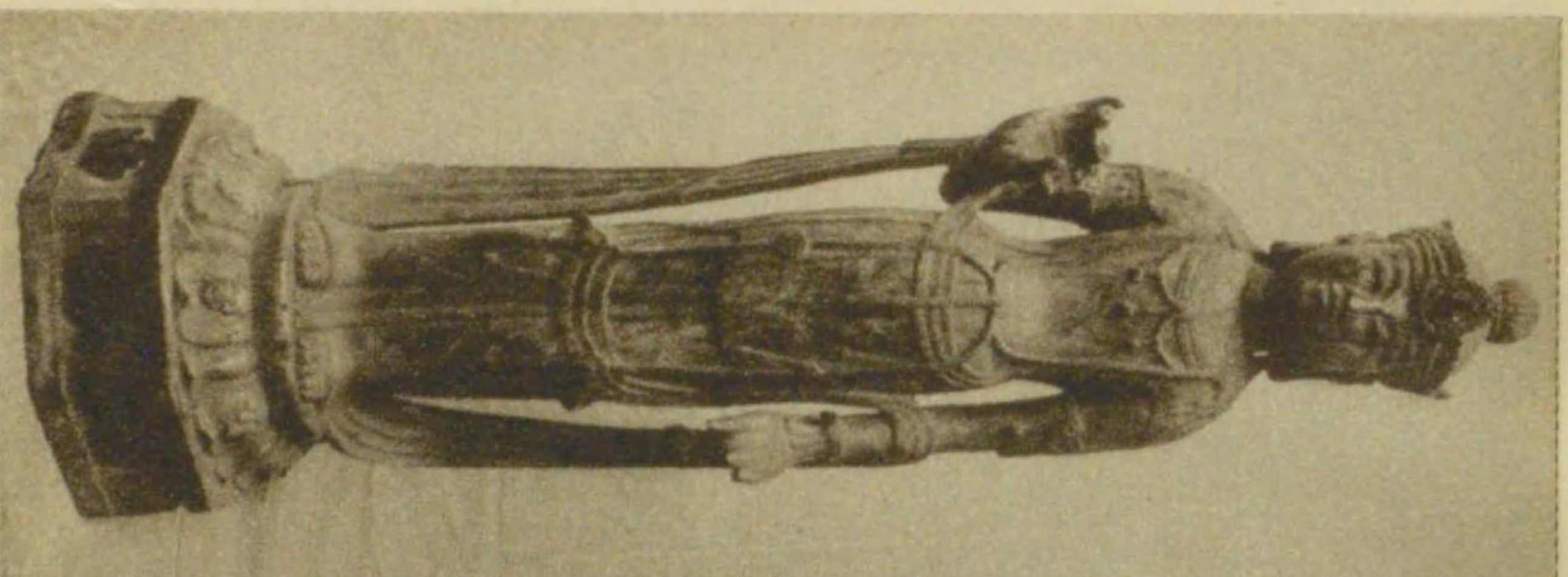


熊野神社



野洲寺



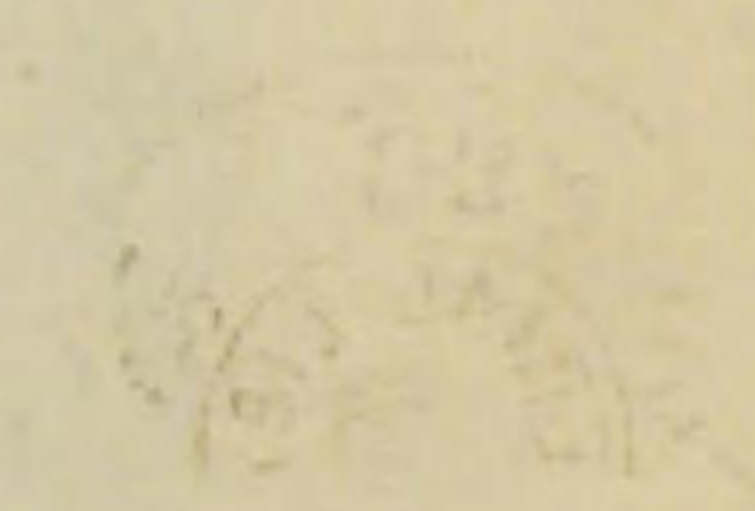
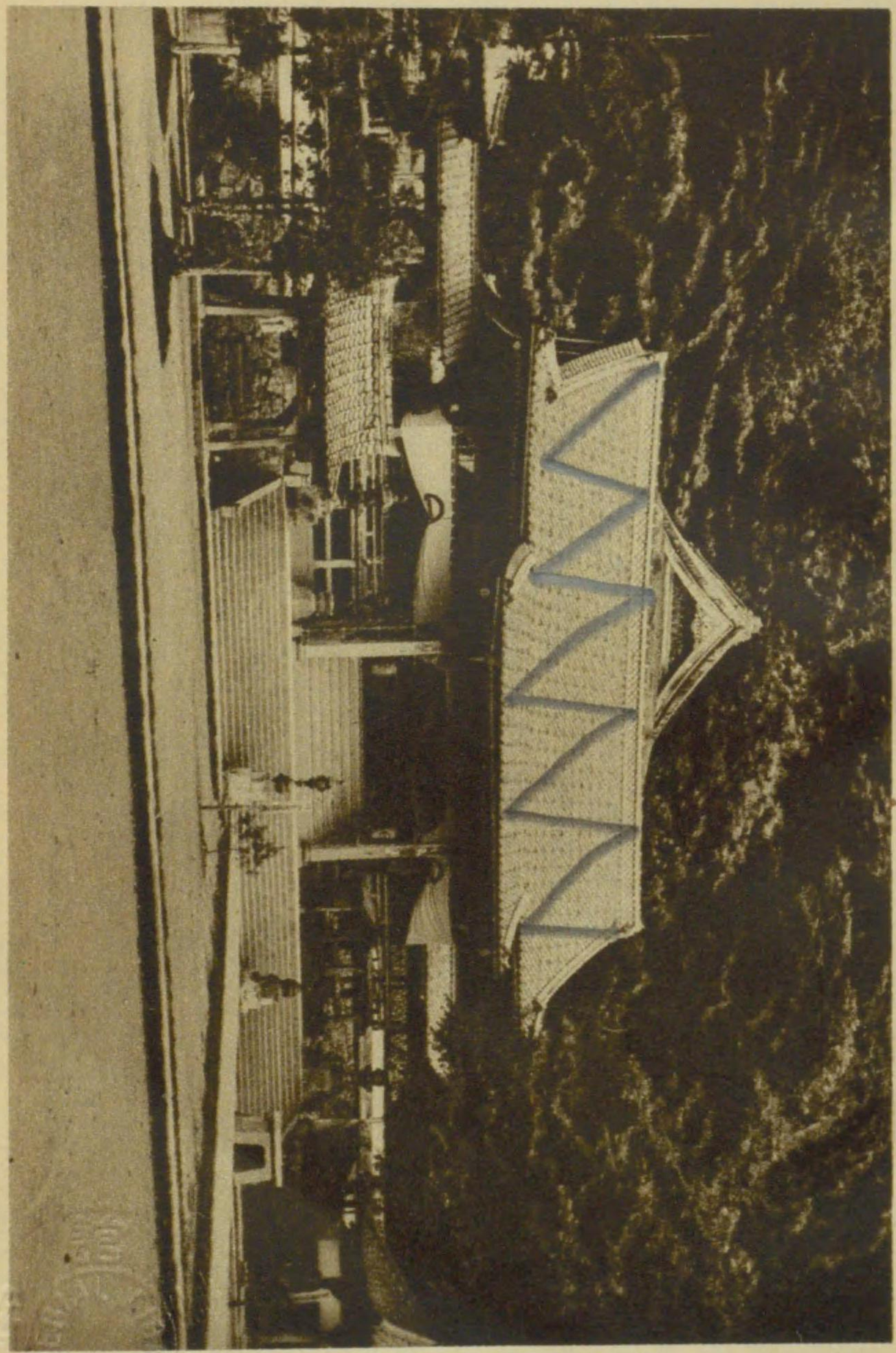


像音觀寺淵野

敬白
 茲願
 右心中所願速疾
 念成破者根本無障
 當造塔若造之其切
 可致願受之豐隆之
 狀如件
 元弘二年八月十日

文願御皇天關院後寺淵野

脚藥知一



北海の怒濤に洗はれて岬灣、絶壁、洞窟、岩礁多く、半島の南側と異つて風光雄壯である。

半島の東端地藏岬以西早見鼻までは眺望單調で未だ十分海岸美を發揮した所がない。早見鼻を廻れば漸く北浦絶勝區域に入り、才及輕尾の兩灣深く彎入する。輕尾灣以西の海岸は凝灰岩から成り、鐵分の分解に依つて赤褐色を呈する。出雲赤壁の名はこれに基づいたものである。赤壁は直立すること七〇米乃至八〇米、青島に面する處には凝灰岩を貫いた安山岩質の岩脈がよく柱狀節理を現し、海水の侵蝕に基づく二箇の洞窟があつて深さ約五五米、小舟を入れ得る。この邊海水紺碧を呈し、怒濤岩壁に衝突して轟々の響耳を聳し、白浪と碎けて飛沫四散する狀實に壯絶である。青島以東には平島、ビシヤゴ島、竹島、黒島、以西には小青島、赤島が横たはり、青島、赤島の南に雲津灣がある。灣の西岸には傾斜が緩く、絶壁の奇勝はないが、西北の突角馬上ヶ鼻からは岸壁高く、三個の洞窟並び存し、岩石は凝灰岩で、絶壁の上に松樹が點綴して風致を

添へる。これから諸喰灣に至る間は断崖をなし、層理の著しくない角礫凝灰岩層の岩石露出して黒褐色を呈する。諸喰灣外には和久王島、平島等が碁布して居る。

【多古の七ツ穴】〔指定天然記念物〕驛の北約三一軒、野波村にあり、途中加賀まで自動車の便があり、加賀から汽船を利用することが出来る。島根半島の最北端をなせる多古鼻の岬角は集塊岩及凝灰岩の互層より成り、その中沖泊より瀬崎に至る間の海岸は高さ約五〇米、延長約四〇〇米に亘る一大絶壁で、その下部に大小四個の波蝕洞窟が九箇の洞口を開いて相並んで居る。九箇の洞口の中正面より一望し得るのは七箇であるから七ツ穴と稱するのである。

【築島の岩脈】〔指定天然記念物〕松江驛の北約三一軒、野波村椎崎聚落の東にあり、途中加賀まで自動車が行來し、加賀から椎崎まで汽船便がある。築島は第三紀の凝灰岩より成り、西北部に於ける海岸の断崖には安山岩質の一の進入岩床があつて、これから上にも更に一米乃至二米程の厚さを有する進入岩床があり、上

段の岩床は下段の岩床と岩脈で連り、岩脈は更に上部の地層を貫通して殆ど直立する。上部の侵入岩床と岩脈との交叉する部分から、また一枚の薄い岩脈が出て、層面を僅な角度で切つて居る。以上の一群と近接して稍その西に當り、更に一個の岩脈があつて略南北に累層を貫き、この接觸部に沿ひ一個の洞窟がある。

【潜戸】 「指定名勝・天然記念物」 松江驛の北約二七軒、加賀村にあり、市内殿町から自動車、加賀村岩木灘から觀覽船の便がある。潜戸は集塊岩及凝灰質集塊岩から成る潜戸鼻の先端懸崖にある洞門及洞窟で、前者を新潜戸、後者を舊潜戸と云ふ。

新潜戸の洞門は北にあつて岬端に近く、略西々南から東々北に向ひ一直線をなすこと凡そ二・三米、その東門口は遙に窓島（的島）と相望み、洞門の中央は北に一丈門を開くこと約一八米である。三洞口は何れも狭く且つ低く、僅に舟を入れ得るに過ぎないが、その内部は廣くて高く、幅約五米半乃至一八米、高さ約一五米乃至三〇米、水深約八米である。洞内明光透徹し、

【大庭鶏塚】 「指定史蹟」 松江驛の東南約四軒、大庭村大庭茶臼にある。低い丘陵の尖端にあつて封土の表面は既に開墾されて變形した部分も少くないが、墳形方形を呈して居る。所謂方形墳として珍らしい。

【觀音堂】 松江驛の東南五軒、大庭村大庭にある。寺寶の十一面觀音立像は木造、高さ四尺三寸三分、文永〇〇正月〇〇の銘あり、鎌倉時代の製作にかゝり國寶である。もと神魂神社の神宮寺の本尊であつたが神佛分離の際にこゝに移された。

【神魂神社】 松江驛の東南五軒半、大庭村大庭にある。出雲大庭大宮または神納神社と稱せられる。本殿は國寶で大社造、柿葺である、社傳に後光嚴天皇の應安元年國守京極氏の再建で、天正十一年以來數回の修理を経たと云ふ。大社造であるが、心の御柱の右に界壁を設けたのは、出雲大社と全く反對に成つて居る。内部に彩色があるが後補である。大社よりも古風を遺存する雄大素朴な建造物で、傳への如く室町時代の建築で、現存する大社造中最古の遺構である。

水清澄にしてよく底部の魚介を辨ずることが出来る。舊潜戸は新潜戸の南にあつて稍離れ、洞窟の入口は高さ約九米であるが、内部に入るに従ひ、幅と高さを減ずる。窟内は嘗て海水侵入せしことありと傳へられて居るが、今は歩いて入ることが出来る。

この地方は中世地層を破つて噴出した岩石に依つて構成され、集塊熔岩、凝灰質集塊岩及玄武岩の塊状並に岩脈頗る錯綜し、裂罅も多いから、海波の侵蝕を受けて洞門、洞窟を生じたのである。神話は洞門を以て枳佐加比比賣命が金弓箭を以て射通したに依るとし、佛者は洞窟を賽の河原と附會して居る。探勝には靜穩な天氣を撰ぶがよい。

【山代二子塚】 「指定史蹟」 松江驛の東南約五軒、大庭村大字山代二子塚にある。平坦の丘陵上にある前方後圓墳で墳上は松、杉、雑木、竹藪で覆はれ、後圓部は土砂採取のため一部分破壊されて居る。封土は二段に築かれ埴輪圓筒破片が存する。二子塚の地にはこの他に石室のある圓墳もある。

【八重垣神社】 「縣社」 松江驛の南約五軒六、大庭村佐草にあり、自動車の便がある。素盞鳴尊及稻田姫を奉祀し、縁結の神として參詣者が多い。鳥居の前方小高い所に連理の玉椿があり、本社の後方二〇米許の處に、神祕の森がある。森は稻田姫が大蛇を避けるため、八重垣を結んで隠れて居られた所と傳へ、その中に夫婦杉、鏡の池がある。夫婦杉は大樹で、その樹皮を肌守とすると言はれ、附近の竹木には、相思の男女の名を彫む習慣が残つて居る。鏡の池は縁結の池の別名を有し、小さい池で、蝶螺が澤山棲んで居る。紙舟を作り小貨を載せて池中に流し、それが早く沈んだ時は早く良縁があると稱へて居る。池頭に稻田姫を祀つたと云ふ小祠鏡神社がある。

【熊野神社】 「國幣大社」 松江驛の南一四軒、熊野村熊野山麓にあり、自動車の便がある。祭神は神祖熊野大神櫛御氣野命即ち素盞鳴尊である。意宇川上流に位した景勝の地で、素盞鳴尊と最も縁故の深い靈蹟にある。創始は神代で古來出雲大社と併稱せられ、出雲國造家

の奉仕した所であつた。式内名神大社に列し、朝廷の崇敬深かつたが、中世以降社運漸く衰退した。例祭は十月十四日であるが十月十五日の鑽火祭は古式祭で、一名龜太夫神事と稱して居る。

松江から西に進めば宍道湖畔近くを走つて、湯町六軒六、來待六軒を経て簸上鐵道の連絡驛宍道四軒四を過ぎる。宍道を出ると間もなく宍道湖畔を離れて莊原四軒一直江六軒一を経て、出雲今市五軒五に著く。

【玉造温泉】（四圖あ2）湯町驛の南二軒、自動車の便がある。三面緩かなる丘陵を繞らし、北方宍道湖に流れ注ぐ玉造川の清流を挾んで浴館管を連ぬる閑靜な温泉郷である。温泉の由來は古く、出雲風土記にもこの温泉のことが記され、往時宍道湖の水はこの邊まで及んで居たものらしい。温泉は無色透明の芒硝性苦味泉で、温度五二度乃至七〇度、リウマチス、痛風、花柳病、胃腸病、婦人病などに効くと云ふ。

この地は神代史に見ゆる櫛明玉命の玉造りせられ

たところで、玉造の地名もそれに基因して居る。畏くも三種の御神器の一たる八坂瓊勾玉も命によつてこの地で謹製されたもので、素盞鳴尊から天照皇大神に獻られたものだと言へられる。

附近には玉作湯神社、玉造舊址、禪宗の名刹温泉山清巖寺、湯薬師、玉造公園などの勝あり、また玉造川堤防には一軒半に亘りて櫻樹の竝木あり、花時盛觀を呈する。

旅館 左岸に鶴の湯、松の湯、暢神亭、保性館、右岸に長樂園、玉井館、米子館、豆腐屋外數軒。

【玉作湯神社】（縣社）湯町驛の南二軒半、玉湯村玉造にある。出雲玉造部の祖神櫛明玉命を祭神とする古社で式内社である。寶物館には攻玉用の砥石、勾玉、管玉、切子玉、小玉、硝子玉その他半製品等の遺物を藏し、何れも社寶である。富伎玉即ち硝子玉製造の際使用した埵塙の内面に、硝子の熔液の固着したものは珍品である。

【出雲玉造址】（指定史蹟）湯町驛の南二軒半、玉湯村

玉造にある。上代玉作工人なる玉造部の住居地で、當時彼等が勾玉、管玉等の玉類を製作した遺蹟である。玉作湯神社附近、宮ノ上、湯ノ端、宮ノ後、青木原、畑ヶ堀、玉ノ宮、別所谷、段、大連等の諸地字に互りて、玉類の未製品、半製品、玉砥石等が多く發見されて居る。遺物は玉湯村の地を中心として、往時の意宇郡即ち和名抄の忌部郷の故地とその隣接地になつて居る忌部村、乃木村、大庭村の諸村にも及んで發見され、遺物は玉作湯神社に多く所藏されて居る。

【徳蓮場古墳】（指定史蹟）湯町驛の南約二軒半、玉湯村玉造徳蓮場にある。丘陵上の圓墳で、封土は大半破壊され、石棺を露出して居る。棺は割竹型で長七尺、頭部廣く脚部や狭まり、棺身は刳抜きて恰も組合式の陶棺の如く、中央から二分せられ、棺蓋は刳抜いた石材二箇を梓形に合せて、上に板石を載せたもので、五箇の繩掛突起を附して居る。刳抜式と組合式石棺との複合のもので、全國に類例の少ないものである。この古墳の外にも玉造の地に遺つて居る古墳は、玉湯村築

山に暴露して居る刳抜石棺二個あり、宇島場及字小丸山等にも組合石棺の存するものあり、横穴も發見されて居る。これ等は恐らく玉作部の祖先を葬つた古墳であらう。

【湖岸温泉】湯町驛の北一軒弱、玉造川の下流宍道湖岸にあり、自動車の便がある。松江からは遊船で直に行くことが出来る。近年玉造温泉から引湯して新に開いた温泉場で、宍道湖の風光、千鳥城の樓閣、一時に收むる景勝地である。旅館 千登世館、富士見館、湖水館。

【布志名焼】湯町驛の東約二軒、玉湯村布志名で製造され、出雲焼の一で、食器を主とする。創窯は寛延の頃で、初は瓦及粗製陶器を製したが、藩主不味の時茶器を作るに至つて、技大いに進んだ。本窯の製品は黄釉を以て特色とし、質が弱かつたが、近年白釉を用ゐ、磁器に近いものも産出する様になつた。

宍道驛（四圖あ2）島根縣八東郡宍道町
▽簸上鐵道 宍道、木次間 二一軒一

▽木次線 木次、出雲三成間 二〇軒四

▽乗合自動車 三刀屋行

【海潮温泉】 簸上鐵道大東驛の東約四軒、自動車の便がある。赤川の上流溪間にある幽静なる温泉場で、温泉は赤川河畔に湧出し、鹽類泉で温度二四度の微温湯であるが、リウマチス、神経痛、腺病、皮膚病、婦人病、痔疾などに特効がありと云はれ、療養温泉として知られて居る。赤川は夏期螢の名所に數へられる。旅館 館屋、二井屋、宇田屋。

【須我神社】 「縣社」 同大東驛の東約八軒、海潮村須賀にあり、自動車の便がある。素盞鳴尊が稻田姫を娶りこゝに至つてあな清々しと宣ひ、新室を造つて、八雲たつの和歌を御味みになつた舊地と傳へて居る。後に御室山を負ひ、須我川を前に控へて、閑静な神境である。

【湯村温泉】 「四圍あゝ」 簸上鐵道木次驛の南一一軒、素盞鳴尊の八岐の大蛇退治の神話によつて名高い簸の川の上流溪間にあり、自動車の便がある。温泉は無色

透明の單純泉で婦人病、皮膚病、胃腸病、神経痛などに効くと云ふ。附近には八岐の大蛇の居たと云ふ天ヶ淵を初め、手名樋、足名樋の墳墓と傳ふるもの、八頭山、八頭川、蛇ヶ池など大蛇傳説に關する地名が多い。旅館 西村屋、湯乃上、本田。

【龍頭瀧】 同木次驛の西南約二四軒、松笠村にあり、途中掛谷町まで自動車の便がある。高さ約四一米、幅約四米半、岩狹に石像を安置し、瀧明神を祀る。

【鬼舌振】 「指定名勝・天然記念物」 木次線出雲三成驛の東南約六軒、三成村を流れる馬木川にあり、途中まで自動車を通ずる。この地方は花崗岩を以て構成され、馬木川は侵蝕作用を逞しうしてV字形の峽谷を形造り、兩岸は岩壁高く削立し、河底には巨岩縦横に横たはり、水はその間を流れて或は急湍となり、或は瀑布となり、或は深淵、渦流となつて居る。平時は水量が少いが、大雨到れば暴漲し、轟々水烟を揚げて狂奔し山岳溪谷爲に震動して心膽を寒からしめる。兩岸の岩壁には上流から下流へ大天狗岩、蝙蝠岩、はんど岩、

小天狗岩の名があり、河中の巨大な奇岩には龜岩、二見ヶ岩、鞍掛岩、牛ヶ首岩、千疊敷、天狗遊岩、屏風岩、寶珠岩、船岩、疊岩、烏帽子岩等の稱がある。甌穴を有するものは甌岩、鏡岩、雨壺、滑り岩を主とする。以上の外、腹這岩、雌雄兩淵をなす長淵、小瀑布魚斷等がある。鬼の舌振は和邇の戀山の訛で、和邇が玉日女命を慕うてこゝに至りしに、命は石を以て川を塞ぎ、これに會はなかつたので、和邇の戀山と呼んだものであると云ふ。

【岩屋寺の切開】 「指定天然記念物」 同出雲三成驛の東約一二軒、横田村にあり、斐伊川の上流にある横田盆地の東北隅岩屋寺の境内に屬する一小峽谷である。粗粒の黒雲母花崗岩より成り、長さ七〇米、左右の岩壁は略平行して、西北より東南に向つて一直線に走り、高さ二〇米乃至一〇米の絶壁をなす。この峽谷は花崗岩の直立節理に水蝕が加はつて生じた極幼年性のU字谷にして、その幅が上部に狭く、下部に却つて廣いのは稀に見る所であると云ふ。

【船通山】 同出雲三成驛の東南約二四軒、鳥上村にあり、途中横田町まで自動車の便がある。町から山麓まで凡そ四軒、坂路約八〇米にして頂上に達する。海拔一、二四三米、眺望雄大にして、島根半島、中海、宍道湖、簸川平野を指すことが出来る。絶頂から南へ一〇〇米ばかり下つた所に有名な梅の老樹がある。船通山は神代史に見えて居る鳥髮山、この地方は簸の川上で、斐伊川の水源地である。素盞鳴尊高天原からこゝに降り、稻田姫を救つて八岐大蛇を退治し、大蛇の尾端から靈劍を獲て天照大神に献上し給うた。この靈劍は天叢雲劍て三種の神器の一となり、後に草薙劍と云ふ。

【湯の川温泉】 莊原驛の南一軒、自動車の便がある。三面低い山々に圍まれ、一面展けて宍道湖に對し、舟行松江市に行かれる。温泉はアルカリ性の礫酸泉で消毒劑として使用されて居る、また浴すれば肌を濃かに且つ白くすると云はれ、紀州龍神と同じく美容温泉と稱せられて居る。眼疾、皮膚病、創傷、胃腸病、痔疾

花柳病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 第一湯の川、第二湯の川。

出雲今市驛 島根縣簸川郡今市町

▽大社線 出雲今市、大社間 七軒五

▽一畑電鐵 出雲今市、川跡間 四軒九

大社神門、北松江間 三七軒三
小境灘、一畑間 三軒三

▽大社宮島鐵道 出雲今市、出雲須佐間 一八軒七

▽乗合自動車 三刀屋行(省營雲藝線)、稗原行、大津町行、大社行、宮内行、三刀屋行、知井宮行

【今市町】(四圖か2) 出雲今市驛所在地、簸川平野の中心を占め、斐伊川から分れる高瀬川に沿ひ、大社線、大社宮島鐵道、一畑電氣鐵道の分岐點で、交通の便多く、紡織製絲の工場もあつて、商工業に活氣を帯びて居る。附近に東山公園、大念寺の古墳等がある。人口一萬二千。

【平田植物園】出雲今市驛の東約九〇米、一畑電車今市上町停留所からは約四〇〇米、縣立今市高等女學校内にある。明治三十七年の創設にかゝり、面積約五三ア

が、屢々罹災して舊時の規模を失つたと云ふ。方丈、本堂の外に觀音堂及弘法大師の籠居したと云ふ祥雲庵等の建物が存する。境内に鹽冶高貞墓が存し、弘法大師伊呂波石等がある。

【築山古墳】〔指定史蹟〕 出雲今市驛の南約二軒、鹽冶村上鹽冶の森山氏邸内にあり途中まで自動車の便がある。封土の一部は庭園に利用せられ、原形は明かでないが、石室は西南部に口を開いて居る。明治二十年に発見せられたもので、凝灰岩切石を以て築造せられ、構築齊正の美を極めて居る。通路と主室との二區に別たれ、主室には大小二個の家形剝抜石棺を安置して居る。二個共に石棺の側面には遺骸を納めるための横口を設けてあるのは珍しい構造である。副葬品は森山氏が大部分を保存し、圓頭太刀、鐵鏃、鐵槍身、短甲殘片、金銅冠、馬具類の雲珠、杏葉、鉸具、銀環、玉類、齋瓮碗その他がある。この他に東京帝室博物館、東京及京都帝國大學にも所藏されて居る遺物がある。

【地藏山古墳】〔指定史蹟〕 出雲今市驛の南二軒半、築

一ル、栽培植物八百餘種。

【大念寺古墳】〔指定史蹟〕 出雲今市驛の東一軒、今市町鷹澤大念寺境内にある。東面した前方後圓墳で後圓部の背面に横穴式石室の入口を開いて居る。封土はその北側と後圓の一部分とが削り取られたが、大體は舊態を保存して居る。石室は凝灰岩で作られ主室、前室を完全に遺存し、この前面にある通路も大半が遺存して居る。主室の内部には家形の剝抜式大石棺が縦に置かれて居るが、石棺の側面には扉を附したと思はれる横口を有して居て、こゝに扉のあつたのは寺にある古圖によりて窺はれ、その痕跡の窺込穴を存して居る。また前室にもと家形の組合石棺を藏した形迹がある。出土遺物のうち鐵製斧頭、及雲珠、彎鏡板、直刀身の殘缺、齋瓮坏等現存し、同寺に所藏して居る。

【神門寺】〔淨土宗〕 出雲今市驛の西二軒、鹽冶村下鹽冶にある。天應元年宋肇法師の開基で、眞言宗であつたのが、良空法師の時源空上人の教戒によりて現宗に改めた。鹽冶、尼子、毛利、松平諸氏の保護を受けた

山古墳の南半軒、鹽冶村上鹽冶池田にある。丘陵上にある圓墳で本來穴田古墳と呼ぶのであるが、石室内部に小地藏尊を祀つてあるので地藏山の名がある。封土は小で莊大な石室を覆うて居るに過ぎない。凝灰岩切石で造られた石室は玄室、前室及通路の三區から成り、口を東南に開いて居る。玄室は四周、天井は何れも一石で造られ、前室との境に長方形の入口を設け、内部に横口ある家形剝抜石棺を安置し、且その前面に一種の剝抜を施した槲障(障屏)があるのは九州の筑後、肥後の古墳に往々見るものである。

【立久惠】〔指定名勝・天然記念物〕 出雲今市驛から分岐する大社宮島鐵道下立久惠驛から約半軒、乙立村にあり一に神龜峽と云ふ。出雲の南境女龜山から發する神門川は同村字立久惠に於て約一軒の間河岸削立し、岩柱竝峙すること數十丈、特に左岸に著しく、普賢岩、文珠岩、天柱峯、天狗岩、御經岩、袈裟掛岩、猿岩、屏風岩、不動岩、蠟燭岩、烏帽子岩、神龜岩等の名がある。これ等は集塊的安山岩が風化水蝕の作用を受けて、堅

宕なる部分の残存せるものである。累々たる岩石に生長する植物は盆栽的雅致を具へ、河岸に沿うて杉林茂り、清流その下を繞つて或は急湍となり、或は碧潭となり、四季の推移に伴なつて景色自ら變じ、夏季舟遊鮎狩の好適地である。天柱山中腹の洞窟は往古神龜が黄金佛を脊負ひて出現せる所と傳へられ、靈光寺に安置する立久惠薬師は近郊の崇拜する所である。

【須佐神社】〔國幣小社〕大社宮島鐵道出雲須佐驛下車、東須佐村宮内にある。須佐の大宮と呼ばれ、須佐之男命を主神とし、稻田比賣命、脚摩槌命、手摩槌命を配祀する。式内の古社で出雲風土記に見える須佐之男命大須佐田、小須佐田を定めて自らの御靈を鎮め置き給うたと云ふ靈跡である。中世以降武家の崇敬厚く、領主佐々木氏、堀尾氏、藩主松平氏等の尊信が深かつた。現在の本殿は文久元年、藩主松平定安の造営にかゝる。例祭は四月十八日である。社寶の兵庫鎖太刀一口は國寶で遊就館に出陳中である。

【萬福寺】〔淨土宗〕出雲今市から分岐する一畑電氣鐵

平田から日本海岸に出て、溪流に沿うて上ること約一軒半、極樂橋、般若橋を過ぎて境内に達する。千年の老杉途を挟んで晝尚暗く、幽邃なる別境である。仁王門、地藏橋を経、松本坊を右に見て石階を上げれば、左方には心院があり、更に推古館を右に眺め、石階を上げれば根本堂に達する。堂の前面不老山の溪間に不老嶽即ち浮浪瀧が懸り、直下約三米、瀧壺の上部岩窟内に藏王權現の小堂があり、その側に龍眼水と云ふ靈泉が湧出する。推古天皇はこの水で眼病を治療せさせられたと傳へ、國寶推古式觀音はこの岩洞から發見された。盛夏晚秋觀光の人絶えず春は竹杖菅笠の順禮で賑ふ。當寺の創建は推古天皇の御世にありと傳へ、後延暦寺の末寺となり、能義郡の清水寺と並び稱された雲州の古刹である。元弘年間後醍醐天皇臨岐御遷幸に際し、當寺の長吏頼源僧都率先して忠勤を抽んで、宸筆の御願文を賜はり、皇運の興隆を祈つたことがある。その後、寺運の盛衰一ならず、今日に至つて居る。現存の本堂は五間五面入母屋造、柿葺朱塗の建築にして江戸

道大寺驛の北半軒、鳶巢村にあり、俗に大寺薬師と稱し、本堂は方三間寶形造の小堂であるが、堂内には平安時代の優秀な木造古佛像が九體も所狭きまでに安置され、參詣者を驚かして居る。

薬師如來兩脇土像〔國寶〕中尊は坐像で、臺座を除き高さ約四尺、檜の一木造である。形態頗る雄大にして、今全部素地を露出して居る。脇士日光月光兩菩薩は檜の一木造で高さ約五尺五寸の立像で、平安初期の佳作である。

觀世音菩薩立像〔國寶〕二軀共に檜の一木造で、寶冠を戴き、左手に蓮華を持つて立つ聖觀音像にして、高さ四尺九寸と五尺二寸七分、平安初期の作である。四天王立像〔國寶〕四軀とも樟の一木造で高さ約六尺、何れも平安初期の優秀な作である。

【鰐淵寺】〔天台宗〕一畑電氣鐵道雲州平田驛の西方約一〇軒、鰐淵村別所にあり、途中まで自動車の便がある。山腹幽邃の地を占め、山中楓樹多く、紅葉の季節に美觀を呈する。

時代の再建であり、その他の堂宇にも往時を徴すべきものはないが、古佛像、古文書等には當寺の昔を偲ぶべき貴重なものが残つて居る。推古館 本堂より一段下の山腹にある小陳列館で、時々貴重な國寶類も陳列される。次にその主要なものを挙げる。

- 一 觀世音菩薩立像〔國寶〕
 - 金銅製、高さ二尺三寸餘、兩肩に頭髮を垂れ、面貌圓滿にして珠鬘を以て身邊を飾り、左手に水瓶を持ち、右手を上げて說法印を結び、八角形臺座の上に立つて居る。その相好極めて優美にして唐風を帯びた奈良朝初期の製作である。臺座の縁に「壬辰年五月出雲國若狹部臣德太里爲父母奉作菩薩」の陰刻銘がある。
- 一 觀音菩薩立像〔國寶〕
 - 金銅製、高さ一尺四寸、左手に瓔珞の一端を執り、稍腰を捻つて立つて居る。佛身太短かく各部の均衡もよくないが製作時代はこれも奈良朝初期のものと思はれる。兎に角この地方にかかる金銅佛の遺存することは注意すべきである。
- 一 一字金輪曼荼羅圖像〔國寶〕
 - 絹本着色、畫面縦二尺四寸、幅一尺五寸、中央に七獅上の蓮坐に坐する金剛界大日如來の像を描き、その上下に輪寶、象寶、馬寶、珠寶、女寶、主藏神寶、主兵神寶の七寶を配したもので描線は朱線より成る鎌倉初期の作である。

米子大社間

一山王本地佛像〔國寶〕

絹本着色、畫面の中央に椅子に坐せる僧形の像を描きその左右に各三體の像を現はしたもので、背後に二本の大なる杉が高く聳えて、彩色濃麗である。鎌倉時代。

一毛利元就像〔國寶〕

絹本着色、白髭の姿に黒色の衣を着けて居る。弘治三年元就當國へ發向の時當寺に參詣し、和多坊に宿し、坊主榮藝を案内した縁故を徴すべき資料である。

一後醍醐天皇御願文〔國寶〕

紙本墨書、後醍醐天皇が隱岐から伯耆の船上山に潛行あらせられた前年即ち元弘二年八月十九日の御願文である。

一名和長年執達狀〔國寶〕

紙本墨書、この執達狀は建武三年二月九日に名和長年が伯耆守として鰐淵寺の衆徒に宛てたものである。當時長年は新田楠木等の諸將と力を合せ、足利尊氏の軍を京師より敗走せしめたのであるが、この書狀に於て彼は當寺の衆徒に對し壯者は出陣して軍忠を致すべく、年寄は朝敵誅伐の祈禱をなすべしと命じて居る。

一頼源文書〔國寶〕

紙本墨書、この文書は當寺の長吏頼源が正平六年十月に當國三所郷地頭職に宛て、當寺の忠勤を個條書にして上申したものである。

一經筒

灰白色石製、高さ一尺五寸、口径七寸。内部をくりぬき、口

一幅

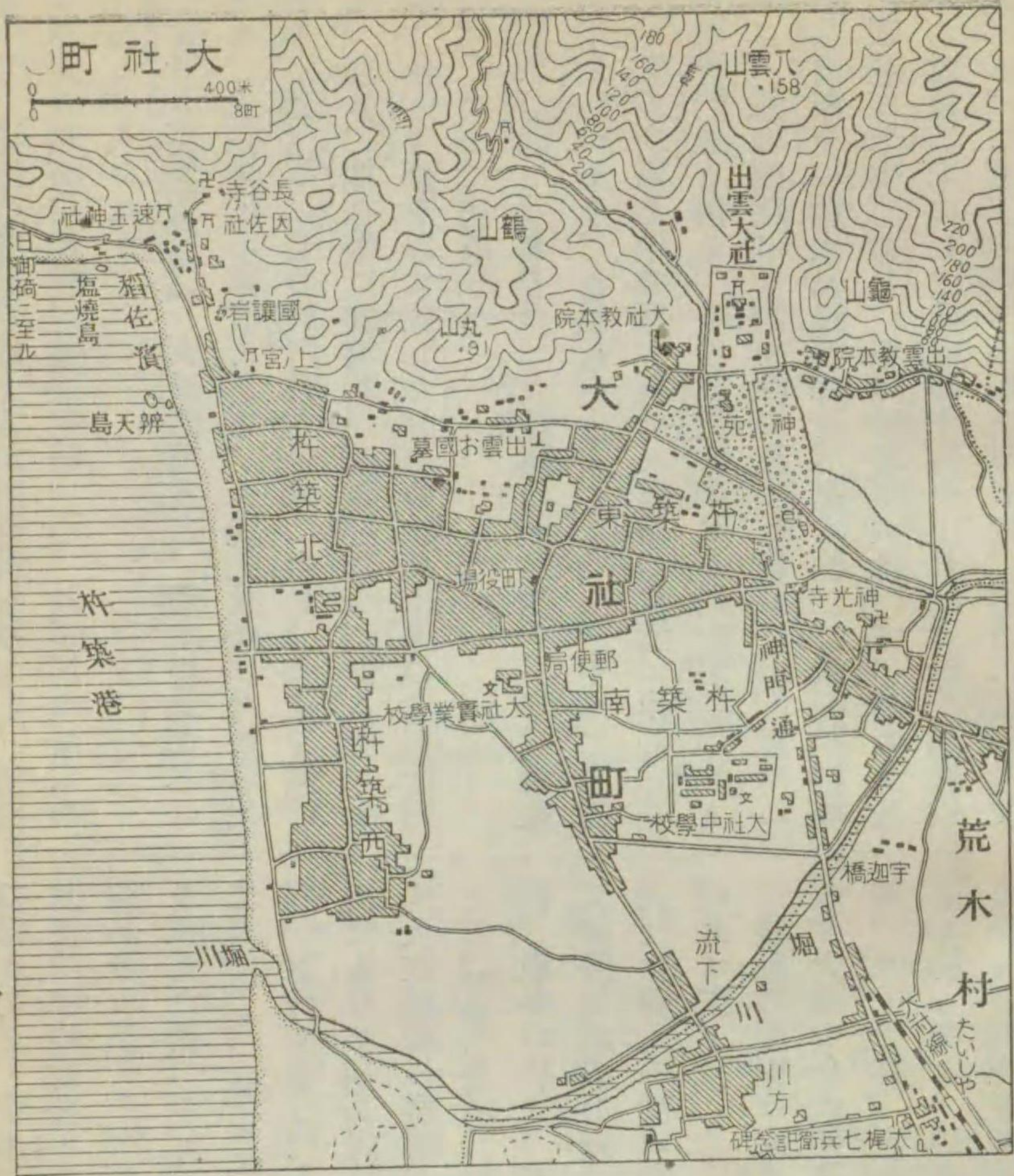
一幅

一卷

一卷

一通

一箇



米子大社間

縁に蓮辨模様を現はし、身の周圍に左の銘文が刻書してある。釋迦文佛末法弟子僧圓朗自仁平元年辛二月〇日至于同三年癸五月二日殊致精誠如法奉書寫妙法蓮華經一部八卷奉安置鰐淵山金剛藏王寶窟但行法寫經之勤禮拜供花之行皆勤有心知識同殖死漏妙因乞願有緣死緣共生一佛土法界衆生同證二菩提矣

寫經衆

僧圓朗

僧信尊

僧嚴澄

【一畑寺】〔臨濟宗妙心寺派〕一畑電氣一畑驛の北一軒、東村小境にある。醫王山の山腹緑樹の間に一廊をなし

て本堂、庫裡、拜堂等の堂塔立ち並んで居り、旅舎茶肆も所々に散列して居る。境内閑雅で庭上からの眺望が佳い。一畑薬師の名で有名な薬師堂は本堂の上にあ

り、長廊で上下相通じ眼疾に靈驗ありとされて居る。

【一畑薬師】一畑寺の境内高處にある。本尊瑠璃光如来は三十三年毎に開扉する秘佛で眼病に靈驗著しく、各地から賽客絶ゆることなく、毎月八日を縁日とし、九月七、八日の大會式は殊に賑ひ、一年の賽客二十五萬と稱され、薬師堂及籠堂には數百の信者、眼病患者が常に參籠して居る。

大社驛 (四圖さ2) 高根縣荒木村

村北荒木

▽乗合自動車 稻佐渡行、日御碕行

▽旅 館 いなほや、竹野屋

外十數軒

▽土産物 瑠璃細工、和布菓子、出雲風土人形、菓子。

出雲風土人形、菓子。

【大社町】大社線大社驛所在地。

荒木村の西北に接し、北に宇迦の山脈があるが、南は概ね平低の地で、堀川東より來り、南境を流れて西の方日本海に注ぐ。東西約一軒三、南北約七軒、面積約七方軒二、大正十四年杵築町と杵築村を合併して改稱したものである。官幣大社出雲大社鎮座の地として知られ、大社教本院、神道出雲教本院もあり、出雲お國墓、稻佐濱等

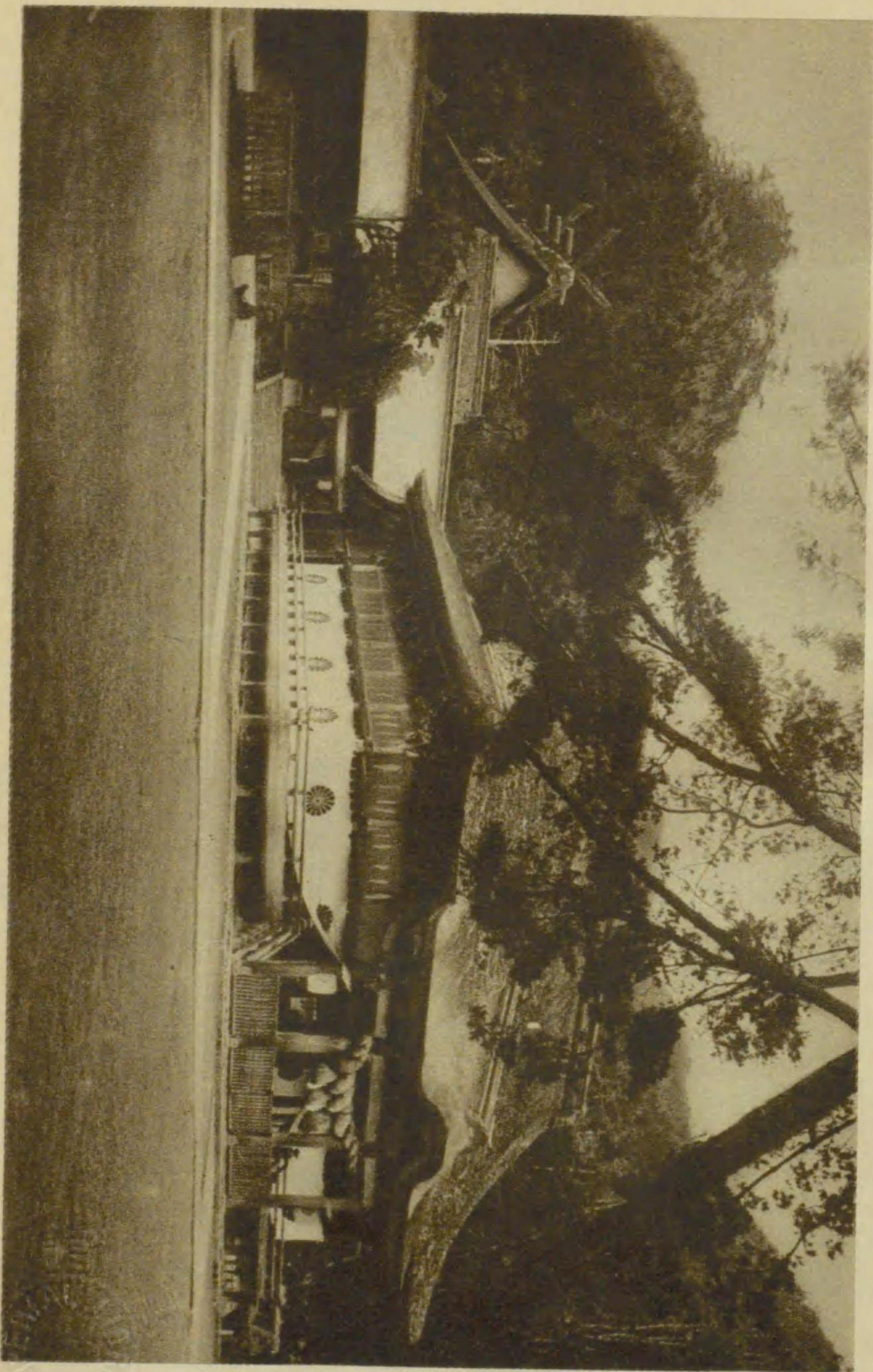
當社の祭祀は古來我が皇室及國家と特に重大な關係を持ち、崇神、垂仁の兩朝には當社の神寶を檢校せしむるため使を遣はされしことがあり、延喜式には名神大社に列し、また當國一宮として崇敬された。民間に於ては福神及縁結びの神として廣く信仰されて居る。例祭は五月十四日に執行される。その他古來當社で行はれる神事中、特に著名なのは新嘗祭と神在祭とである。

新嘗祭 十一月二十三日晝間には祭祀令によつて官祭を執行し、夜間には、古傳新嘗祭と稱する神事がある。この神事は出雲國造家に傳はる古式によつて、新穀を天神地祇に供へ奉る式で、古雅な百番の舞と釜の神事等の儀式がある。

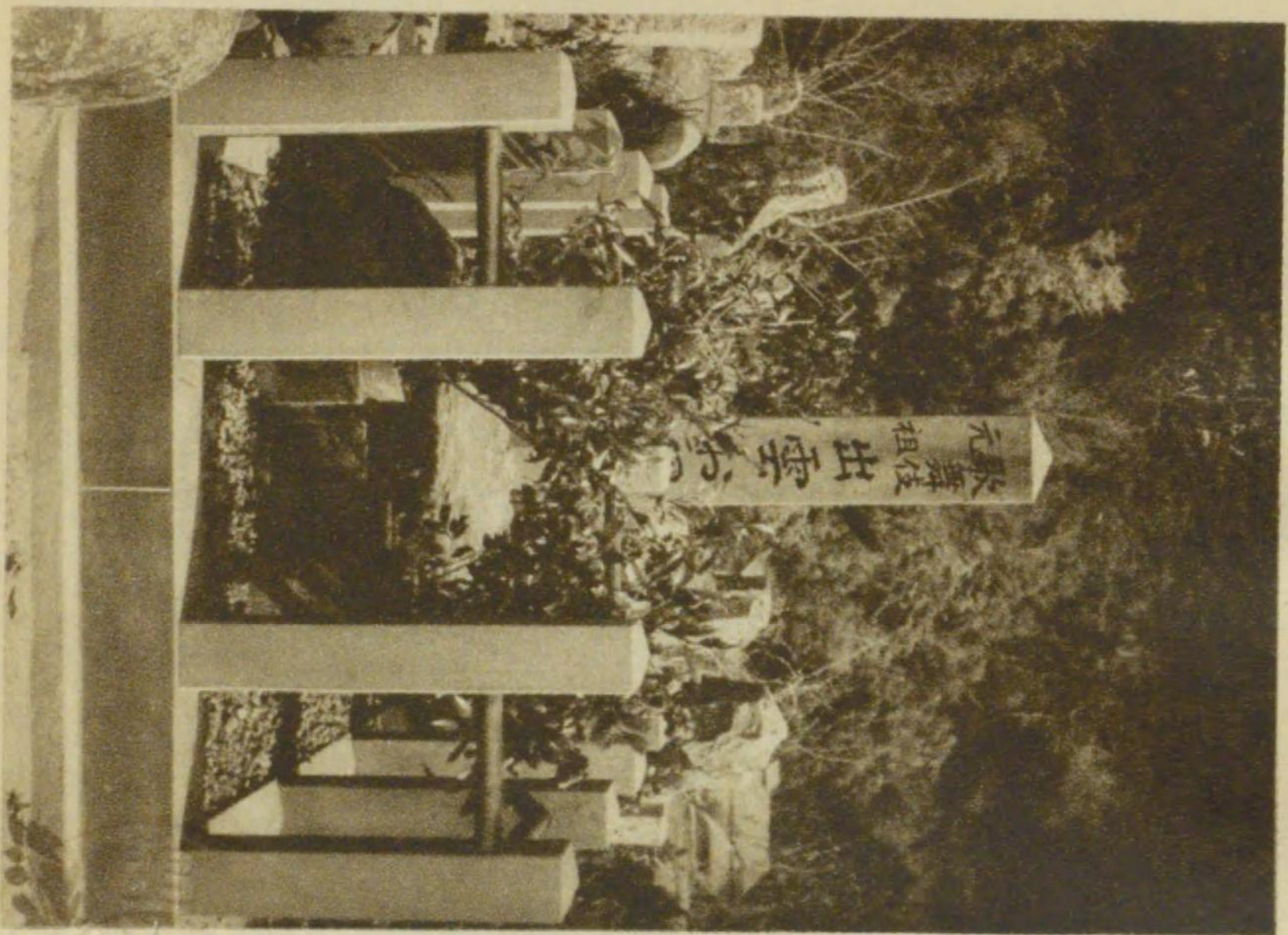
神在祭 舊曆十月十一日より十七日まで行はれる。祭日中は諸國の神々當社へ集り、縁結び、また神々の司ります土地の事柄を神議り給ふと稱し、本社及上の宮（稻佐濱にあり）に於て祭典を行ひ、境内の兩十九社は來集諸神の御旅舎になると云ふ。

社殿 銅鳥居を入ると正面に宏壯な拜殿がある。拜殿の後方にある石段を登ると八脚門があり、一般參拜者はこゝで禮拜するのである。八脚門の左右より瑞垣を廻らし、門の東西に廻廊が連り、東廻廊の中央に觀祭樓と稱する重層の建物がある。瑞垣内には東西に門神社その他御向社、天前社がある。八脚門の奥に結構壯麗な樓門があり、樓門に接して玉垣を繞らして居る。また樓門の左右に神饌殿があり、本殿はこの玉垣にかこまれて聳え立つて居る。

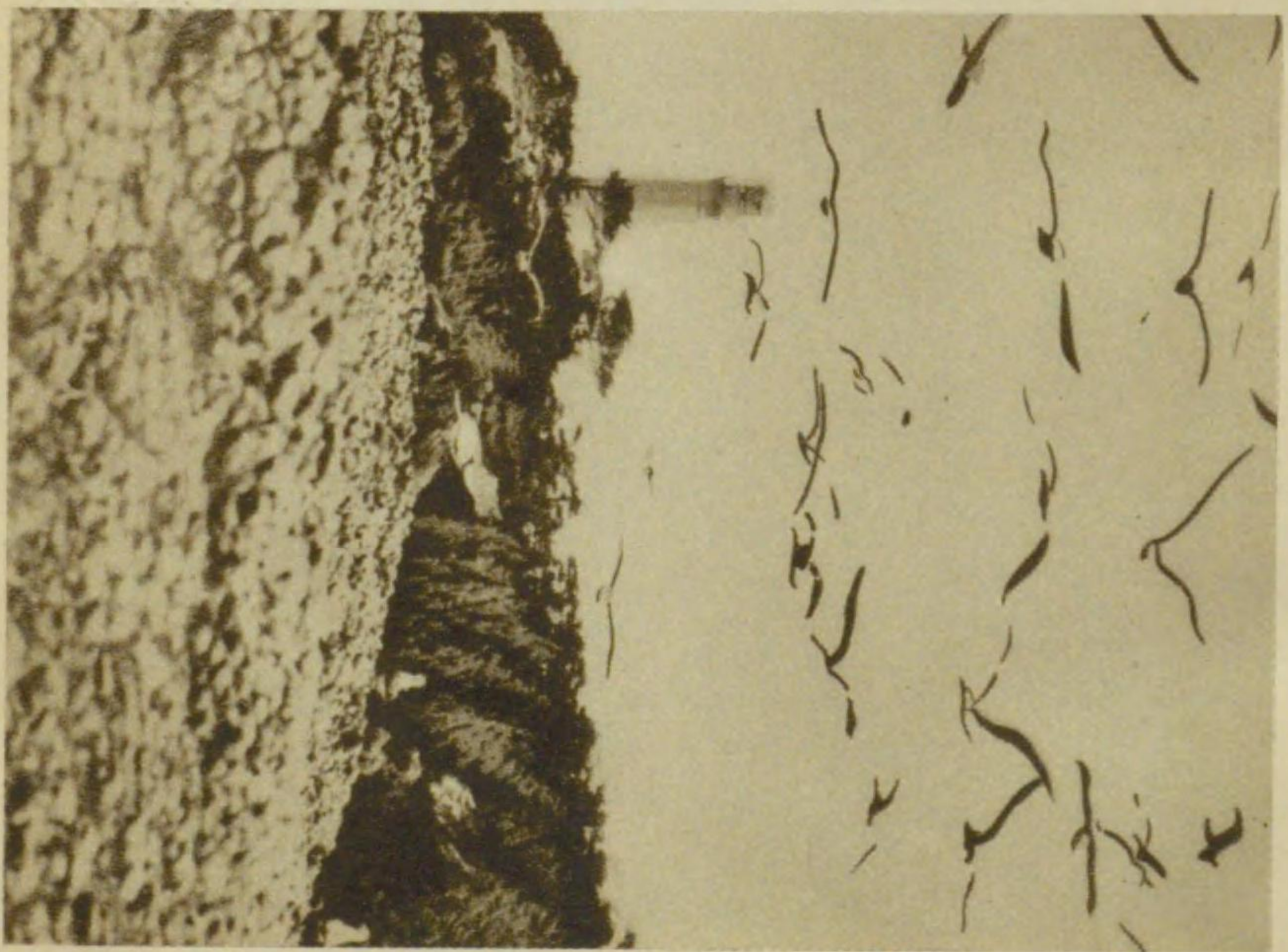
本殿 「國寶」上古に於ける本殿の構造は日本書紀神代卷に「以千尋栲繩、結爲百八十紐、其造宮之制者、柱則高大、板則廣厚」とあるによるも極めて雄大なものであつたことが想像される。後、齊明天皇五年に出雲國造に命じ、殿之神宮を修めしめ正殿式を定む、後世その制に従はざる場合は假殿と稱した。然しその規模に大小の差を生じたのみで様式は古式を傳へて變る所がなかつた。中古以來は戰亂のため常に假殿で經過したが、今の建築は延享元年正殿式を復して再興したも



社 大 靈 田



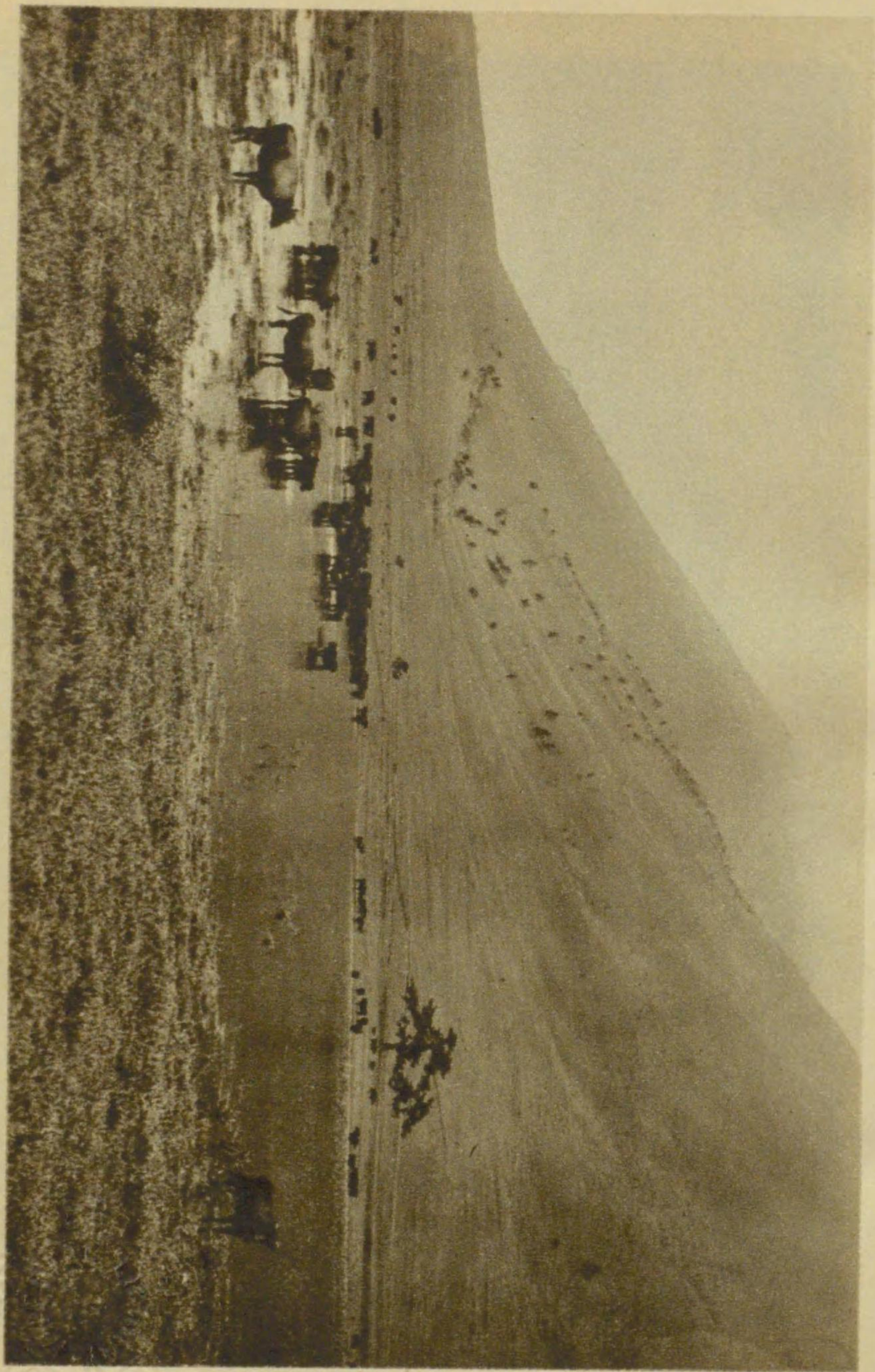
墓の國お雲出



猫海の鳥經奇御日

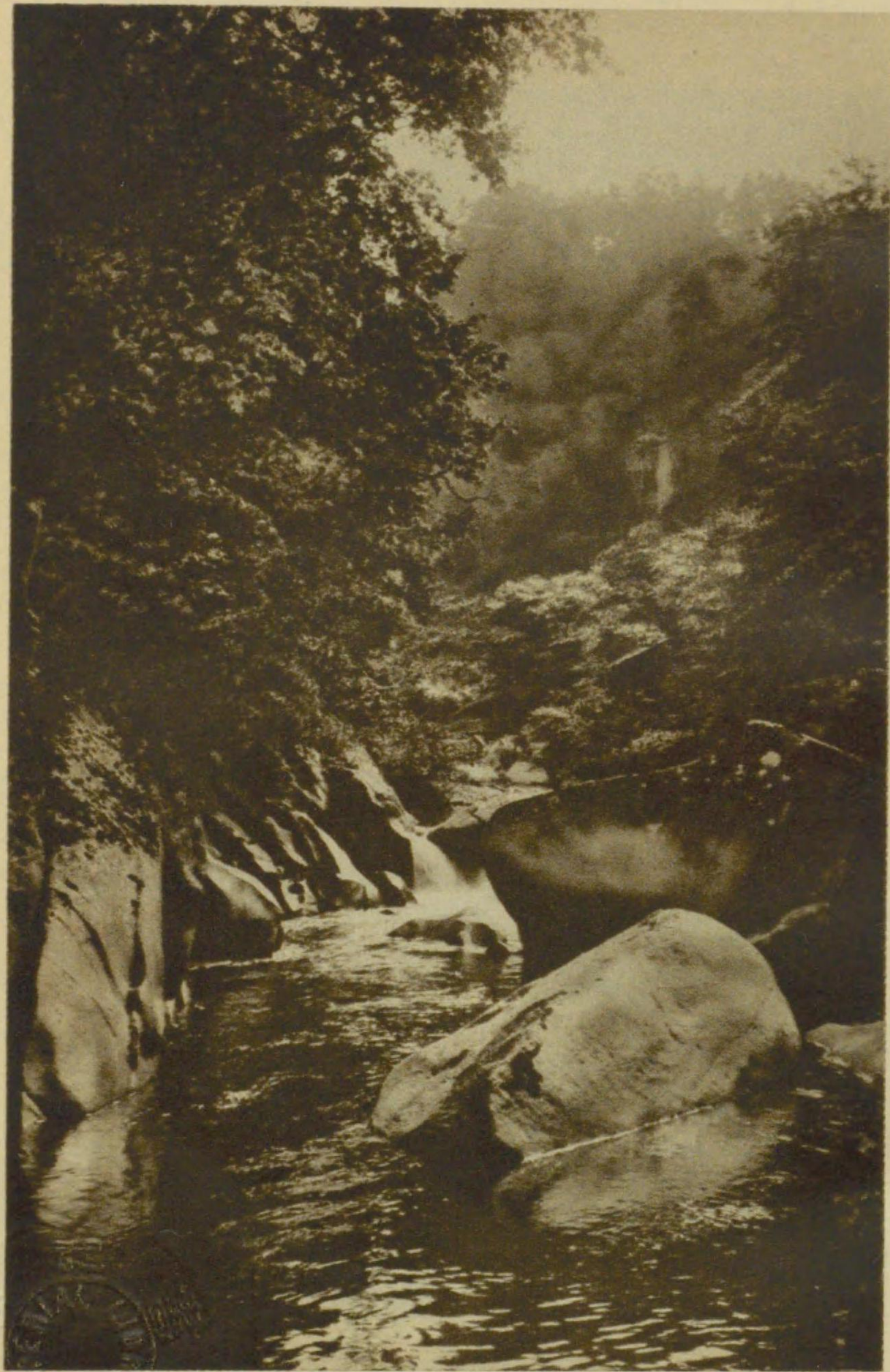


山 瓶 三



温泉津温泉





斷 魚 溪





醫光寺庭園



濱田港

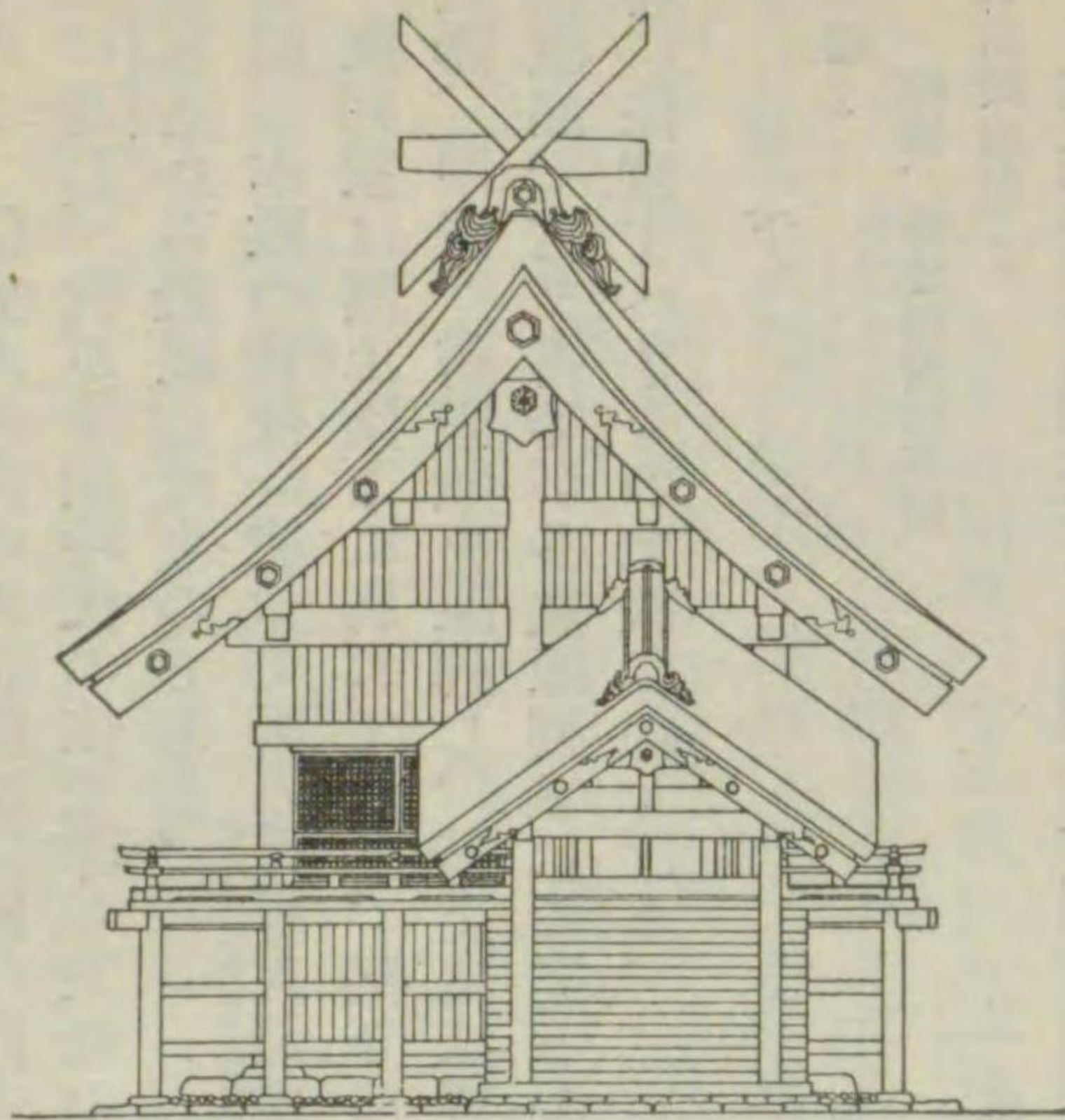
1. 2. 3. 4. 5.



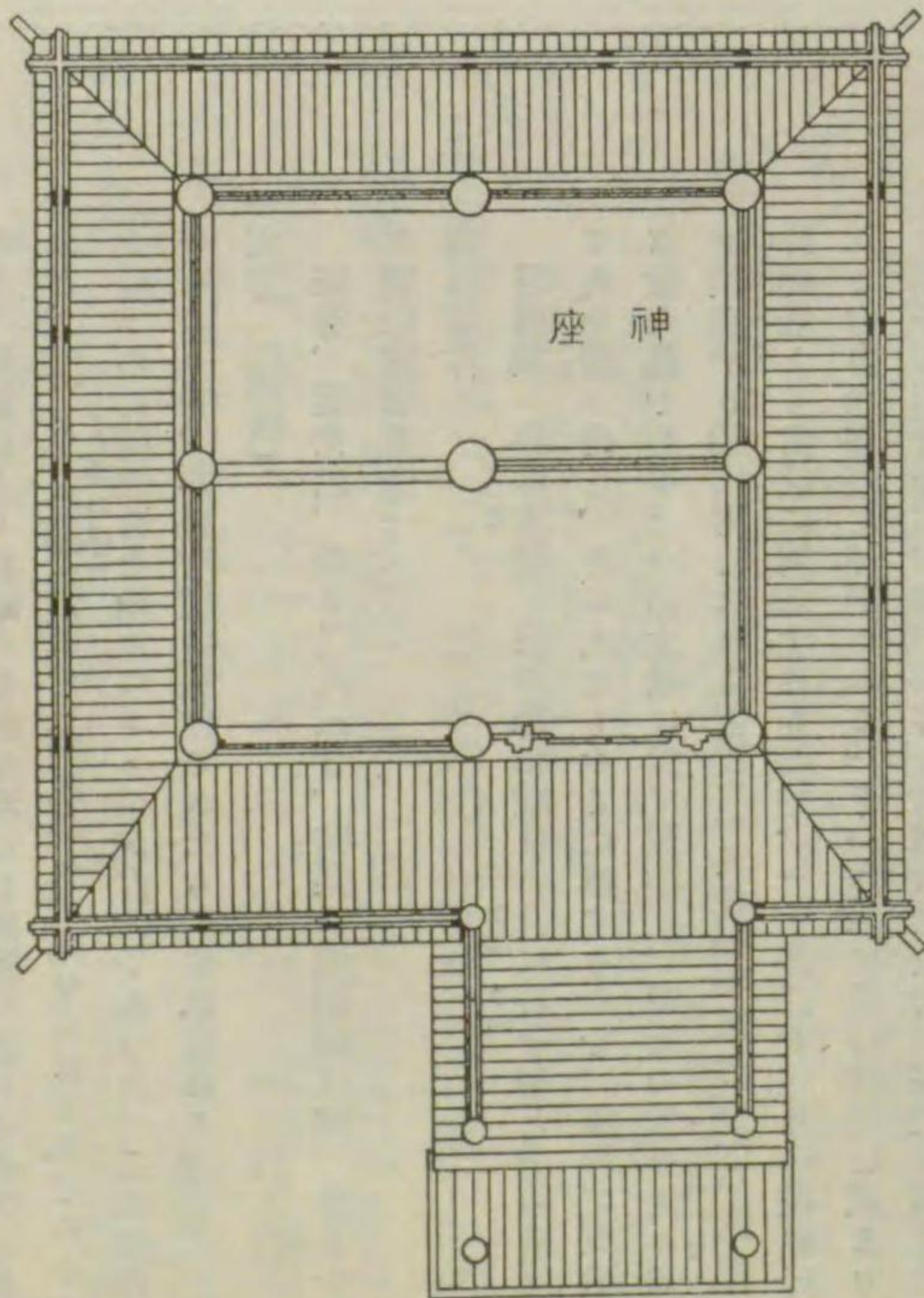
ので、その様式を大社造と稱し、大體に於てよく古制を傳へて居る。その構造は二間二面、單層、屋根前後切妻造、檜皮葺て床下高く周圍に廻縁をめぐらし、棟には勝男木を置き、千木高く聳え、平面は正方形をな

方に偏して立ち他の柱と列を同うして居ない。心の柱と右側の中の柱の間には界壁が設けられ、その後には神座がある。入口は前面の右の間に附設されてあるので中央から右に偏して居る。これは大社造特徴の一であ

圖面前殿本社大雲出



圖面平殿本社大雲出



し、各柱間の實尺は各十九尺二寸を有する雄大な建築である。内部の中心には心の柱と稱する大なる柱があり、その前後にある柱を「うづ柱」と云ひ壁面より外

る。内殿に入るにはこの入口の階段を登つて下段の間に進み、左に轉じて奥に入り、更に右に折れて上段の間に入り、更にまた右折して神座の前に出るのであ

る。それで建物が正南に向つてゐるのに對して神坐は西向になつて居る。

この大社造の様式は我が神社建築史上最も古式を傳へたもので、伊勢大神宮の神明造が宮殿の様式から發展せるに對し、我が原始時代の住宅即ち工匠の所謂天地根源宮造から發展したものである。

寶物館 本殿の背後に建つて居る重層入母屋造の建築で、陳列室は階上階下に別れて居る。階下には主として武器、甲冑、書畫類を陳列し、階上には神服、祭器、調度品、古文書等が多數陳列されて居るが、そのうち特に注意すべきものを次にかゝげる。

一 階下

一 鏡

緋織、傳足利義政寄贈

一本殿模型

寛文造營の節正殿式による宮制を百分の一と二百分の一に模したもので、本殿内部の構造を知るに便である。

階上

一合

一 秋野蒔繪御筥 (國寶)

木製、高さ五寸二分、縦九寸八分、横七寸五分。金蒔繪、鍍金金具、方形撫角、三味線胴にして二重懸合を有し、置口は錫縁、

蓋は印籠蓋である。蓋表には萩、蟋蟀、子持鹿を描き、牡鹿は立ち牝鹿は伏して子鹿を愛育せる様を現はして居る。空には飛鳥を描き下には流れを配し、萩の花と小鳥の一部には螺鈿が嵌入してある。蓋裏は萩、女郎花、小鳥等總て鎔粉梨地、平蒔繪である。構圖によく秋野の景趣を現はし雅致に富める優秀な作である。古へより社殿造營毎に調度品を造進せられるのであるが、そのうちに榊筒宮を納めらるゝのが古式であつた。この榊筒宮もその一で、藤原時代に製作されたものと思はれる。

一 太刀 (國寶)

絲卷、銘光忠、長さ二尺三寸、鞘梨子地菊桐蒔繪、慶長十四年豊臣秀頼寄進。

一 燈白燈杵

白檜製 杵卯木製 白の縁に設けた孔に杵を挿し込み磨擦して火を鑽り出し、その火をもぐさに移すもので、極めて原始的な發火器である。一は大社に於て製作し、御供の飯を焚き神酒を醸造する時に用ゐられる。他の一具は毎年出雲國八束郡熊野神社より當社に調進するもので、十一月二十三日の夜執行される古傳新嘗祭に使用される。その起原は熊野神社に鎮まります熊野御食野命が燈白燈杵を出雲大社最初の齋主天穗日命に授け給ひしに始まること云ふ。

【大社教本院】 千家氏邸内風調館にあり。大社教は明治六年、出雲大社大宮司千家尊福が出雲大社の氏子及信徒を以て、敬神講と稱する講社を組織したのが起源

である。明治十五年五月神道大社派と公稱し、同年十一月更に神道大社教と改稱した。教旨は主神大國主神の經國治幽の神意神業を奉體して、國民道徳を振興し、天壤無窮の皇運を扶翼するを要旨とする。全國各地に分院、出張所または教會所を設け、信徒四百餘萬を算する。毎年三月、九月の兩度、十五日から三日間大祭が行はれる。本院の西南に大社教祖靈社がある。

【出雲教本院】 神道出雲教は明治十六年北島修孝の組織せる所にして、本院を北島氏邸内に置き、造化の三神、天照大神、大國主神、天穗日命、産土神を奉齋し毎年五月十四、五日及十一月二十四、五日の兩度を祭日とする。

【出雲お國墓】 大社前から、稻佐新道を西に行くこと四、五百米、大鼓原墓地にあり、道路の左方に「歌舞妓元祖出雲お國墓上り道」と題する石標がある。石段を上ると墓地で、中村一家の墓の中、中央にあつて石柵を繞らす扁平な自然石の分がお國の墓と傳へられて居る。お國は本邦歌舞伎の始祖、女優の元祖である。杵

築町中村三右衛門の女で、大社の巫女であつた。慶長中京都に出て、四條河原に舞臺を構へて歌舞伎を演じ、都人士の高評を博した。晩年歸國して尼となり、智月と稱し連歌を樂み、字中村に小庵を結び、連歌庵と號し、俗にお國寺とも呼んだ。明治維新後庵は廢寺となり、今は一小地藏が名残を止めて居る。後裔中村氏は鍛冶小路に住し、お國の遺物を藏して居る。

【上の宮】 出雲大社の西約五〇米、稻佐濱に出る途中にある。大社の攝社で同社の神在祭(お忌祭)の際、八百萬の神が集まつて、男女の縁結を始め、總ての幽事を協議する前、先づ當社に集まると云ふ傳説がある。大社と同じく十一月十一日から十七日まで御齋と稱して祭事が行はれる。大社始め、その攝社末社の構造は總べて妻入であるに、當社のみが平入であるのは建築上異例とされて居る。

【稻佐濱】 大社驛の西北二軒餘、出雲大社からは西約一軒、日本海に臨む遠淺の砂濱で、右に御碕山、左に蘭の長濱及三瓶山を控へて展望がよく、夏は海水浴場

米子大社間

となる。神代の昔大國主命が經津主命、武雷命と國讓りの談判を開いた五十田狹小汀の舊跡と傳へられ、國讓岩一名屏風岩と稱するものがある。南の辨天島は辨天の祠を有し、北端の鹽燒島は櫛八玉命が天の御饗を大國主命に奉つたと云はれて居る。これ等から離れて笹子島が横たはり、兩岩の間に注連繩を張り出雲二見と稱して居る。

【因佐社】 稻佐濱の東北部海岸から少し内部へ入つた所にある小社で、速玉神社とも云ひ、武雷神を祀る。勝負事に靈驗が著しいとて、京阪地方から商業者の參拜するものが多い。

【日御碕神社】 「國幣小社」 大社驛の北約一二軒、日御碕村にあり、途中海岸景勝の地を通じて自動車の便がある。社殿は上下に別かれ、上社には素戔鳴尊を、下社には天照大神を祀る。本社の創建は遠く上代にあるも、社殿は屢々造營遷宮せられ、現在の社殿は寛永年間將軍秀忠の建立せしもので、内部は華麗な裝飾を以て充

たされて居る。例祭 七月七日。寶物 一 甲冑鎧兜付 「國寶」 一 領 白絲威、社傳、源賴朝寄進 一 腹卷 「國寶」 一 領 藍草威、社傳、名和長年寄進、文化二年に松平不味公が修補した。

出雲今市 幡生間

出雲今市を出て西南に進み、知井宮四軒八、江南四軒一、小田六軒六を過ぎれば右窓日本海の青波が眼近く望まれる。海岸に沿うて尙西南に向ひ田儀三軒九を通れば波根湖に近い波根七軒五に至る。

【寶塚古墳】 「指定史蹟」 知井宮驛の東北約一軒、布智村下古志にある。水田の中にあり、封土は全部削られ石室露出し、周圍は椎樹を以て覆はれて居る。石室は片袖形平面を有し、玄室及羨道から成り、玄室天井は自然石二枚を用ゐ、壁は主として平に削られた石英粗面岩を用ゐ、奥壁に沿うて凝灰岩製の剝抜で側面に方形の窓を有する家形石棺が置いてある。

波根を出て波根湖岸を西進し、久手二軒二、石見大田三軒五、靜間三軒、五十猛二軒六を経て南折し、仁萬六軒一、馬路三軒を通れば溫泉津六軒に至る。尙西南に向つて進み、石見福光二軒九、黒松二軒八、淺利四軒四を過ぐれ

出雲今市幡生間

【日御碕燈臺】 (四圖さそ) 日御碕神社の背面數百米に位し、巖頭に屹立せる石造白色圓筒狀の建築で、高さ約六三米、光達距離約四〇軒、六萬四千燭の連閃紅白交閃の一等燈臺である。燈臺からは蒼波萬里、落日の光景は無比の偉觀と云はれて居る。 【經島うみねこ蕃殖地】 「指定天然記念物」 日御碕岬頭に聳えて居る海中の巨巖で、文島とも云ふ。鷗に酷似するうみねこが幾千も群飛して、奇聲を發して鳴き交はして居る様は奇觀である。島に舟を乗り入れ得る大岩洞があつて、洞内に神代文字の彫刻が存して居ると傳へられて居る。

ば江川を渡つて三江線(石見江津・石見川越間)二二二軒三の分岐驛石見江津に著く。 【物部神社】 「國幣小社」 石見大田驛の南五軒、川合にあり、自動車の便がある。物部氏の祖神宇麻志麻遲命を祭神とし、石見國一宮で、例祭日は十月九日、社寶の太刀は了戒の銘あり、國寶である。 【大森町】 (四圖たせ) 石見大田驛の西南一二軒弱、自動車の便がある。徳川幕府の大森代官が駐在し、慶長以來銀山の發展と共に隆盛であつたが、現今銀山は休坑中で、町は衰微して居る。町内羅漢寺の凝灰岩の岩窟に數百の羅漢像を安置してある。

【井戸神社】 「縣社」 大森町にあり、薯代官として名高い井戸平左衛門正朋を祀る。正朋は享保十六年徳川幕府の代官として大森に來任し、甘藷栽培を奨励して饑饉に備へさせた功勞者である。官命を俟たないで官米を以て窮民を撫恤したこともあつて、到る處にその頌徳碑がある。 【三瓶山】 出雲石見の境上に聳ゆる死火山で、海拔二、

二六米、出雲風土記に見ゆる佐比賣山がこれにて、國引の柱と傳へられて居る。山嶺は男三瓶、女三瓶、子三瓶、孫三瓶の四峰に分れて、環状の火口を圍み、男三瓶が最も高く、平坦な山頂に金毘羅の小祠を祀り、視界が廣い。火口は東西約一軒、南北一軒三、その内を室の内と云ひ、こゝに室の内池及鳥の地獄がある。登山路は西麓の小屋原温泉からするものと南麓の志學温泉からするものとの二線あり、何れも石見大田驛より自動車の便がある。東西の裾野は廣漠たる原野で面積約三二、〇〇〇アールに達し、牛の放牧に適し、陸軍の演習地となつて居る。また志學温泉を中心として有名なスキー場がある。

【小屋原温泉】 石見大田驛の東南約一四軒、途中池田まで乗合自動車、池田から二軒は貸切自動車の便がある。池田にはラヂウム鑛泉あり、加熱して浴用に供して居る。

小屋原は野城川の清流に枕んだ閑寂の境で、温泉は食鹽性炭酸泉で皮膚病に特效ありと云はれ、胃腸病、

婦人病、胎毒などに効くと云ふ。旅館 熊谷。【志學温泉】 (四圖さ4) 石見大田驛の東南三一軒、自動車の便がある。途中湯抱にはアルカリ性食鹽冷泉あり、加熱して浴用に供し、二三の旅舎がある。前記小屋原の池田からは約八軒、徒歩によらねばならぬ。志學は山陰の名山三瓶山の南麓に當り、廣潤なる裾野が前に展けて居る。この地は雲霧の多い所で、南方一帯の連山峽谷に雲霧襲來の際は、宛然海を隔て、島嶼を望むが如き光景を呈し、その「霧の海」が三瓶名物の一に數へられる。

温泉は約一軒を隔した峽谷から引いてあるが泉量豊富湯の川をなして居る。無色透明のアルカリ食鹽性炭酸泉で温度四九度、胃腸病、咽喉病、婦人病、腺病、皮膚病などに効くと云ふ。

附近一帯の原野は約二三、〇〇〇アールに達し、第五師團の砲兵演習地、大放牧場、夫婦松、片腕松などがあり、また東の原附近は冬季スキーの適地である。旅館 三瓶館、北原、三河、米原、岩田、大草。

【鳥の地獄】 志學温泉から約三軒、孫三瓶の麓、室の内と稱する三瓶山の火口底にあり。安山岩塊の點在する間隙から炭酸瓦斯を噴出するもので、その邊りは草木も多少色を變じ、餌を求めてこゝに來て窒息した小蟲細禽の死屍が堆積して居る。

【靜の岩窟】 五十猛驛の東北約二軒半、靜間村の海岸垂水山の麓にある。二箇の天然岩窟で、洞門の高さ各約二米一、幅約三米、窟内は相通じて奥行約四五米、横約三六米、高さ一三米弱、俗に千疊敷と云ふ。大己貴命と少彦名命が協力して國土經營の際、籠居した遺跡と傳へて居る。

【琴ヶ濱】 仁萬驛の西南約三軒三馬路村にある。神子路附近より約二〇軒に亘る海岸白砂青松の地で、天朗かに波靜なる日砂上を散策すれば、歩々微妙なる音響を發して小琴を奏する様である。

【温泉津温泉】 (四圖た4) 温泉津驛の北一軒、自動車の便がある。温泉津は帆船時代に聞えた港で、今も和船や漁船の出入が多い。浴館は山裾近くに設けられ、

元湯と新湯とあり、元湯は温度五十度、新湯は四十六度、アルカリ性炭酸含有食鹽泉で胃腸病に特效あり、婦人病、脚氣などにも効くと云ひ、子寶湯の名も得て居る。附近には天神山公園、惠瑠寺、鶉の丸城址、櫛島、殿島、小竹島などがある。旅館 吉田屋、能川屋、後樂、益屋、康養館、かみや、長命館外數軒。また温泉津への途中、驛の西北約三〇米の小濱にも鑛泉があり、加熱浴用に供して居る。小濱は温泉津港に面して眺望がよく、夏期海水浴が行はれる。

三江線

この線は石見江津から江川の流れに沿うて東に進み川平七軒、川戸 六軒九を経て石見川越まで八軒四で達して居るが、將來は尙東に向ひ、廣島縣三次町に及ぶ豫定である。

【千疊敷】 (指定名勝) 川戸驛の南方約四軒、市山村、日和村に跨り、入口新尺橋まで自動車の便がある。新尺橋から最終の景玉の井まで、上り三時間、下り二時

間を要する。一に千丈溪とも記され、江川の支流八戸川に合流する日和川が石英粗面岩を貫穿して、長さ五斤に互る峽谷をなせるものである。石英粗面岩はその質堅硬且板状及方状の節理に富み、これ等の節理に沿うて瀑布の懸るもの多く、瀑下には深潭を湛へ、全溪殆ど瀑布と淵潭との連鎖より成るをこの溪谷の特色とする。溪中二十四勝と稱し、猿渡り、魚切、大淵、紅葉瀧、白藤瀧、鴛鴦の淵、千枚瀧、一の瀧等は最も勝景と稱されて居る。紅葉瀧は水量豊富、岩壁奇峭、楓樹滿溪を壓し、白藤瀧は溪中第一の瀑布で、幅上部八米、下部二米、直下數十米である。

【鮫魚溪】(四圖五) 石見川越驛から一二斤、中野村及井原村にあり、自動車の便がある。江川の支流矢上川の溪間にある奇勝で、井原村の冠山一名深篠山と中野村の焚火山との峽間、峨々たる岩峯相迫つて急流巖を嚙み、奔流激湍曲折して山脚を巡り、瀑と懸り淵と湛へて、奇勝絶景相繼ぎ、長さ四斤餘に及び、深篠川、瓶潭(嫁ヶ淵)、連理瀑、岩樋川、千疊敷、神樂淵等の

二十四勝がある。

石見江津から西南に進み、都野津四斤四、波子四斤六、下府六斤四を経て、濱田三斤六を過ぎれば右窓濱田灣の風光が望まれ、石見長濱五斤四、周布四斤一、折居四斤八、三保三隅五斤、岡見五斤、鎌戸五斤一、石見津田四斤五を通つて山口線の分岐驛石見益田七斤三に著く。

【有福温泉】(四圖五) 波子驛の東南約七斤、都野津驛からは西南約九斤、共に自動車の便がある。三面山を繞らした溪間の別境で土地狭く、石階の左右に旅館軒を重ねたる様、上州の伊香保に似て居る。

温泉は靈湯山の山腹閃綠岩の裂隙から湧出し、御前湯、櫻湯、早月湯、彌生湯の四浴場あり、御前湯は設備が整うて居る、旅館には内湯は無い。無色透明の単純泉で温度四五度、リウマチス、婦人病、皮膚病、神經衰弱症などに効くと云ふ。附近には周圍約八米、高さ約二七米の神代銀杏と稱する巨木がある。旅館 主屋、大崎、三階樓、小川屋、樋口外數軒。

【石見疊ヶ浦】(指定天然記念物) 下府驛の北約二斤、國分村にある。臺地性を帯びたる第三紀丘陵が海に臨みて波蝕崖をなし、崖下に千疊敷と稱する廣さ二九七メートルに餘る隆起海床があるのを云ふのである。明治五年濱田地震の際隆起したもので、有史後の隆起海床として模範的のものだと云ふ。崖及床にはこの地方に治布する第三紀新層の砂岩、礫岩、頁岩の互層より成りこれ等の諸岩が水平層をなして相重なる状が頗る美しい。砂岩には淺海性の貝化石及鯨骨化石がある。この層の特色とすべきは貝化石、鯨骨、流木片を核心とする球塊の數多存在することである。これ等の球塊は幾多の層列をなして砂層中に介在し、風化水蝕の兩作用に抵抗して海床上及崖側に半球狀の凸起をなし、頗る奇觀である。

【石見國分寺址】(指定史蹟) 下府驛の東北二斤、國分村國分、松林にある金藏寺の境内で、本堂の下に舊時の金堂礎石が遺存し、また境内の一隅に塔址の土壇があり、礎石の一部が露出して居る。古瓦が境内外から

發見され、寺に發見の蓮瓣巴瓦及唐草瓦、小埵佛、甃等を所藏して居る。

濱田驛 (四圖五) 島根縣那賀郡石見村

▽乗合自動車 内村行、市木行、大朝行、跡市行、波花行、廣島行

【濱田町】(四圖五) 濱田驛下車。町は濱田川に跨り、西から北は日本海に沿ひ、西部に濱田港、東北部に松原灣が灣入し、市街は主に南部の低地にある。面積約三方料。もと松平氏六萬石の城下で、聯隊區司令部、水産試驗場等を置かれ、工業、水産業等が行はれる。濱田港は島根縣唯一の開港で、日本海西部に於ける沖合漁業の根據地である。人口は一萬五千、石見第一の都會である。隣村石見村に歩兵第二十一聯隊の兵營がある。

【鏡山】 濱田驛の西約六〇〇米、石見村にある。もと松山と云つた小丘で、山腹に眞言宗來福寺があり、境内に岡本道女の碑が建つて居る。道女は舊劇で名高い烈女、鏡山の尾上である。

【心覺院】〔淨土宗〕濱田驛の東北半軒、濱田町浅井にある。本尊阿彌陀如來立像は胎内に建長七年六月十八日の假名書の墨書銘あり、光背も臺座も舊の儘で、國寶に指定されて居る。

【昭三公園】濱田驛の西南約一軒、石見村にあり、鏡山と對し、眺望に富み、觀音寺山と稱するところに薯代官井戸正朋の銅像、その峯續きに、今宮神社がある。

【龜山遊園】濱田驛の西約一軒半、濱田川下流右岸龜山城址にあり、櫻及紅葉の候杖を曳くによく、戰病死者忠魂碑、天主閣址等がある。

【粟島公園】濱田驛の西約二軒、濱田港の海岸にあり、瀬戸ヶ島、馬島、矢筈島、鶴島等を望み風景がよく、附近に海水浴場の設備があり、極樂寺に烈女松田察女即ち鏡山のお初の墓がある。

【檢潮所】濱田驛の西北約二軒、濱田町松原灣の東北部外浦の海岸にあり、古名を姥の懷と云ひ、帆船時代の良港で、風景がよく、檢潮所を設けてある。

【津田海水浴場】石見津田驛から二〇〇米、水清く遠淺

を害して居るのは觀者の注意を要する。

寶物

一二河白道圖

〔國寶〕

一幅

絹本着色、長さ三尺一寸、幅一尺三寸、室町時代の優秀な作である。上部には釋迦の坐像と雲上の彌陀を描き、前面には火の河、水の河があり、その中間の白道を一人の貴女が合掌して專念彌陀を仰ぎつゝ、進んで居る圖である。

【染羽天石勝神社本殿】〔國寶〕石見益田驛の東約三

軒、益田町萬福寺の東北四〇〇米にある。祭神天石勝命外二十二柱で、天正十一年領主益田越中守元祥の再建である。本殿は三間社、流造、屋根椽瓦葺で、臺殿の輪廓は多少屏弱の嫌があるが、内部の透彫手挾の繪様は頗る優雅の趣がある。屋蓋は當初何を以て葺いたかは明でないが、寶曆四年の折は銅板葺で、明治九年に檜皮葺とし、同二十三年椽瓦葺に変更したために外觀の美を傷けて居る。

【醫光寺庭園】〔指定史蹟・名勝〕石見益田驛の東三軒半、益田町染羽にある。染羽天石勝神社の東約四〇〇米、正和三年龍門土原和尚の創建にかゝり、舊崇觀寺と稱し

である。附近に鶴の鼻の古墳がある。旅館 角田屋。

石見益田驛 (四圖はら) 島根縣美濃郡吉田村上吉田

▽山口線 石見益田、小郡間 九三軒九

▽乗合自動車 益田町行、高津行

【萬福寺】〔時宗〕石見益田驛の東約二軒、益田町役場の西にあり、自動車の便がある。

本堂〔國寶〕文中三年(室町時代)に國主益田越中守兼見の建立せしもので、七間七面、單層、屋根入母屋造椽瓦葺の簡素な建築である。

庭園〔指定史蹟・名勝〕この庭園は畫僧雪舟が當地に留錫の當時築造せるものと傳へ、その構造は築山泉水庭に屬し、書院の前から佛殿の背後に互つて南向に位置して居る。心字に像つた池を中心として池の向ふに石山を築き、つゝじなどの灌木を配し、その山脚東西に延び、東には松、高野松等の巨樹あり、西方山脚には遠く離れて二石また三石を配し、その樹石の配置風韻の清雅なるは、今尚嘆美に値する名園である。池邊にある巨大な石燈籠は近年増置したもので、全園の風致

た。庭は雪舟の作にかゝると傳ふるが、享保十四年堂宇回祿の時に災害を蒙りて改更を経た部分もある。庭園は書院の前から佛殿の後に互りて山に倚つた西南向の泉水庭で、山脚に小池あり、池畔石を組み、中央島を置き、岬を作り、石橋を架して居る。丘の斜面に處々つゝじを刈込物に仕立て、上方高所に絲櫻を植ゑ、園の周縁に竹籬を繞らして居る。景趣清雅な依山の泉水庭として佳姿を有して居る。境内本堂前の左側に領主益田越中守宗兼墓あり、また東門外に雪舟灰塚あり、遺骸を茶毘に付した場所で、「前東福雪舟等揚大禪師」の碑がある。

【柿本神社】〔縣社〕石見益田驛の西方約二軒、高津町の南端高角山の山腹にあり、自動車の便がある。祭神は歌聖柿本人麿で聖武天皇神龜年中の創立と傳へ、もと高津港口鴨島にあつたが、一時松崎に移轉、靈元天皇の延寶九年人丸寺のあつた現地に遷祀された。境内樹木蔚葱として茂り森嚴である。石階を登ること數百段、樓門を過ぎて、本殿の横に上れば、左方に社務所

があり、本殿、幣殿、通殿、拜殿、額殿相連つて周圍に透塀を繞らし、寶庫、寶物陳列所等も備はつて居る。社寶に中御門天皇の享保八年人麿の一千九百祭を施行した時に賜はつた同天皇の御製以下諸親王公卿の短冊がある。社頭の小亭觀月亭は展望開豁である。人麿は持統文武兩朝に仕へ、晩年石見國に赴任してこの地に居たが、文龜元年こゝで歿したと傳へる。例祭は四月十五日であるが、九月一日の秋祭と節分には參詣者萬を以て數へ、周防宮市の天滿宮、津和野の稻成神社及當社を連絡する季節的巡遊自動車がある。

【吹上松原】 高角山から北約八〇〇米、高津町にあり、松露、防風、筆草の産地で、風光明媚の散策地である。松原にある連理の松は雌雄の老松二株が幹の中央で枝を連ねて居る。また松原の西方に清冽鏡の如き蟠龍湖がある。

【雪舟終焉地(大喜庵)】 石見益田驛の東北一軒半、吉田村下本郷にあり、東光寺の後身たる大喜庵がそれである。驛を出て益田町に向つて東進すること約三〇〇米

「從是雪舟終焉處道」と題する石標がある。そこから左折して田圃道に出て、雪舟橋を渡り、約一軒にして右手の丘端を指して進めば「畫聖雪舟舊跡」、「永平末流禪庵」と刻める兩石標に到達する。庫裡を左方に見て石段を上り、大喜庵復興碑の前を過ぎ、更に小石段を上ると、大喜庵がある。赤瓦葺八間四面の建物で、東光前住雪舟等揚大和尚禪師の古位牌竝に高村光雲作雪舟等揚禪師木彫坐像を安置してある。堂下には雪舟筆洗の池と稱する清泉が湧出して居る。寺に雪舟遺愛の椿や櫻の枯株と云ふものが遺存する。

【雪舟墓】 大喜庵背後の丘腹にあり、後世の改修を経たもので高さ八尺、三段の臺石の上に石厨子の如きを安置して、内部に元の墓石の破片を納め、且「石州山地雪舟廟」の銘がある。墓の傍に東光寺開山石窓大和尚、左に大喜庵開闢大喜松視上座の石碑等がある。雪舟は有名なる畫僧で晩年崇觀寺(醫光寺)の住職となり、後その末寺なる東光寺(大喜庵)に移り、永正三年八月八十七歳を以て遷化した。

石見益田を出て、西南に向つて走り、戸田小濱(九軒八、飯浦三軒七)を過ぎれば、島根縣から山口縣に入る。江崎五軒八、須佐六軒六、宇田郷八軒八、木與六軒四、奈古四軒六、長門大井四軒三を経て萩市内に入り、市内にある東萩七軒五、萩三軒八、玉江二軒四の三驛を過ぎて西に進み、三見五軒七、長門三隅一〇軒六を経て美禰線の分岐點正明市(五軒一)に著く、

【小濱海水浴場】 戸田小濱驛の北五〇米、沿海一帯を三里濱と云ひ、白沙青松連りて新舞子と稱して居る。

風浪の關係によつて遠淺に變動はあるが、水清く海水浴に適する。旅館 角屋。

【須佐灣】 (指定名勝・天然記念物) (七圖あ一) 須佐驛の西二〇〇米、須佐町にあり。須佐灣は東方に彎入して水深く、灣岸は沈降性で出入に富み、平地甚だ少く、北方には海拔五三米の高山が聳え、東方及南方には一〇〇米乃至三〇〇米の開析高臺地が起伏し、灣の内外に平島、辨天島、黒島、天神島(雄島)及白瀬等の外、無數の岩

礁が碁布して居る。高山(神山)は標式的の餅盤體で主に斑瀾岩より成り、岩漿の晶分化作用の現象が明かに認められ、岩石成因學上極めて重要な山體である。山嶺に於ける岩石は磁力が強く、磁針が効を奏しない所がある。この山を西南方から須佐灣を隔て、望んだ景は一幅の山水畫である。平島は第三紀礫岩層の島であり、中島は石英斑岩を以て構成され、岩礁、斷崖が群がり、赤瀬洞門を最として海蝕洞門が諸所に開けて居る。赤瀬洞門は高さ九米、幅五米餘、奥行五〇米餘に達する。鎧島、疊岩、千疊敷附近は第三紀の頁岩、砂岩が斑瀾岩の接觸變質を受けてホーフェルスに化した所で、千疊敷は幅五〇米、長さ六〇米弱に及び、平滑な海蝕島である。灣の南岸から灣外南方金井崎邊までは五六十米から百米以上に及ぶ石英斑岩の絶壁が屹立して居る。

本灣の名勝としては屏風岩、金瀾、長磯、天神島、觀音龍宮、疊石、平島等があり、陸岸からは金瀾及長磯の風光を見るを勝景とし、舟上からは屏風岩及疊

岩等を望むを奇景とする。
萩驛 (一二圖た8) 萩市椿

▽乗合自動車 山口、三田尻行(省營防長線)、越ヶ濱行(以上東萩、萩兩驛から)、福賀新田行(東萩驛から)
一日平均

乗車人員 一五一人 降車人員 一七四人
發送貨物噸數 一一噸 到着貨物噸數 九噸
主要發送貨物 柑橘(年一、五九噸)、米(年七三噸)
主要到着貨物 石炭(年五三噸)、果物類(年六三噸)

【萩市】 (一二圖) 萩、東萩、玉江三驛所在地、阿武川の下流に沿ひ、海に瀕し、東西一料に近く、南北一七料を超え、面積は約七九方料に及び、東、南、西の三方に丘陵聳え、形勝の地である。この地古く島と呼び、今に小島の地名あり、天正永祿の頃より萩と呼ぶに至つた。慶長年間から文久三年まで二百六十年間、毛利氏三十六萬石の城下であつたところで史蹟に富み、幕末明治維新の偉人傑士を多く輩出したのはこの地の誇とするところである。毛利氏山口に移るに及んで稍衰へたが、近年隆盛の運に向ひ、大正十二年椿村、

【松下村塾】 (指定史蹟) (一二圖か4) 東萩驛の東南一

料、市内松本にあり、自動車の便がある。今、縣社松陰神社の境内にあり、木造瓦葺、平屋建て、吉田松陰の叔父玉木文之進が創めた所に係り、松陰が江戸幕府の譴責を蒙り幽囚された間、安政三年七月藩許を得てから、安政五年十二月五日入獄の時までこの塾に於て子弟を訓育した處である。八疊敷及十疊敷半の二室より成り、よく舊時の状態を遺存して居る。當時門下に俊髦輩出し、維新長藩の人傑この門下に出てたもの多數で、久坂義助、伊藤博文、前原一誠、品川彌次郎、山縣有朋、三浦梧樓、高杉晋作等の偉人がある。尙神社附屬の寶物館には松陰の遺品類を保存して居る。

【吉田松陰幽囚の舊宅】 (指定史蹟) 松下村塾の東にあり、瓦葺、木造平屋建て、八疊三室、六疊三室、四疊一室、三疊一室、三疊半一室等の諸室の外に物置及土間を有し、幽囚の室は東南隅の三疊半の一室である。松陰幕府の譴責を蒙り野山の獄に拘せられたが、安政二年十二月十五日松陰一旦獄より免されてのち幽囚さ

椿東村、山田村の三村を編入し、昭和七年市制を布くに至つた。産物は水産を主とし、夏橙、木製品、生絲及清酒等もある。昭和二年開港場となつたが、貿易は未だ振はない。海岸では海水浴が行はれる。人口三萬二千。

- ▽官公廳その他 市役所(江向)、區裁判所(同)、稅務署(唐樋町)
- ▽銀行 百十銀行支店(東田町)、長周銀行支店(同)
- ▽會社工場 防長自動車會社(唐樋町)、長門峽自動車會社(同)、大谷天然水族館(越ヶ濱)、大萩市場(東田町)、太陽自動車會社(唐樋町)、一〇自動車會社(東田町)
- ▽新聞社 長州新聞社(唐樋町)、長周日々新聞社(土原)
- ▽旅館 トモエホテル(唐樋町)、富田屋旅館(橋本町)、一二三旅館(唐樋町)、田坂屋旅館(同)、吉山旅館(上五間町)、中村旅館(古萩)、大阪屋旅館(唐樋町)、京坂旅館(西田町)、田中屋(香川津)、〇一(西田町)
- ▽料理店 高大(唐樋町)、梅月(吉田町)、醉月(川島)、うれしの(江向)
- ▽娯樂場 住吉座(濱崎町)、永樂座(上五間町)、喜樂館(吉田町)
- ▽土産物 萩焼、蒲鉾、夏蜜柑、マーマレード、萩の薫夏蜜柑シロップ、竹細工品、雲丹その他海産物。

れた所で、建物は後年多少の修理を経たるも、幽囚の室はよく舊態を遺存して居る。建物の西北にある土間の一部に米搗場が存する。米搗臺及石臼は今、屋外に移轉して保存して居る。幽囚されたのは安政二年十二月十五日、松陰が長門野山の獄を免されて父の家に歸せられ、翌三年正月から安政五年十二月五日再び入獄するに至つた迄の二ケ年間である。

【伊藤博文舊宅】 (指定史蹟) (一二圖あ4) 東萩驛の東約一料、市内椿東字新道にあり、自動車の便がある。住宅及附屬の便所、湯殿の三棟から成り、居室は草葺、平屋建て六疊一室、三疊三室等六室と玄關、臺所の土間を附屬し、伊藤博文が十四歳の安政元年から明治元年兵庫縣知事に就任する迄の住宅であつた。今宅地内に博文の銅像が建つて居る。

【明倫館水練地】 (指定史蹟) (一二圖な4) 東萩驛の東南約三料、萩驛の北約二料、市内江向、明倫尋常高等小學校内にあり、自動車の便がある。明倫館は水戸弘道館、岡山開谷覺と共に日本三館と唱へられ、享保四年

藩主毛利吉元始めてこれを萩城内堀内に設けたが、嘉永二年藩主毛利敬親これを現在の地に重建し、聖廟、講堂、文庫、御殿、劍術、槍術、水軍、砲術、地理、算術、木馬、柔術、甲冑、兵書、禮式等の諸堂を完備した。水練池は水軍附屬のもので水騎の練習のため設けられたものである。池は玄武岩の石垣を以て築き、周縁に長い切石を繞らし、東西二十一間餘、南北二十一間、深さ一間半あり、村田清風の設計にかゝると云ふ。池の前面に相並んで二基の碑が建つて居るが、一は元文六年山縣周南の撰文に成り高さ約三米「長門國明倫館記」と題し、一は嘉永二年の「重建明倫館碑」で高さ約三米半、山縣禎文(大華)の撰文で、何れも龜趺上に建つて居る。二碑は水練池と共に指定の史蹟である。

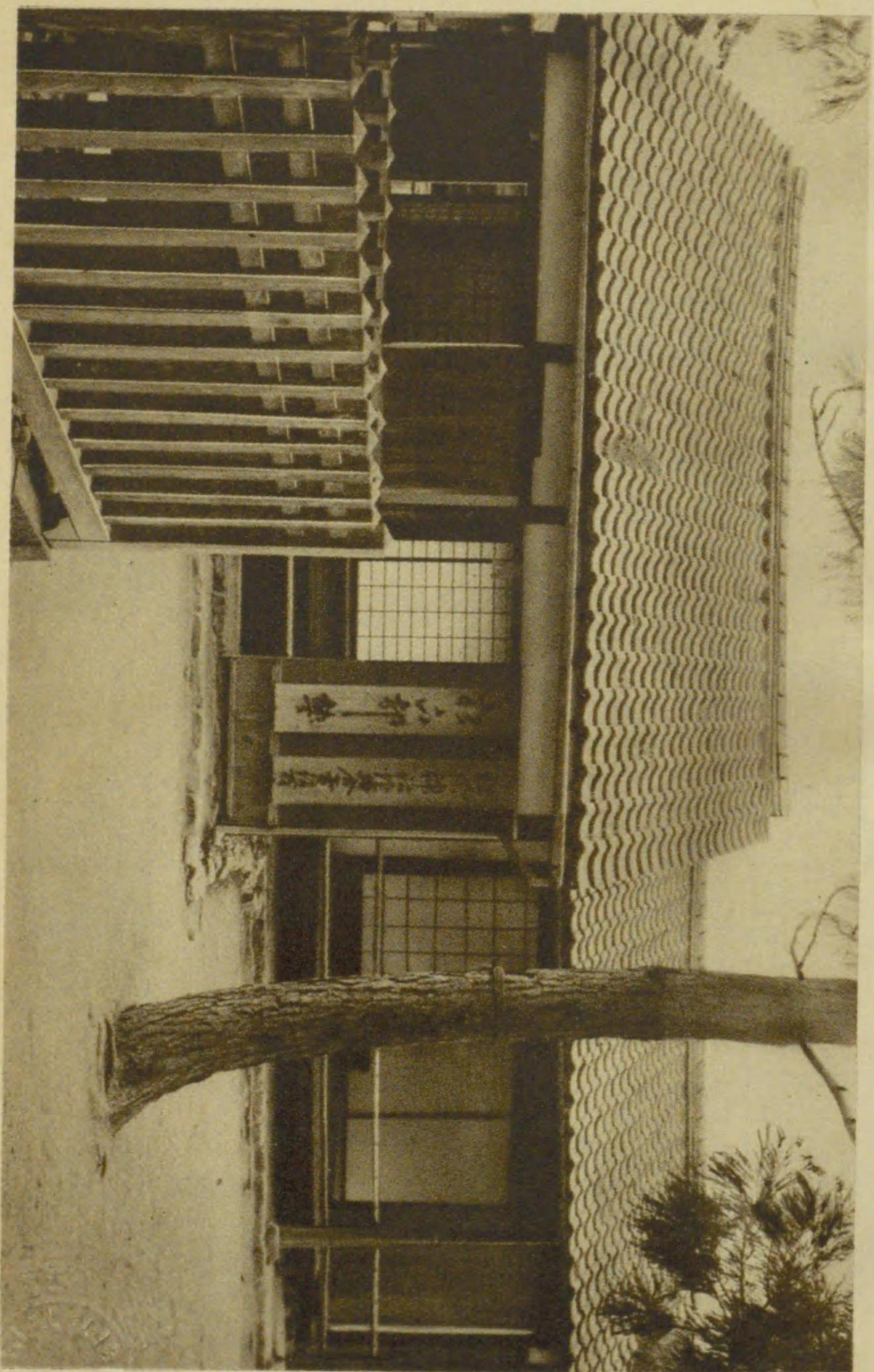
【木戸孝允舊宅】〔指定史蹟〕(二二圖は4) 東萩驛の西南一軒半、舊明倫館の西北に當り、市内吳服町二丁目にあり、自動車の便がある。木造、瓦葺、二階造で階下は玄關、座敷等九室あり、階上は二室ある。孝允は西

郷隆盛、大久保利通と併せて維新三傑と稱せられ、十七歳の時松陰の門に入つた。舊宅は孝允が生誕の際より嘉永五年十一月江戸出府まで二十ヶ年間起臥した所である。階下の一室は天保四年六月孝允が呱呱の聲を擧げた産室で、階上に幼時勉學の書齋が存し、その他客室浴場等まで全く舊態を完全に遺存し、庭の樹木、手水鉢、沓石、庭石もその儘遺存して居る。

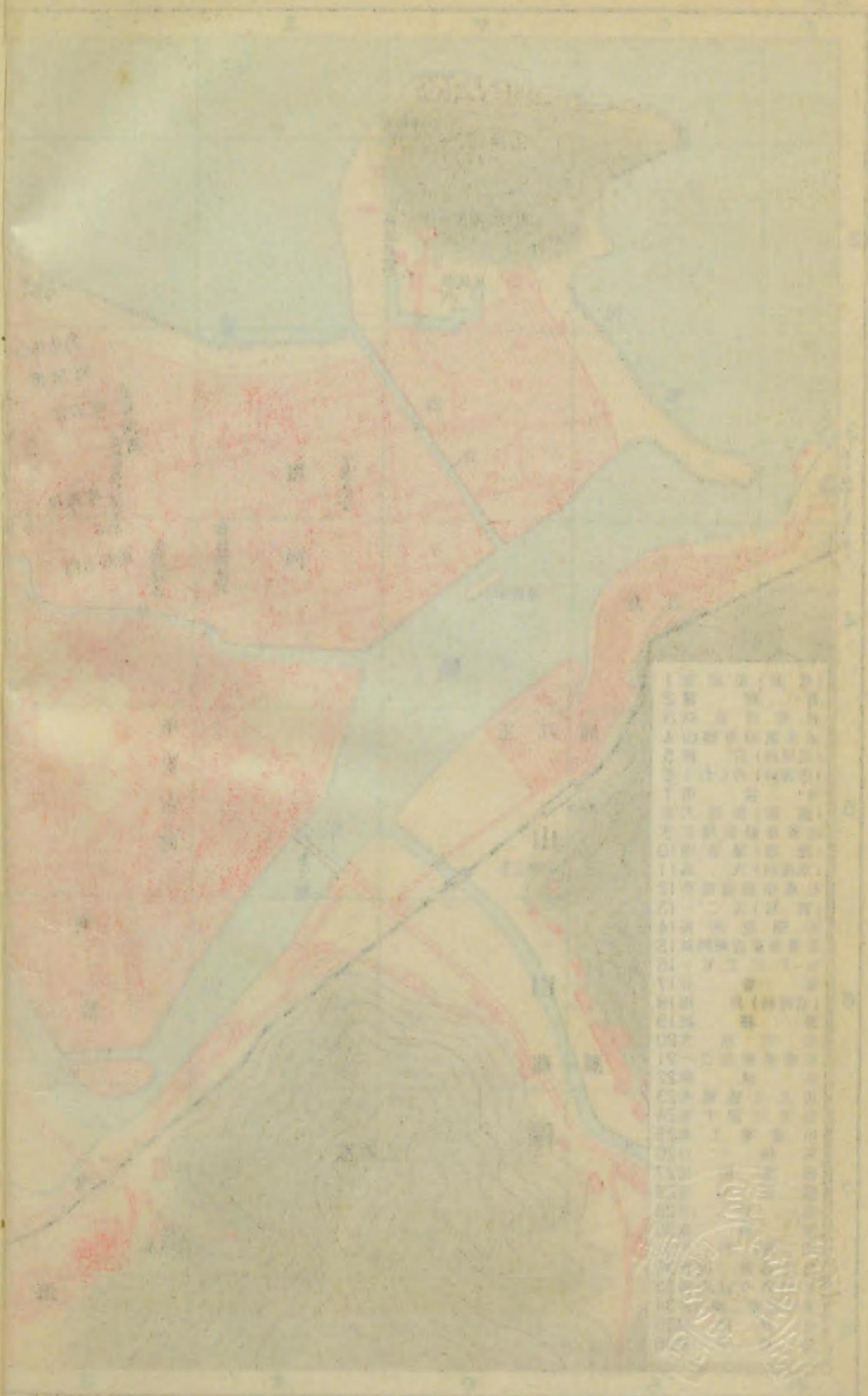
【菊ヶ濱海水浴場】 東萩驛の西二軒半、松本川口から指月山に亘りて灣をなし、白砂青松ながく連りて風景がよい。海は遠淺で海水浴が行はれる。

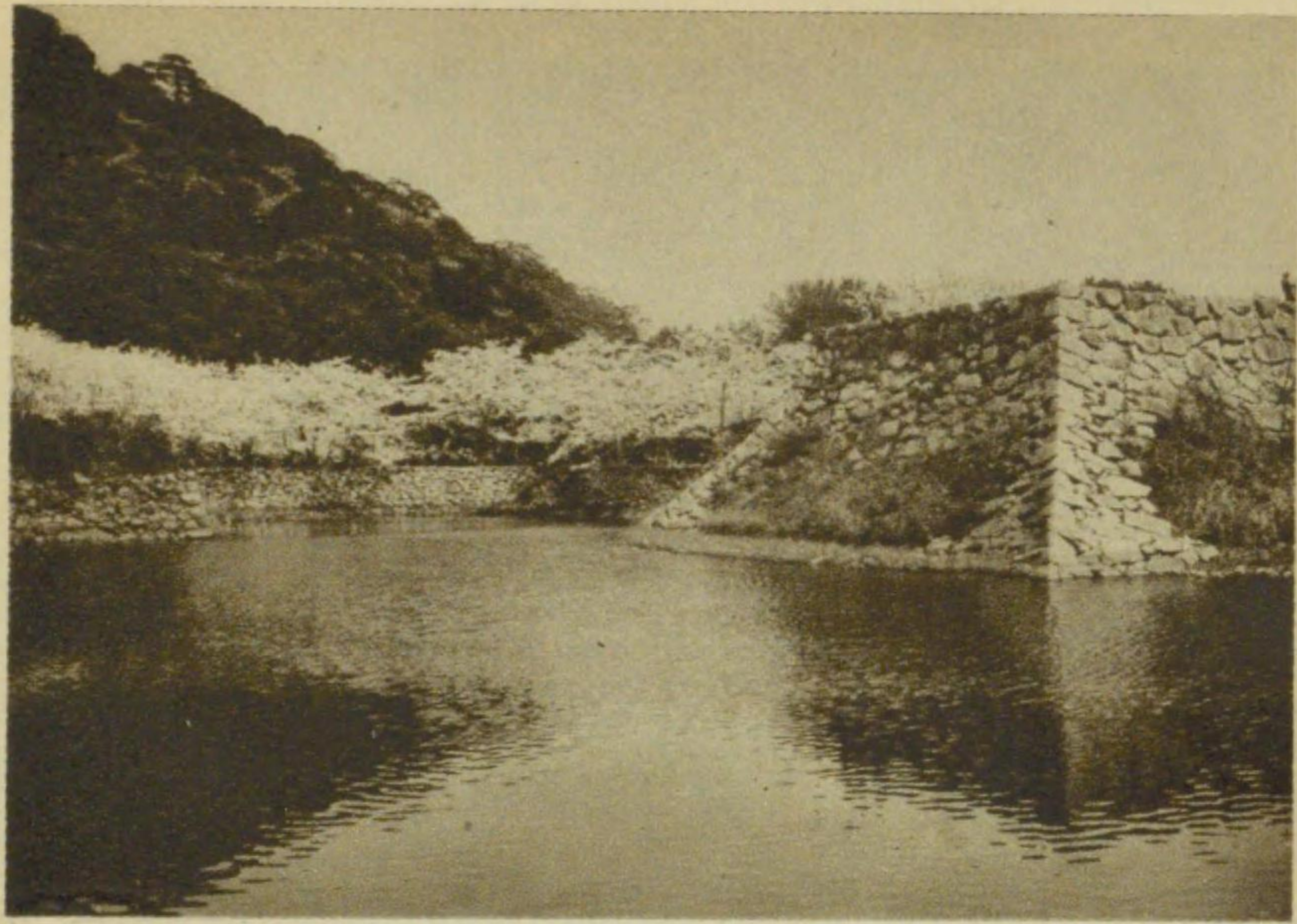
【志都岐公園】 (二二圖や2) 東萩驛から西約三軒、萩城址にあり、園内に志都岐山神社、江風山月樓等がある。江風山月樓は毛利敬親が築造した茶室で、屢々勤王の志士と國事を密議した所である。もと阿武川畔にあつたのをこゝに移したものである。園内には櫻樹が多く花時は賑ふ。

【志都岐山神社】〔縣社〕(二二圖や2) 志都岐公園内にあり、舊萩城址本丸址で指月山の東南麓にあたる。は

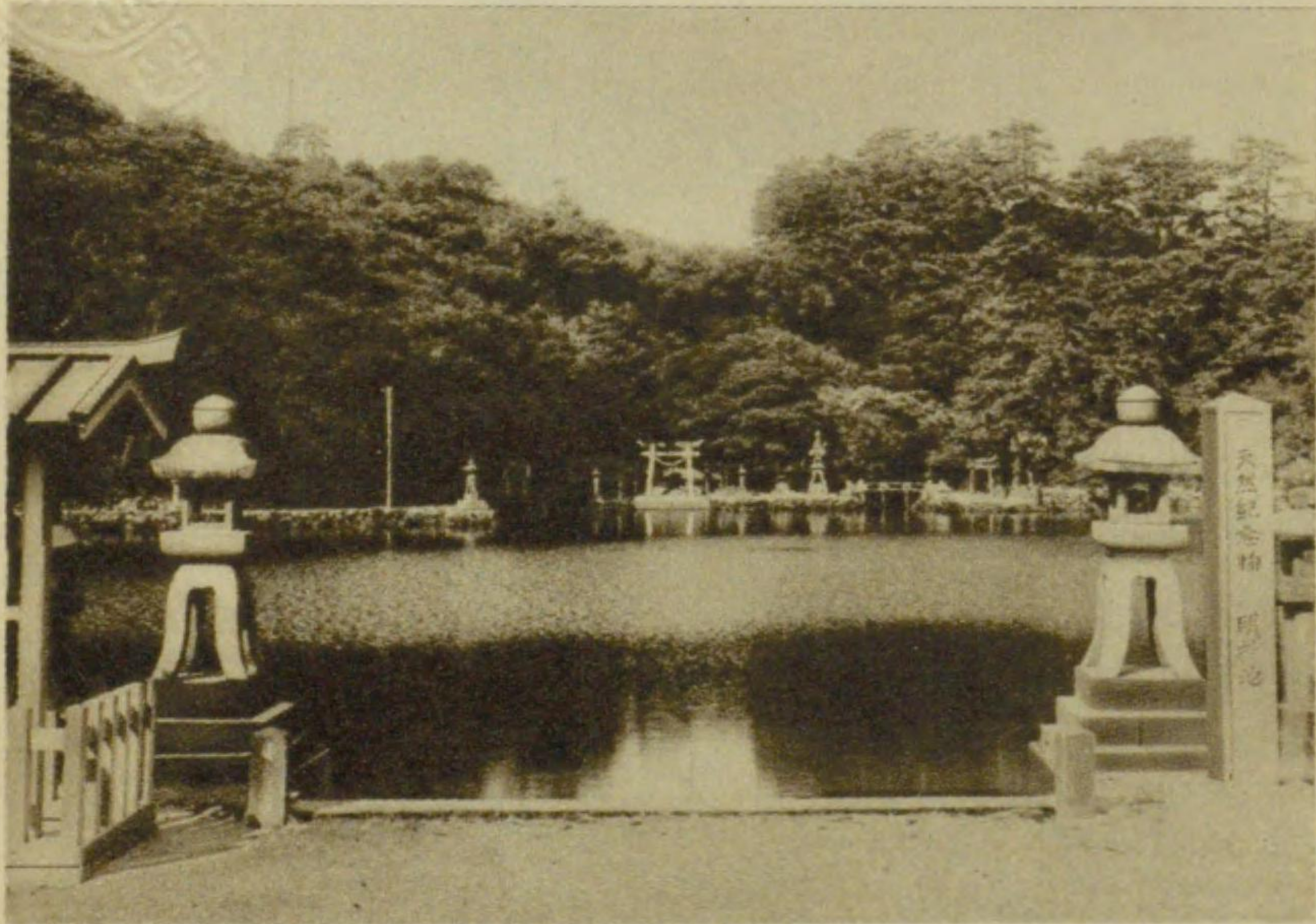


松 下 村 塾





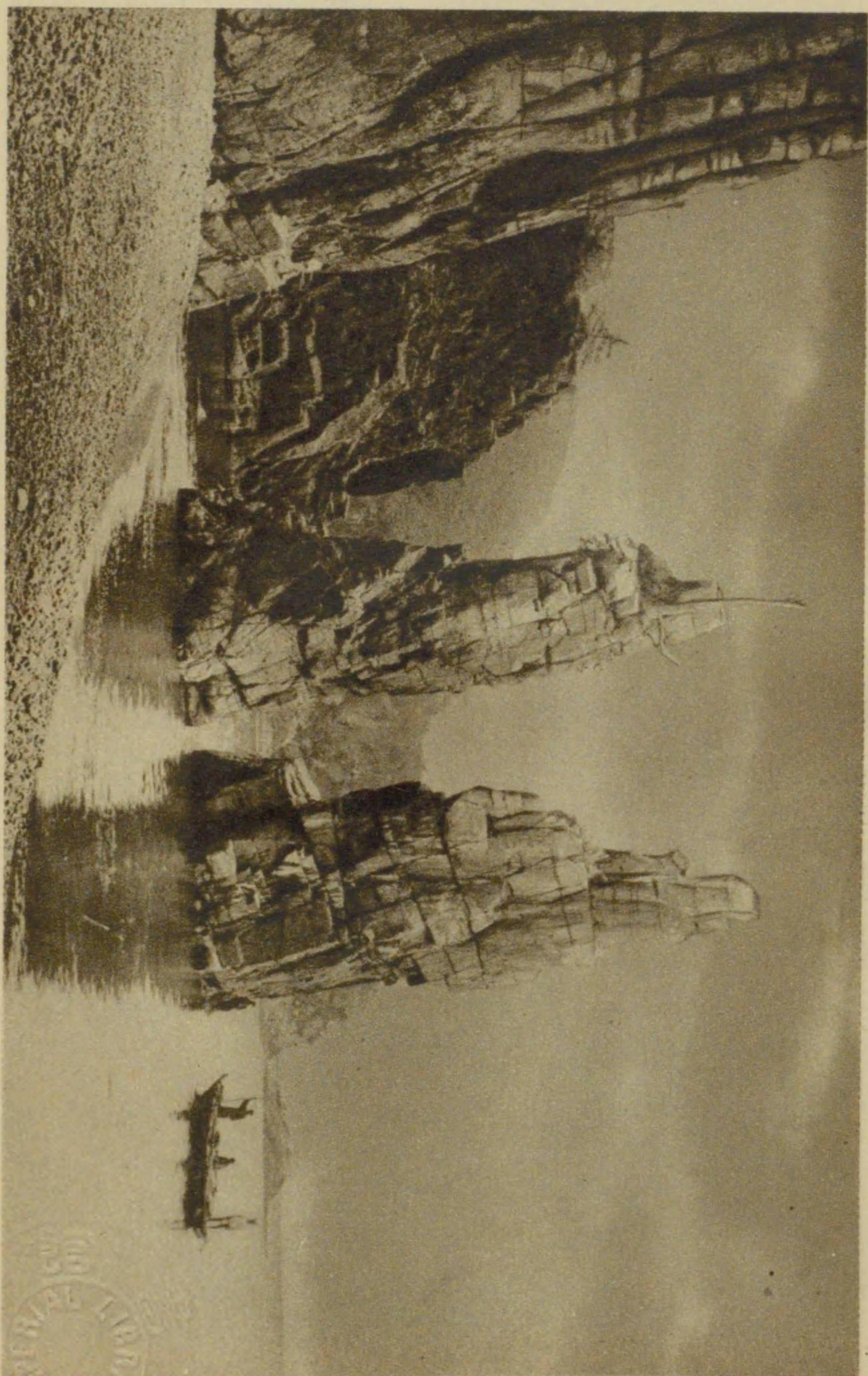
萩城址

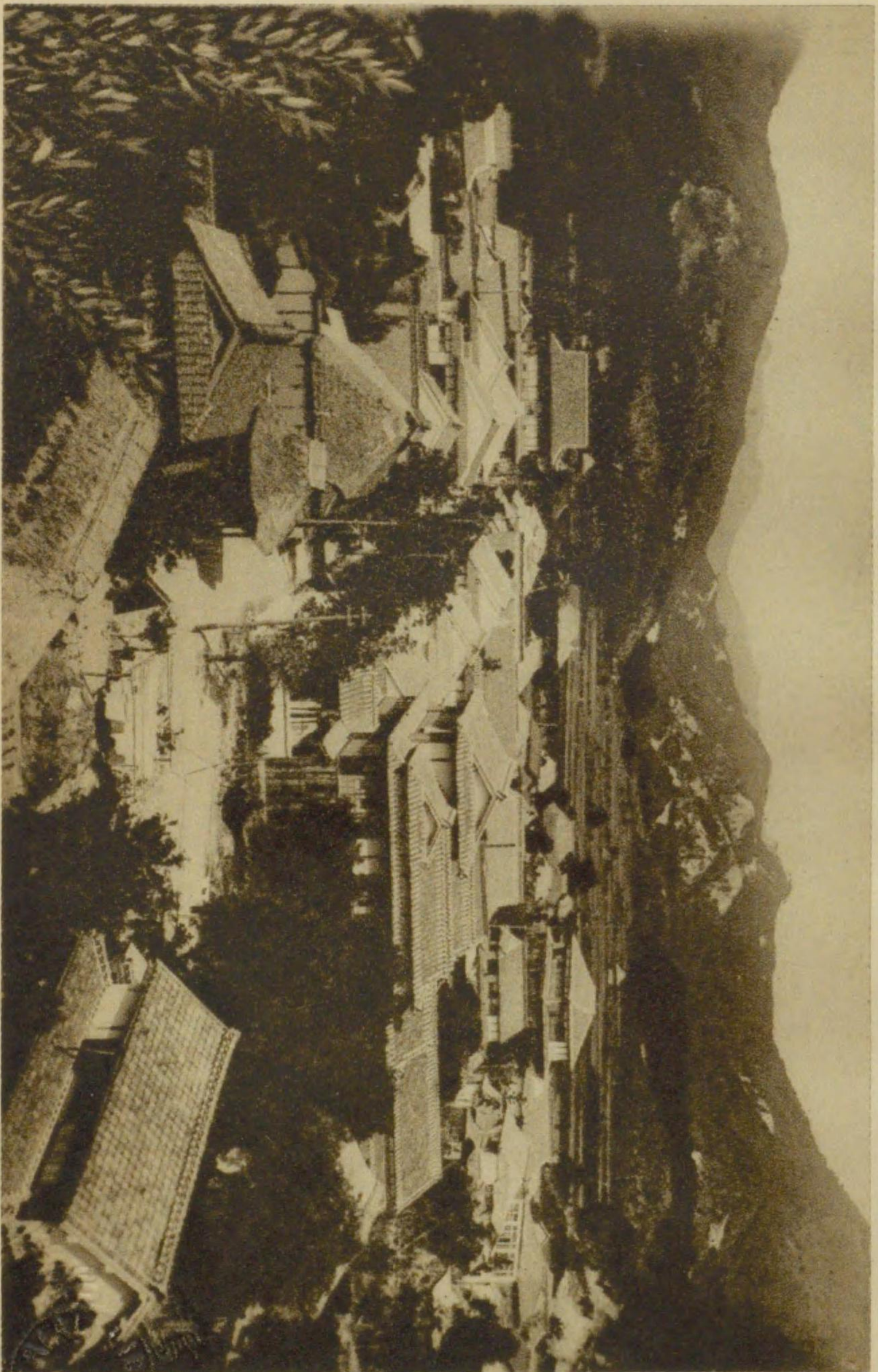


神明池



岩立の島海青





泉 温 柳 川



じめ毛利元就、輝元、敬親を祀り、のち隆元以下十三公及元徳を合祀して居る。明治十二年の創建でもと指月山神社と稱した。社寶の太刀は光房弘安三年十月日の銘あり、革包太刀で桂元澄の寄進にかゝり、太刀箱を附屬して居るが、別の一口延吉の銘ある絲卷太刀（東京遊就館出陳）と共に國寶に指定されて居る。土地神及天徳日命を祭神とする仰徳大明神社は慶長築城の頃より城の鎮守社であつたが、今、同一境内に遷された。

【南明寺】〔天台宗〕萩驛の東南二軒、市内橋、山腹景趣の地にある。眼下には阿武川の清流にかこまれた市街を見下し、指月山を前景として、灣内に點々散在せる諸島を望み、展望美に富む。尙境内には櫻楓あり、花季に美觀を添へる。

本堂は三間三面寶形造、江戸時代の建築であるが、堂内安置の木造聖觀音立像及千手觀音像は國寶に指定されて居る。千手觀音像は破損が甚しい。兩者とも藤原時代の作である。

【大照院】〔臨濟宗〕萩驛の西一軒、市内橋、山麓景勝の地にある。

赤童子立像〔國寶〕木造、高さ二尺五寸五分、極彩色、玉眼、天冠を着け口を開き右臂を張り左手を屈し右足を踏出し衣を翻した形相である。鎌倉時代の作。

【萩反射爐】〔指定史蹟〕東萩驛の東北約一軒、市内前小畑にあり、自動車の便がある。長藩の軍艦建造地であつた夷鼻に近接する上の原と呼ぶ小丘上にあり、畑地に直立して建ち、車窓の東側に望見される。高さ一五米あり、基底は長方形をなし、上方漸次狭小となり、分れて二本の煙筒となつて居る。幕末海防の急を告ぐるや、萩藩製鐵所をこゝに營み、藩士山田亦介、來原良藏に命じて反射爐を築かしめた。當時高竈と呼び、安政の末より萬延に掛けて築造せられ、主として艦船、銃砲その他の兵器製造の用に供せられた。爐は耐火粘土、玄武岩片及煉瓦を以て築造せられ、玄武岩で組立てた部分は、表面漆喰を施し、今殆ど全部剝脱し、唯だ南面にのみ僅に残存する。爐の内面に煙突内

の耐火粘土と煉瓦とを熔融固結した状は、強度の火力が用ゐられた事を證する。

【東光寺】〔黄蘗寺〕東萩驛の東二軒半、市内松本にあり、自動車の便がある。元祿四年毛利吉就の創設で伽藍備はり、結構莊麗であつたが、維新後衰頹して今本堂、山門、方丈、看門を遺すのみである。大照院と共に毛利家累代の菩提寺で、本堂の背後に吉就、吉元、重就、齊房、齊元五公の墓及各夫人墓があり、その前面に元治甲子變の殉難者益田右衛門介等十九烈士の墓がある。尙、同寺附屬の墓地には吉田寅次郎(松陰)高杉晋作、玉木文之進墓等がある。

【明神池】〔指定天然記念物〕東萩驛の北約五軒、市内越ヶ濱にあり、自動車の便がある。池は笠山の東麓に位置し、もと藩主の遊樂地であつて、辨天池或は御茶屋池と呼んだことがある。面積約二三アール、大池、小池及奥の小池の三部に分れ、天然の鹹水池にして、池水は地下より外海と通じて居るが、外海の水よりも鹽分少く、比重は一・〇二八五乃至一・〇二八七にして、干満の作用

をなす。水深は一定しないが、最深四米半に過ぎない。池は天然の水族館となり、その中にはまだひ、くろだひ、めじな、すずき、ふぐ、かれい、ぼら、ゑい、こち、たなご、このしろ、かははぎ、ぎざみ、いさぎ等近海に於ける磯附魚の大部分を見、投餌を競ひ採る有様が面白い。これ等の中くろだひ、めじな、ぼら、このしろ等は盛に孵化し、春期池水を黒色とする。まだひは總て漁師の放魚したのが成長したのであると云ふ。廻游性のさば、いわし、かつを、ぶり、しいら等は一尾も認められない。池畔は玄武熔岩起伏參差し、岩角上には十數臺の石燈籠所々に配置され、老樹その上に枝を垂れ、嚴島神社及辨天社など樹間に隠見し、影を逆様に池中に投ずる等、附近の添景と相俟つて風光明媚である。

【笠山】東萩驛の北約四軒、市内椿東にあり、自動車を通ずる。この山は日本海に突出する笠山半島一名越ヶ濱半島の略中央部に聳え、海拔二三米の成層火山にして、展望の廣い頂上には徑、深各三〇米の舊噴火口

がある。半島は全部石英玄武岩、玄武熔岩、火山彈、火山灰及磊々たる燒岩より成り、處々に冷氣を發する風穴を有し、山中に寒帶植物と熱帶植物が同棲して居る。雜木の中に點在する橘は五十株を下らない見込である。また嘗て飼養された牛が野生して居るので發見次第射殺されると云ふ。

【笠山橋 自生北限地】〔指定天然記念物〕東萩驛の北四軒、越ヶ濱の北方七〇米、笠山の東北面地下山、北緯三四度二六分四七秒に位し、八株成育して着果し、古來山蜜柑と呼ばれる。橘は分布地域狭く、九州の南部及紀伊の山林中に極めて稀に見ると云ふ。

【六ツ島】萩市の沖遙に原始の神祕を包んで展開する六箇の群島で、織惠姫の傳統にはくくまれた羽島、高須御殿の古代支那建築に支那文化を偲ぶ肥島、相島の大日如來等遺蹟と奇勝に富み、春の櫻、夏の舟遊、秋の紅葉共に最も家族的な探勝地である。

【川上村むくげ群落】〔指定天然記念物〕萩驛の東約一〇軒、長門峽の北端渦原の西方六軒、川上村字平家にあ

り「むくげ」は阿武川の沿岸にあつて石灰岩壁の露出せる平家山より、上流約二軒、下流約六軒の間に分布すると稱され、岸邊に生ずれども、少しく山崖を上れるところにもこれを見る。概ね小灌木状を呈し、細き枝が叢生し、植栽されたものゝ如く完全に發育しない。花は淡紅紫色、花徑約四・五厘、花瓣長幅共に約三厘、葉は長さ約六厘、幅約四厘、葉縁には波状の出入あり、葉柄約二厘である。

正明市驛 (七圖さ3) 山口縣大津郡深川町

▽美 禰 線 正明市、厚狭間 四六軒

▽仙崎支線 正明市、仙崎間 二軒二

▽乗合自動車 仙崎行

【深川町】(七圖さ3) 正明市驛及美禰線長門湯本、澁木二驛所在地。深川灣即ち外海を北にし、東西一二軒七に近く、南北約一三軒半、面積凡そ八五方軒、一般に山岳多く、深川北流して海に注ぎ、北部は稍平坦にして耕作に適する、産物の主なものには農産及林産で、工産に深川焼がある。本町の中央部深川の溪流に

沿うて温泉街あり、湯本温泉の名で知られて居る。人口一萬一千。「湯本温泉その他美禰線の記事は山陽線に附記してある」。

【青海島】

〔指定名勝・天然記念物〕（七圖さ）

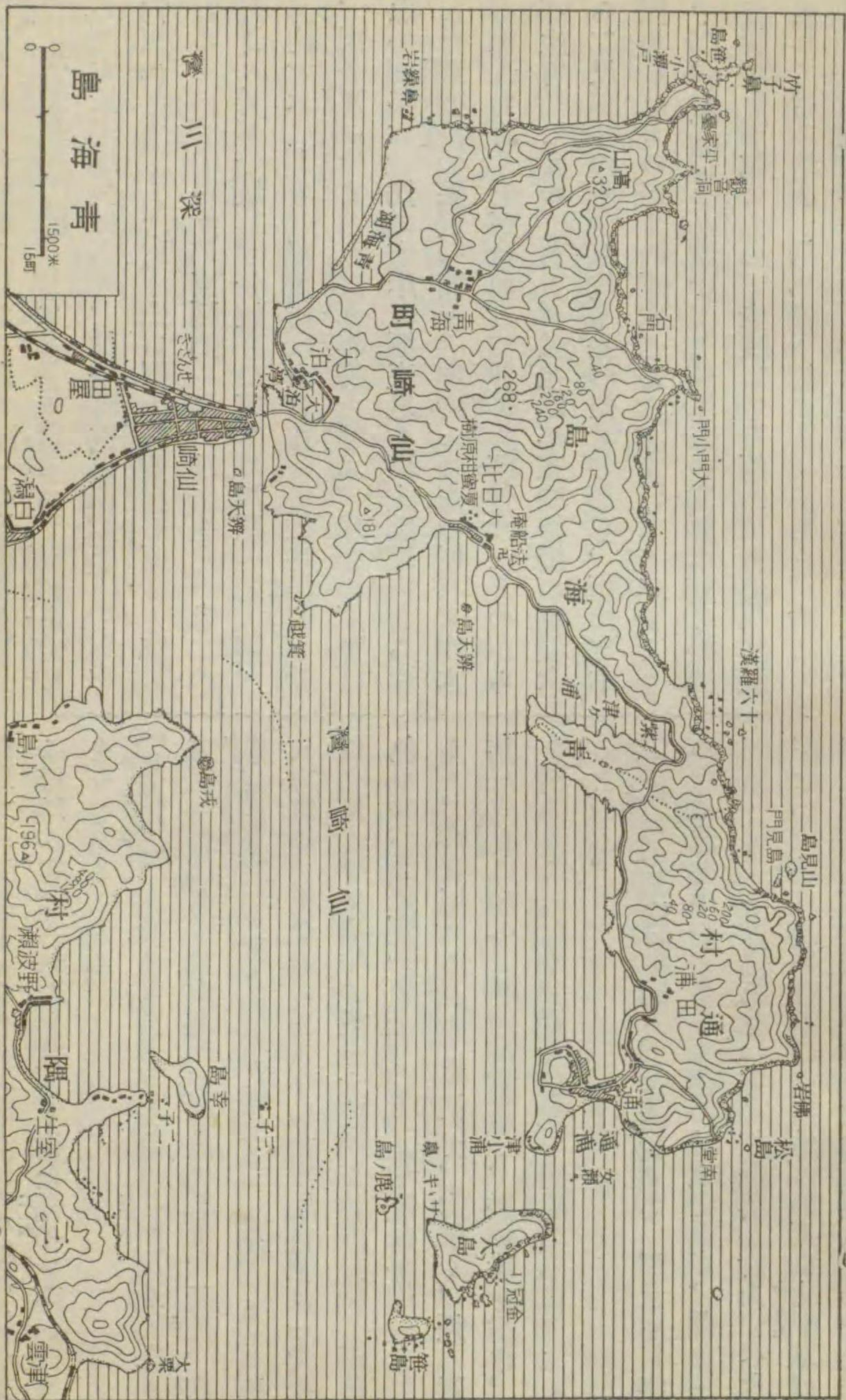
仙崎支線仙

崎驛下車、仙崎港から巡遊船の便がある。島は日本海にあつて、山見島、大島、笹島、鹿子島を屬島とし、仙崎灣、深川灣等を以て本陸と隔り、東西に長く、長さ約九軒、周回約四〇軒、島内山地多く、分水嶺は海拔三〇米を最高として著しく北に偏し、傾斜緩なる南面には何等奇勝と認むべきものがないが、島の東、西、北の三面は怒濤に浸蝕されて、斷崖、絶壁、洞門、石柱、岩礁の奇勝連続すること一六軒餘に達する。本島の最高部は玄武岩から成るが、海岸は石英斑岩、中生層の砂岩、輝綠凝灰岩等で構成され、これ等の岩石はそれ〴〵海蝕の度を異にするから、變化に富める豪壯雄大なる奇景を造り出したのである。

奇勝中絶壁の主なるものに長網の瀧、屏風岩、高崖、猿之りの瀧、金冠山等あり、洞門の主なるものに鼻線、

仙水、黄金洞、夫婦洞、観音洞、長濱群洞、大門小門、島見門、大島洞門等あり、石柱の主なるものに笥岩、石門、観音岩、瀨叢、佛岩、笹子の佛岩等あり、奇岩怪礁の主なるものに鼻線岩、平家臺、平瀨、潮場瀨、松島、又介等がある。その他礫堤を以て海の一部を遮断して造れる青海湖がある。礫堤は長さ一軒半、幅三五米許にして湖濱土手と呼び、その上にある松林を湖濱の松原と云ひ、天の橋立に似て居る。

青海島の景勝中、鼻線岩、笥の鼻、観音洞、大門小門、瀨叢、松島、金冠山等は古來屈指の名所である。鼻線岩は大岩礁にして、中央に洞門を有する。笥の鼻はその名の如き奇形の岩柱にして、海上に直立すること五五米、平家臺は石英斑岩の岩臺にして、臺上に數箇の砂岩丘を負うて居る。観音洞は小舟にて通り抜けられ、側に観音瀨がある。大門小門は大石門である。瀨叢は海上に兀立する十數本の岩柱で、その中夫婦岩は堂々たるものである。松島は數十箇の岩礁にして、矮松を亂綴して居る。金冠山は屬島大島の東面に



ある一四〇米の大絶壁にして、島内隨一の偉觀である。
 【大日比夏蜜柑原樹】〔指定史蹟及天然記念物〕 青海島大日比の西本氏宅地内にあり、仙崎町汽船發着所から海路約四料に過ぎない。山口縣下夏蜜柑の原樹と認められるもので、根元の周圍約一米、地上凡そ一米二の高處より幹が分岐し、分岐部の直下の周圍一米二弱、樹高約六米である。夏蜜柑は大日比にて往時柚橘と云ひ、現今夏橙または夏九年母と呼ぶ。現存の原樹は安永の初年大日比の海岸に原産地の南支那地方から漂着した夏蜜柑の果實一箇を、現時この樹の所有者西本氏の祖先ちよう女が拾得して種子を蒔付けたものから發芽生育したものである。弘化四年家屋修繕の際根本から二尺五寸の所から伐り去つたものから、更に二本程發芽したものがこの原樹である。明治二、三年頃より同十二、三年頃まで連續して、萩地方の需要に應じ接穂して新芽を剪截したので老衰し、今極めて貧弱な樹貌を呈して居るが猶、毎年數十箇の着果がある。尙この樹以外に寛政四年、享和二年に發芽した古樹がある。

萩地方の夏蜜柑は文化の初年、江向の檜崎十郎兵衛が、この地から贈られた果實より得た種子を蒔いたのが始まりであると云ふ。
 【見島牛】〔指定天然記念物〕 見島は長門の北海岸から北方四六料にある日本海の一孤島にして、須佐、奈古、萩、仙崎等より殆ど距離が等しい。周圍一八料、面積は八方料餘。東北端にある牛の放牧場古牧は一大休噴火口である。見島牛の數は大體四五百頭前後で毛色黒赫色を帯び、體格牝は平均一米一五、牡は平均一米二一である。性質極めて温順敏活で、力強く、頗る强健、甚だ粗食に耐へ、管理が容易で、耕鋤時を除き、手綱を用ゐることなく、婦女幼兒の掛聲のみにてよく御すると云ふ。
 【見島村の龜棲息地】〔指定天然記念物〕 同見島村字片くの片く池を中心とする一帯の地域である。龜は「くさがめ」で、多數棲息し、その數幾萬か計上すべき方法がない。苗代及挿秧期には田地の四周に古網或は小竹等を以て龜垣を造り、龜の水田に侵入するを防ぐ。指

定地は農作物に少しも被害ない地方である。

正明市から尙西に進めば、黄波戸五料三、長門古市四料一、人丸四料五、伊上四料四を通り、右窓油谷灣を望んで長門栗野四料二、阿川五料三を過ぎる。阿川からは南下して特牛三料七、瀧部四料、長門二見四料八、湯玉五料八を経て小串四料五に著く。

【俵島】〔指定名勝・天然記念物〕 長門栗野驛の西北約六料、阿川驛からは東北約六料、向津見村油谷にあり、俵島は油谷半島の南面及西面に於ける柱狀節理をなす玄武岩の奇勝地にして、延長一料半、半島の一部、俵瀨及附近の海礁を包含し、北は日本海に、西は玄海灘に、東及南は油谷灣に面する。この勝地を分けて鎧ヶ瀧、荒神山、俵瀨の三部とする。

鎧ヶ瀧は油谷半島の南面にある絶壁にして、柱狀節理整然として垂直に發達し、高さ六五米以上である。荒神山は鎧ヶ瀧の西方に位し、釜を伏せたるが如き形状の山にして、その南面は斷崖絶壁をなし、柱狀節理

の岩柱は縦横に或は彎曲して亂綴し、麓に數箇の玄武洞があつて奇觀を添へる。俵瀨は荒神山の西約二〇米に位し、満潮時には島となり、俵島奇勝中の奇勝にして、略三箇の小山より成り、南面の絶壁を馬の脊、西面の玄武洞を龍宮と呼ぶ。全島の柱狀節理極めて完全にして高さ三〇米に達し、日本海及玄海灘の怒濤去來して岩壁を噛む有様は偉觀である。鎧ヶ瀧と荒神山との間にある海岸を白石濱或はコーラの濱とも云ふ。ここに第三紀の砂岩を被へる海藻石灰岩があつて厚さ二米半に及び、第三紀中斷層の特有北石リソサムニウムを多量に含んで居る。

俵島附近は海礁が多く、俵瀨の西に高原、地の高原、烏帽子岩及龍宮等がある。その中有名なるは烏帽子岩で、災變起るとの傳説に怖ぢ、海士もこの岩に來つて魚貝を捕へない。以上の外、章魚瀨、鯨瀨、平瀨等あり、何れも玄武岩の柱狀節理が整然として居る。

【瀧部の入市】 瀧部驛所在地瀧部村では、毎月一日、十日、二十日の三回に入市或は奉公市と稱する市が立

つ。その日は當地及附近から、求職者及雇傭者が集まつて雇傭契約を結び、田植時と收穫期には特に賑ふ。この市は往時當地地方開墾の際、物資の集散、勞働供給を便ならしめた遺風である。

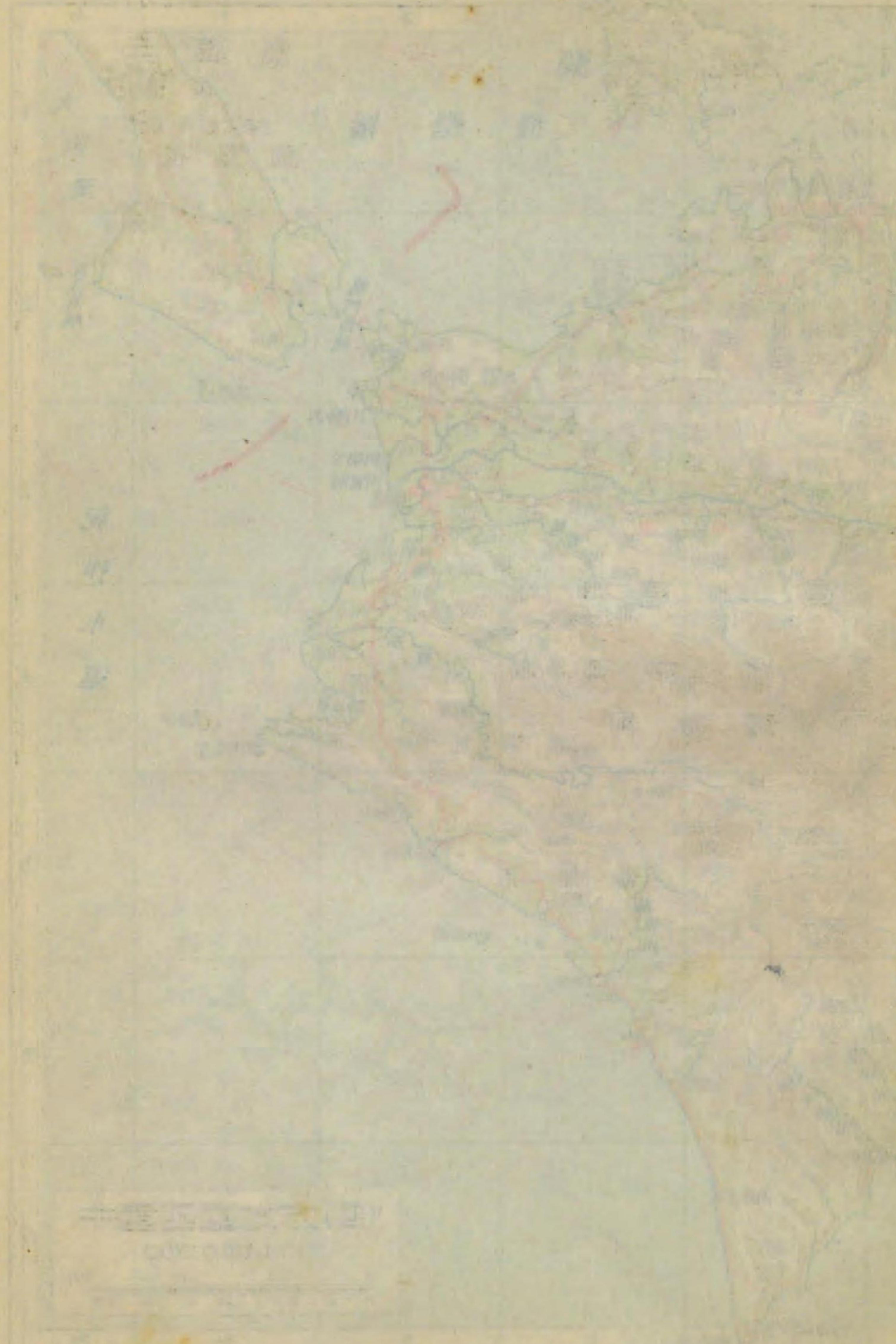
【大吼谷蝙蝠洞】〔指定天然記念物〕小串驛の北方一、七、小串町字切石の海岸にあり、途中約七〇米は自動車便あり、後四〇米は徒歩、六〇米は舟に依る。粗粒の花崗岩から成る斷崖に洞窟があつて、怒濤が洞口を襲ひ聳々たる響を發するから、斷崖を大吼谷と云ふのである。洞窟の入口は高さ約四米、横二米、奥行は八〇米で、窟内は甚だ擴大し、天井も高い。洞内に多數のゆびなが蝙蝠が棲息し、晝間天井及岩角等に相重なり合つて附着休憩するが、薄暮から一齊に洞外遠隔に飛翔する。十數年以前までは夜間は多數の鳩の休眠場であつたが、連年捕獲した結果、今は全然その姿を認めることが出来ない。

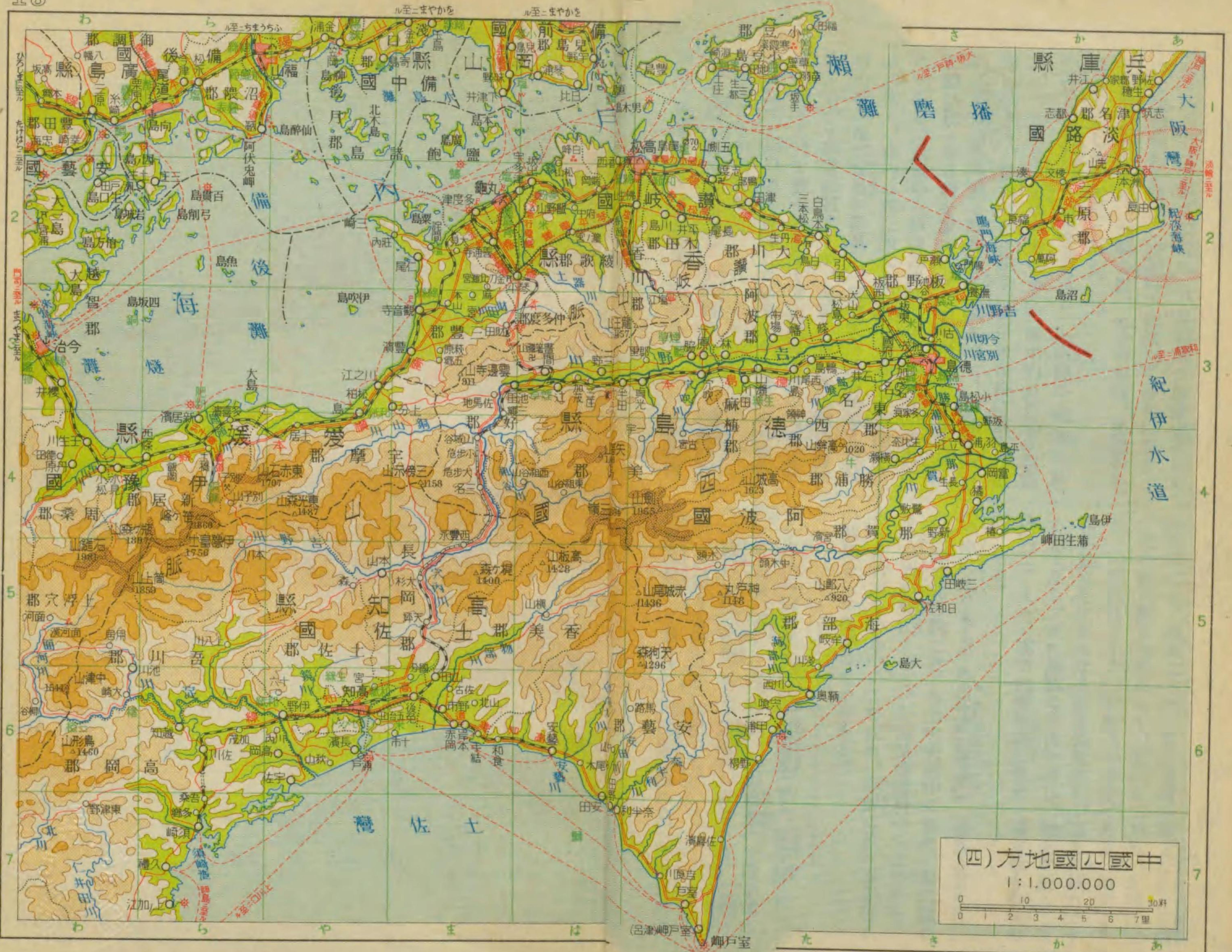
【樟の森】〔指定天然記念物〕小串驛の東四、川棚村小野の小野臺にあり、自動車の便がある。一に小野の樟

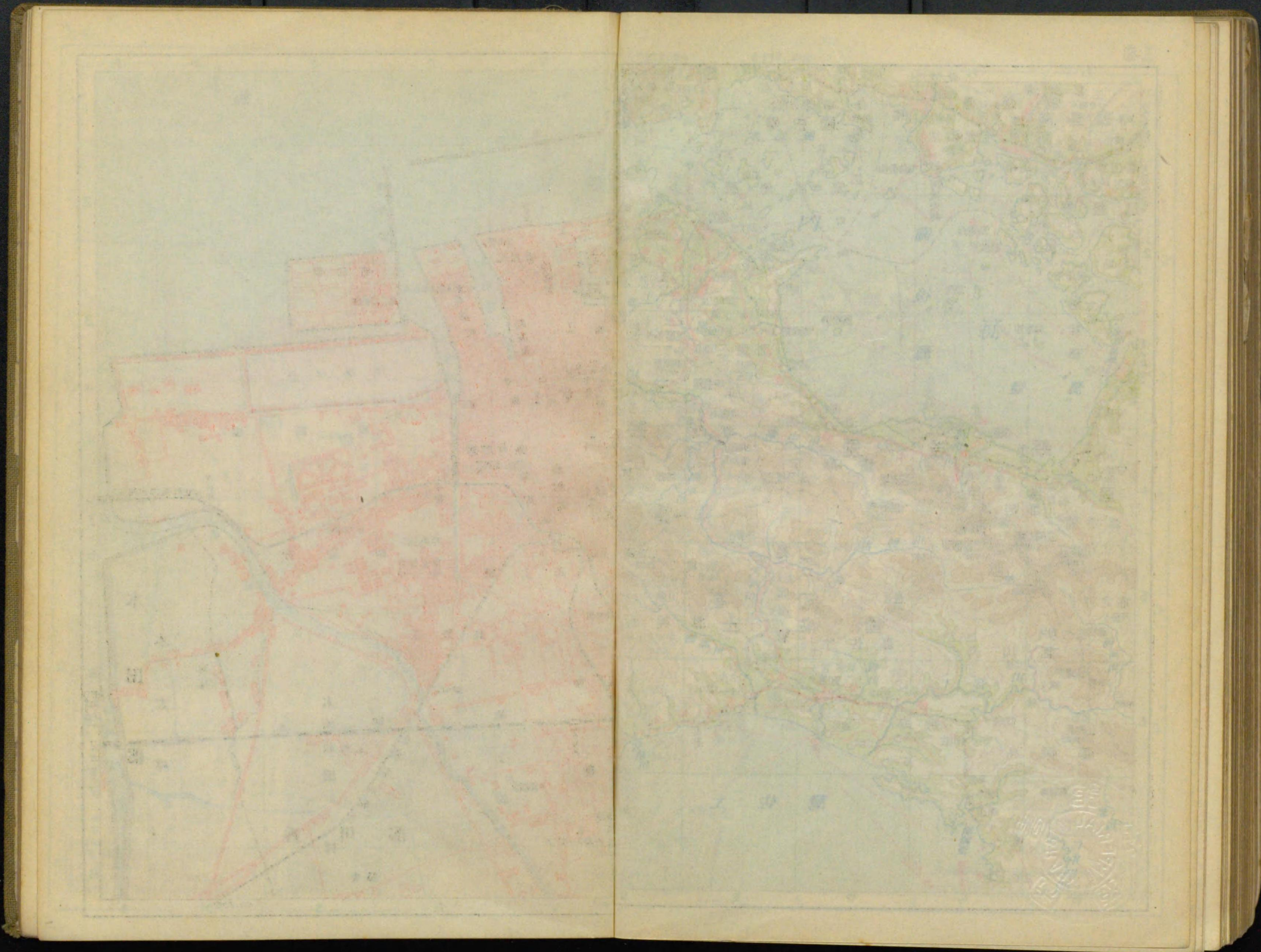
とも呼ばれ、樹高二六米、幹は畧長方形をなし、目通二米の處周圍九米餘にして、東面は二米八、北面は二米一、西面は二米六、南面は一米半である。根元より四米餘にして巨大なる枝五條を出し、直ちに岐れて十枝となり、更に無數の小枝を出し、地面を蔽ふこと約三三アル、樹下白晝晦冥を覺え、遠望恰も森林の様である。

【小串町えひめあやめ自生南限地帯】〔指定天然記念物〕小串驛の北方約二、小串町犬蹄山にあり、海に臨める花崗岩の禿山である。當地及西浦村の「えひめあやめ」は古來ひめあやめと呼ばれ、朝鮮に於ける分布との關係を示す必要のものである。

小串から尙南進すれば川棚温泉二、黒井村二、梅ヶ峠三、吉見三、右窓響灘の青波を望みつゝ福江二、安岡二、綾羅木二、を過ぎて幡生三、に至り山陽本線に接続する。
【川棚温泉】〔七圖た4〕川棚温泉驛の東一、自動

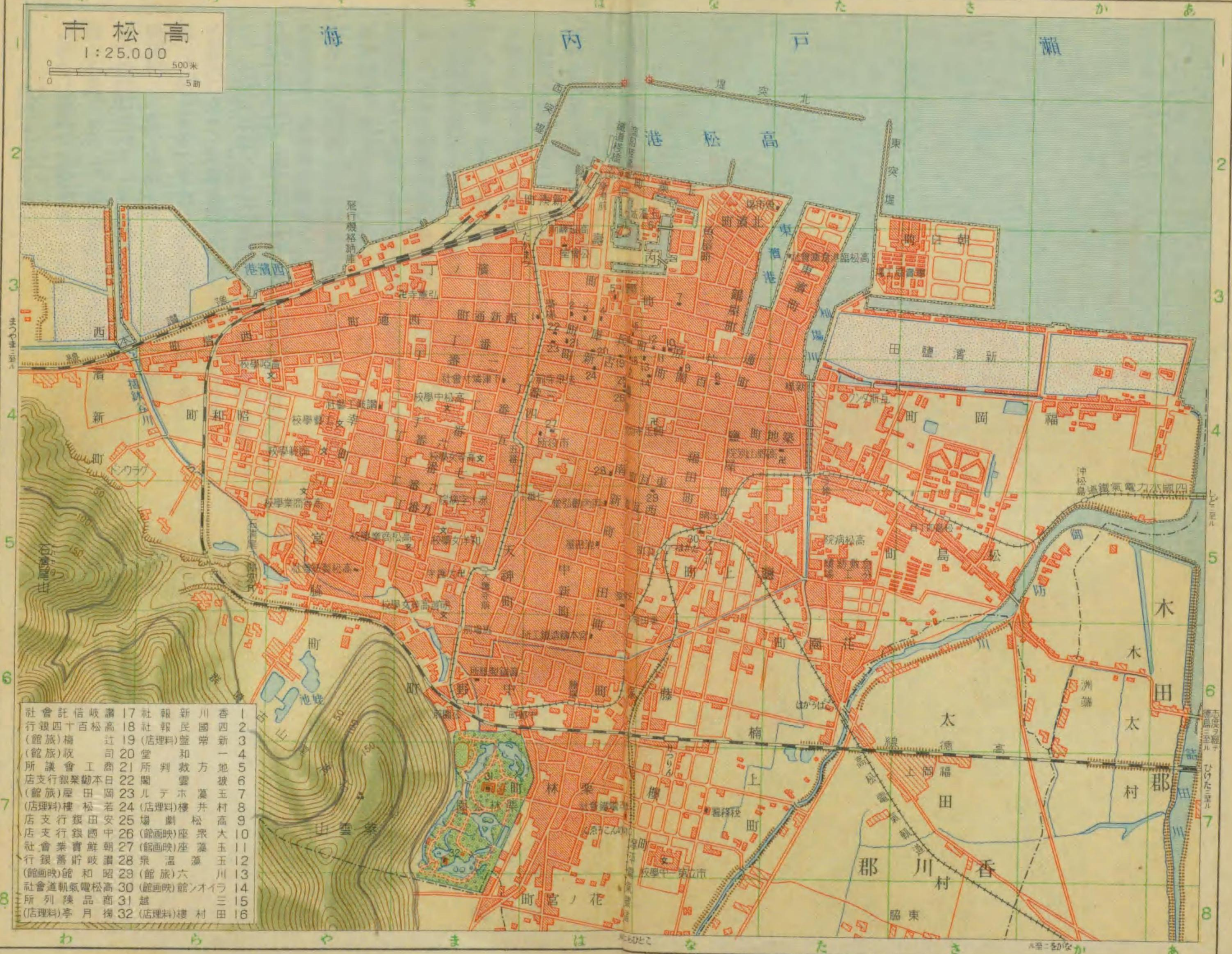
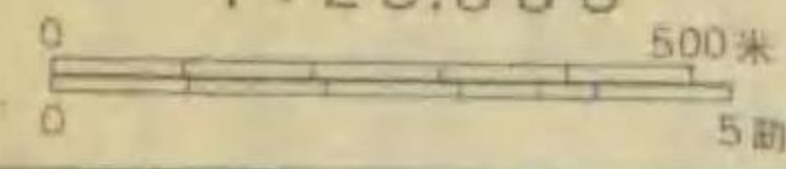




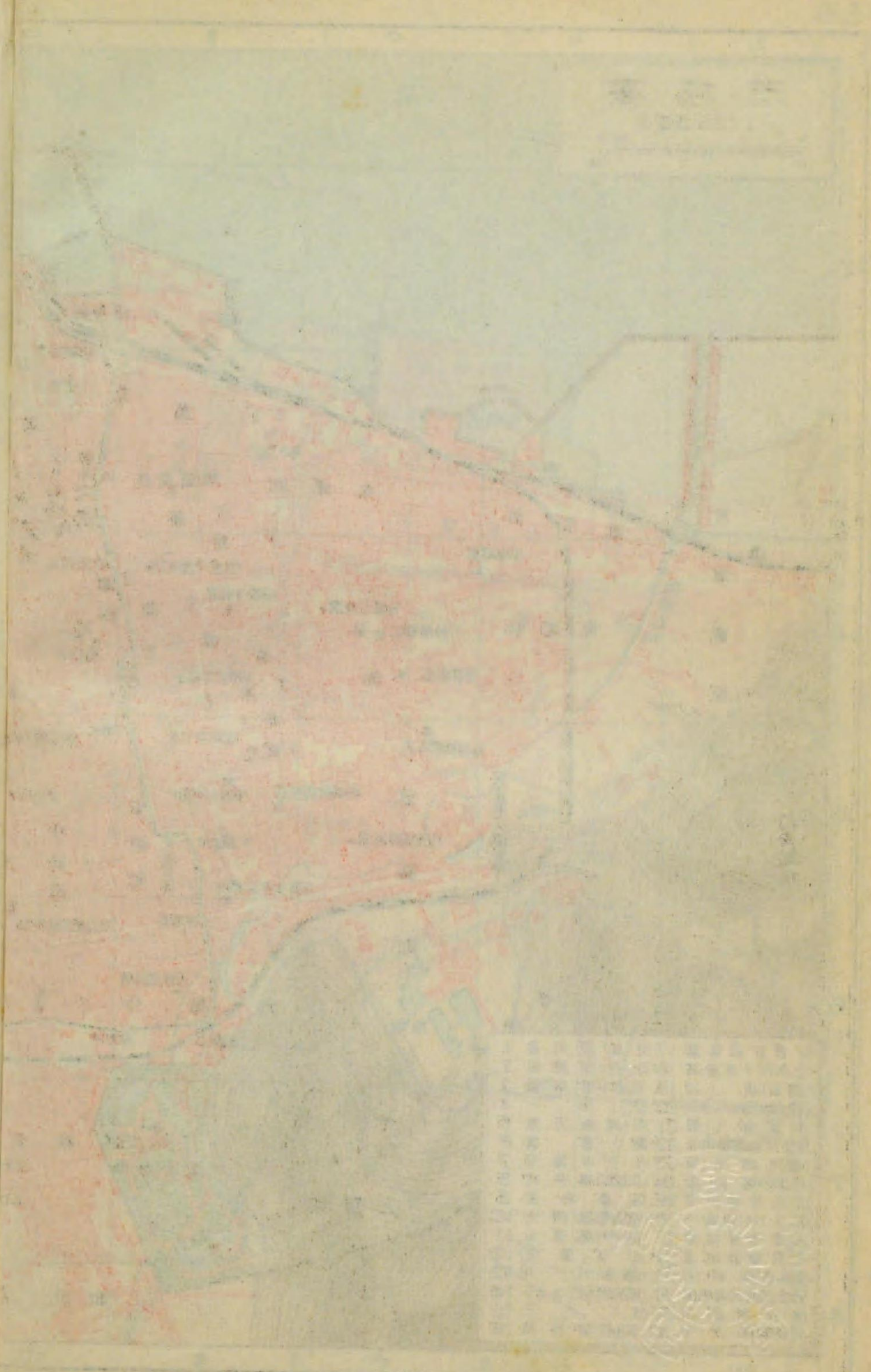


高松市

1:25,000



- | | | | | | |
|----|----|----|-----|----|-------------|
| 1 | 香川 | 1 | 新報 | 17 | 講談社 |
| 2 | 四國 | 2 | 民報 | 18 | 高松百十四銀行 |
| 3 | 常盤 | 3 | 和盤 | 19 | 高松百十四銀行(旅館) |
| 4 | 地方 | 4 | 裁判所 | 20 | 司馬 |
| 5 | 披 | 5 | 雲 | 21 | 商工會議所 |
| 6 | 玉 | 6 | 木 | 22 | 本日勤業銀行支行 |
| 7 | 村 | 7 | 井 | 23 | 岡田屋(旅館) |
| 8 | 大 | 8 | 松 | 24 | 若松樓(店料理) |
| 9 | 高 | 9 | 衆 | 25 | 安田銀支行 |
| 10 | 大 | 10 | 座 | 26 | 中野銀支行 |
| 11 | 玉 | 11 | 座 | 27 | 朝鮮實業社 |
| 12 | 川 | 12 | 温 | 28 | 講談社貯蓄銀行 |
| 13 | 三 | 13 | 六 | 29 | 昭和館(館映) |
| 14 | 三 | 14 | イ | 30 | 高松電氣軌道 |
| 15 | 三 | 15 | イ | 31 | 越前品陳列所 |
| 16 | 田 | 16 | 村 | 32 | 樓月亭(店料理) |



車の便がある。茶臼山古城址一帯の翠微を負ひ、いづまなだの波浪を前にして居る。温泉場附近は昔大沼澤で青龍が棲んで居たが、地震の爲に熱湯噴出、青龍は昇天の暇なく煮殺されたと云ふ傳説があり、里人祠を建て、青龍權現せいりゅうごんげんと稱して温泉の守護神とし、餅搗祭もちつきまつりの奇習がある。温泉は無色透明の鹽類泉で、上湯、下湯あり、旅館には多く上湯から引いて居る。皮膚病、胃腸病、呼吸器病、婦人病などに効くと云ふ。西一軒餘の松谷海岸には夏期海水浴が行はれる。旅館 藤本屋、玉椿、於多福屋、菊水外十數軒。

【横野柿原樹】よこのがきげんじゆ〔指定天然記念物・史蹟〕安岡驛の西北約半軒、安岡町横野の新井氏邸内にある。樹は住宅の傍、竹藪内に立ち、根廻り約二米、地上一米半の周圍約一米三、地上凡そ二米七にして東西の二支幹に分かれ、樹高約一一米、本樹と少しく離れて東方の堀内に尙一株の柿樹があつて、また横野柿の原樹であると云ふ。傳ふる所によると、この原樹は百餘年前から現在の所に樹ち、晩熟の良果を産するを以て知られ、遠近に栽

培されるに至つたと云ふ。
【安岡海水浴場】安岡驛の西三〇米、西南六連島を隔て、遠く筑豊の山脈が望まれる。海は水清く遠淺で海水浴が行はれる。附近には竹生觀音、迫山八幡宮、觀音の岬などの勝がある。旅館 濱屋、橋本屋。

高松 引田間

本州と四國との最捷交通路は宇野、高松間の省經營連絡船便である。高松は四國北部に於ける交通の要點で、高德線は東して引田に至り、將に阿波線と接続せんとし、豫讃本線は西して丸龜、今治を経て松山に至り、更に南豫地方に延びつゝある。豫讃本線多度津より南する一線は阿波池田に至つて既に徳島本線と接続し、徳島本線と高知線との間の工事も漸次進捗しつゝあり、四國に於ける鐵道交通も近き將來に整備する情勢である。

高松驛 高松市新湊町

- 東京から 八〇二軒五 十八時間
- 大阪から(岡山經由) 二三四軒四 六時間
- 宇野から(棧橋まで) 二五軒 一時間
- 松山から 一九四軒 急行四時間 普通五時間半
- 徳島から 一五〇軒 五時間
- ▽豫讃本線 高松、伊豫上灘間 二一六軒七
- ▽高德線 高松、引田間 四五軒一
- ▽四國水力電氣線 築港前、志度間 一六軒七

商店が櫛比し、また内町、百間町には娯樂場が多い。

- ▽官公廳その他 縣廳(内町)、市役所(五番丁)、裁判所(内町)、稅務署(楠上町)、營林署(内町)、大阪鐵道局出張所(新湊町)、專賣局工場(朝日町)、商品陳列所(栗林公園内)、商工會議所(兵庫町)、工業試驗場(花宮町)、水産試驗場(新湊町)、公會堂(内町)、讚岐會館(兵庫町)、高等商業學校(宮脇町)
- ▽銀行 高松百十四銀行(丸龜町)、讚岐貯蓄銀行(南新町)、日本勸業銀行支店(兵庫町)、安田銀行支店(丸龜町)、中國銀行支店(同)、不動貯金銀行支店(兵庫町)
- ▽會社工場 讚岐信託(丸龜町)、朝鮮實業(四番丁)、琴平電鐵(櫻町)、高松電氣(鹽上町)、鹽ノ江溫泉鐵道(同)、四國水力電氣出張所(七番丁)、下津燐寸(二番丁)、高松臨港倉庫(東濱町)、倉敷紡績高松工場(松島町)、高松製紙(宮脇町)、眞鍮製紙(中野町)、讚岐工藝社(彫拔漆器製造)(五番丁)、文新堂(彫拔漆器製造)(田町)、一和堂(彫拔漆器製造)(内町)、岡内勸弘堂(賣藥)(南新町)、宮本鑄造鐵工所(東田町)、魚市場(北濱町)、平井興業(内町)、逸見商店(南新町)
- ▽百貨店 三越(内町)、池田屋(南新町)
- ▽新聞社 香川新報社(濱ノ丁)、四國民報社(西内町)
- ▽病院 赤十字病院(天神前)、高松病院(松島町)
- ▽娯樂場 玉藻溫泉、大衆座(内町)、ライオン館(百間町)、

- ▽琴平電鐵線 高松(豫讃高松驛ニ非ズ)琴平間 三二軒三
- ▽高松電氣線 出晴、長尾間 一四軒四
- ▽乗合自動車 穴吹行(鹽ノ江經由) 一日平均 乘車人員 二、〇〇六人 降車人員 二、〇八〇人

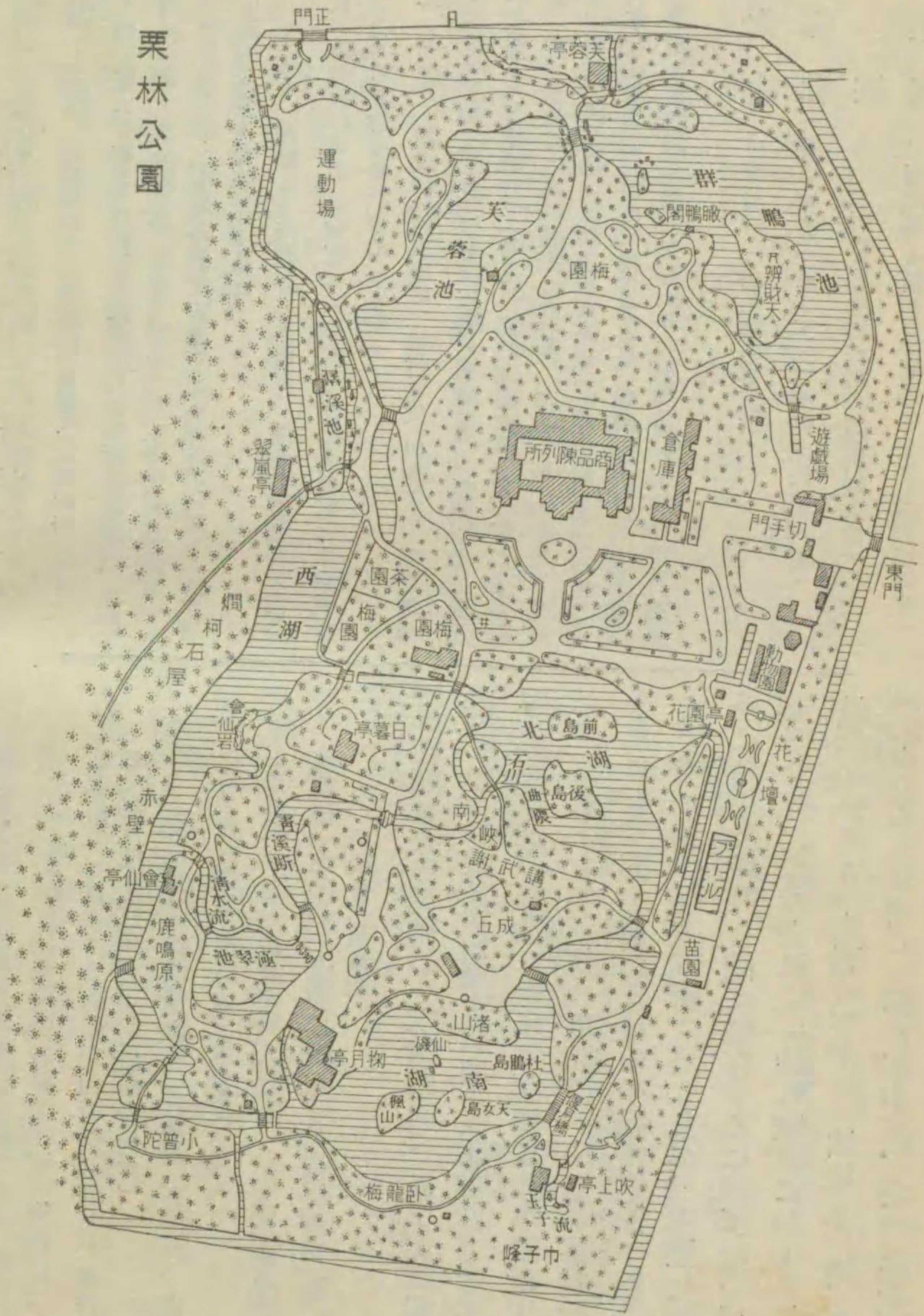
發送貨物噸數	四二噸	到著貨物噸數	四四噸
重要發送貨物	鹽(年一、六三噸)、煙草(年一、五五噸)		
重要到著貨物	米(年一、四八噸)、藥品類(年一、四四噸)		

【高松市】(一四圖) 讚岐平野の北端内海岸に位しもと笑原の郷の洲嶼で八輪島と呼んだが、天正年間生駒氏の築城以來高松と改め、寛永年間松平氏が水戸から移封されて以來明治維新まで、その城下街として繁昌した。明治二十三年市制を施き、高松港の築港以來愈々繁榮して、今や地域一〇方料、人口八萬二千を算するに至つた。

市の主要物産は和紙、彫拔漆器、日傘、鑄物などの古來の産業によるものゝ外、近來綿絲紡績が盛んとなり、その産額が著しい。

市内の繁華な通は片原町、丸龜町、兵庫町、南新町で

- 高松劇場(同)、玉藻座(片原町)、昭和館(東瓦町)
- ▽旅館 辻梅旅館(古新町)、可祝旅館(同)、川六ホテル(百間町)、玉藻ホテル(内町)、岡田家(古新町)、蓮井旅館(西新通町)、井戸屋(高松驛前)、須磨旅館(西内町)
- ▽料理店 新常盤(壽町)、村井樓(百間町)、若松樓(外磨屋町)、田村樓(丸龜町)、掬月亭(栗林公園内)
- ▽土産物 彫拔漆器、保多織、理平焼、獅子頭(郷土玩具)、源平餅、魚煎餅、瓦煎餅、からすみ、鯛の濱焼、磐石、平家蟹、千金丹、屋島焼
- 【高松城址(玉藻城)】(一四圖なご) 驛の東二〇米、高松港頭にあり、老松白堊水に映ずる水城である。天正十八年生駒近規の築造にかゝり黒田如水の設計する所と傳ふ。寛永十七年近規の孫高俊、出羽に移封せられ、同十九年水戸藩主徳川頼房の子頼重常陸下館から入城して修築を加へ爾來維新に至つたが、今毀たれて城壘の外に角櫓及城門を僅に遺存するに過ぎない。本丸址に玉藻神社、二の丸址に近時の建築にかゝる松平家別邸披雲閣があり、庭園も存する。城址は公開して居ない。
- 【法泉寺】(臨濟宗) 驛の南半軒、市内三番町にあり、



栗林公園

市内屈指の古刹で、天文年間生駒氏の開いたものと云ふ。境内に高さ約一六米の釋尊の銅像があるが、これは明治四十四年に日露役戦死者の忠魂碑として建てられたものである。

【興正寺別院(御坊)】 (一四圖な4) 驛の東南一軒、市内御坊町にあり、天文年間聖證上人が開いたもので、堂宇宏壯、賽客が多い。

【高野山別院】 (一四圖た4) 驛の東南一軒半、市内築地町にあり、四國遍路の参拜するものが多い。

【栗林公園】 (指定名勝) (一四圖ま7) 驛の南約二軒、市内栗林町にあり、電車及自動車の便がある。

高松市の南端、紫雲山麓にあつて總面積約七六ヘクタールある。寛永十九年藩祖松平頼重が初めてこゝに隠居所を經營せしに始まり、その後、五世頼恭に至るまで約八十年の間に泉水、築山、亭館が完成した。幕末維新の交、庭園は荒廢に委せられ、茶室、亭舎、多く毀却されたが、明治八年公園となして以來、縣營にて諸施設をなし維持に努めて居る。

園は大別して北庭と南庭に分れ、北庭は大正二年の改修を経て半ば洋式庭園となつて居る。南庭は自然の松林と豊富な湧泉を利用した古來の純日本式庭園で、芙蓉峯、偃月橋などの邊りは最も雅趣ある所である。

正門を入ると突當りに公園碑がある、道を左にとつて進めば南折して永代橋を渡り、右に芙蓉池、左に群鴨池を見る。梅園を左に見て南すれば北庭の中央に位する商品陳列所の前を通り、その前には百石松がある。梅林橋俗稱赤橋を渡り、數十歩東南へ至れば東に北湖の全景が見え、對岸に芙蓉峯が望まれる。更に南して青石橋を渡れば右に櫻園あり、涵翠池の畔に出れば池を隔て、蘇鐵の岡に叢生する高低參差の蘇鐵群の異觀がある。八橋を見、留玉の橋を渡つて左轉西に進む歩路は南湖の南岸に沿うて居る。南湖の東端には偃月橋、吹上亭、飛來峯、飛猿巖などの名ある勝景がある。偃月橋上からは湖の西岸の翔月亭を望み、紫雲山の翠巒仰がれ、南園の勝景を蒐めて園中の偉觀であると云ふ。園の東隅には動物園及プールがある。

【石清尾八幡宮】〔縣社〕（二四圖五） 驛の西南二軒餘、市内宮脇町、龜命山の中腹にあり、電車及自動車の便がある。延喜年間の創祀と云ひ、高松市の産土神である。社殿備はり、石舞臺からは市街が展望される。十月十五日の大祭には飾船、囃子、舞踊臺、獅子頭、鳥毛、太鼓臺などを市中に曳き廻り、頗る賑ふ。

【弘憲寺】〔眞言宗大覺寺派〕（一四圖三） 驛の西南約一軒、市内濱の町にある。遍照光院と號し天平中行基の草創と云ひ、後、天正十七年、生駒近規によつて再興され、その後天保十二年に罹災し、後また再建された。本尊の不動明王坐像〔國寶〕は木造で、頭髮を後方に撫で下げ寶髻を結んで後方に垂らして居る。隆々たる肉付を有し、兩腕を力強く左右に張り、不動の威風を示して居るが、なんとなく柔か味があり、藤原時代の作と思はれる。

【西方寺遊園地】 驛の西約三軒、市内濱の町にあり、石清尾山麓につゞく小丘である。山頂に旅順東雞冠山の模型があり、瀬戸内海の眺望が佳く、殊に春は櫻

の名所として花見客で賑ふ。

【石清尾山積石塚】（二四圖七） 驛の西南三軒、高德線栗林驛の西二軒にある石清尾山丘陵上に群集し、石塊を以て築造せられた積石塚（ケールン）で數十基を算し、栗林公園に近い峯上にあるのを稻荷山姫塚と呼び、これより西方に石船塚、鏡塚、北大塚、姫塚、猫塚等と稱されるものを主要のものとし、他は小墳である。墳型は圓形、前方後圓形であるが、鏡塚、猫塚等は全国的に珍らしい、双方中圓形とも呼ばるべき墳型をなし、この他方型のものがある。多くは石棺、石室を内部に有し、史蹟に指定された石船塚の如きは内部に石枕を造付けた刳拔石棺が墳上に暴露して存し、猫塚には墳中に數個の小石室を有し、出土品として知られたものに漢鏡、石劍、銅製短劍、筒形銅器、銅鏃、その他の鐵器類、素燒壺等があり、何れも東京帝室博物館に收藏されて居る。

【女木島】 高松港外四軒、内海に浮ぶ島で舟便による。近年桃太郎の遺跡鬼ヶ島と稱し遊覽地となつた。瀬戸

内海眺望の一勝地である。

【法然寺（佛生山）】〔淨土宗〕 琴平電鐵佛生山驛の南約半軒、佛生山町の南端、丘麓景勝の地にある。

當寺は法然上人の創建と傳へ、その後頽廢したが、寛文年間江戸時代高松藩祖松平頼重によつて再興され、寺運また頗る盛大となつた。現存堂宇の多くは再興以後に出來たもので、閻魔堂、本堂、涅槃堂、來迎堂等があり、丘上には松平家累代の墓があり、陵下の平ヶ池堤防には櫻樹が多い。

一 十王像〔國寶〕

十 幅

絹本着色、陸信忠の落款がある。筆者得意の畫題で著色濃厚な元朝初期の作である。

一 觀世音功德圖六曲屏風〔國寶〕

三 雙

一 觀世音功德圖三曲屏風〔國寶〕

一 雙

紙本着色、傳鶴州筆各扇上部に觀音の功德を書き、その下部に觀音の圖像及功德を圖示した江戸時代の作。

一 源氏初音卷及紅葉賀卷圖屏風〔國寶〕

一 雙

紙本着色狩野晴川筆、八曲の屏風で極めて華麗な作である。

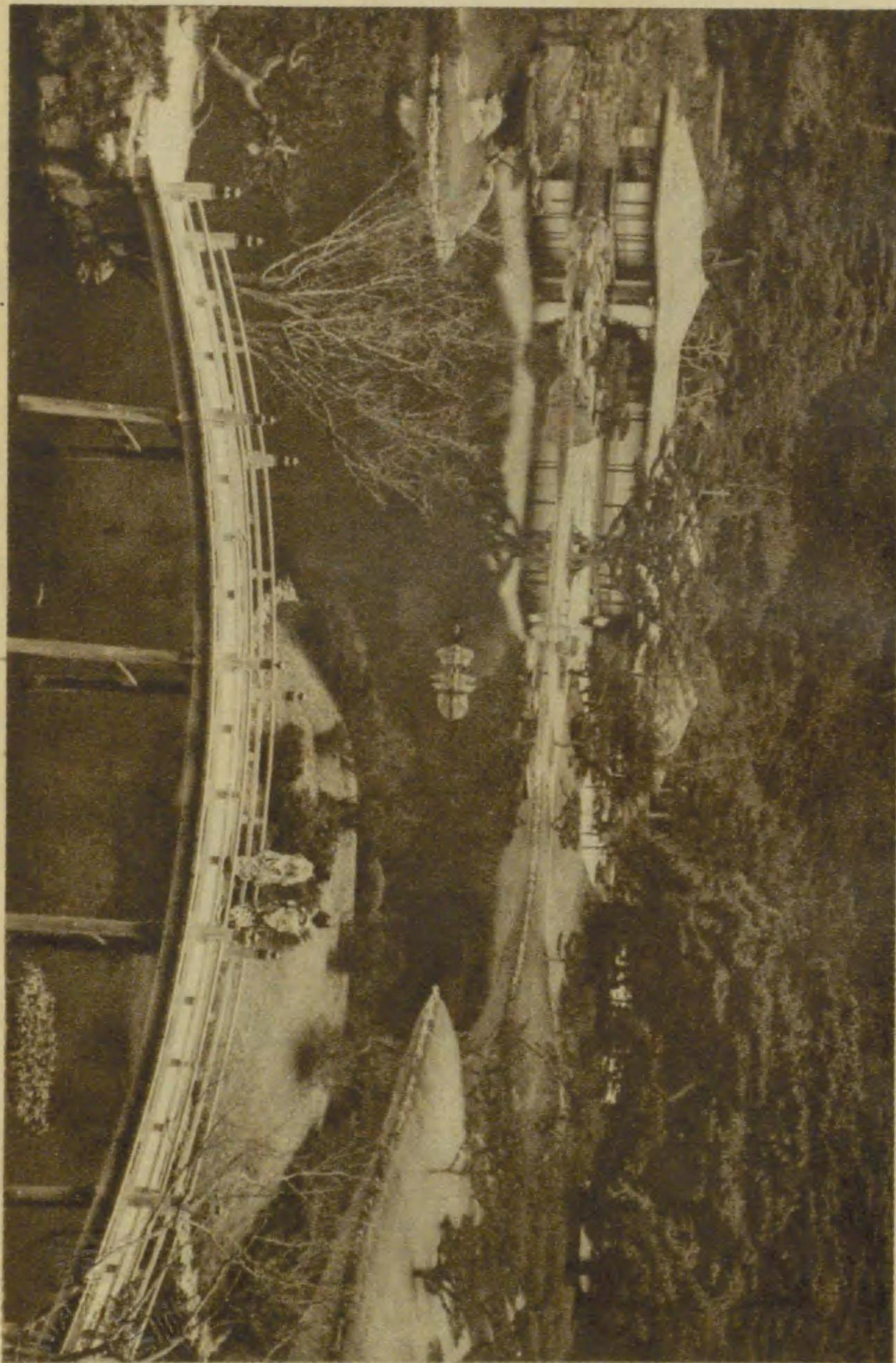
【田村神社】〔國幣中社〕 琴平電鐵一宮驛の北半軒、一宮村一宮にある。祭神田村神で一宮大明神、田村大社

とも呼ばれ式内名神大社で讚岐一の宮である。境内樹木鬱蒼として幽邃である。例祭は十月八日、三月十五日には市立祭と稱し、境内に市が立ちて賑ふ。

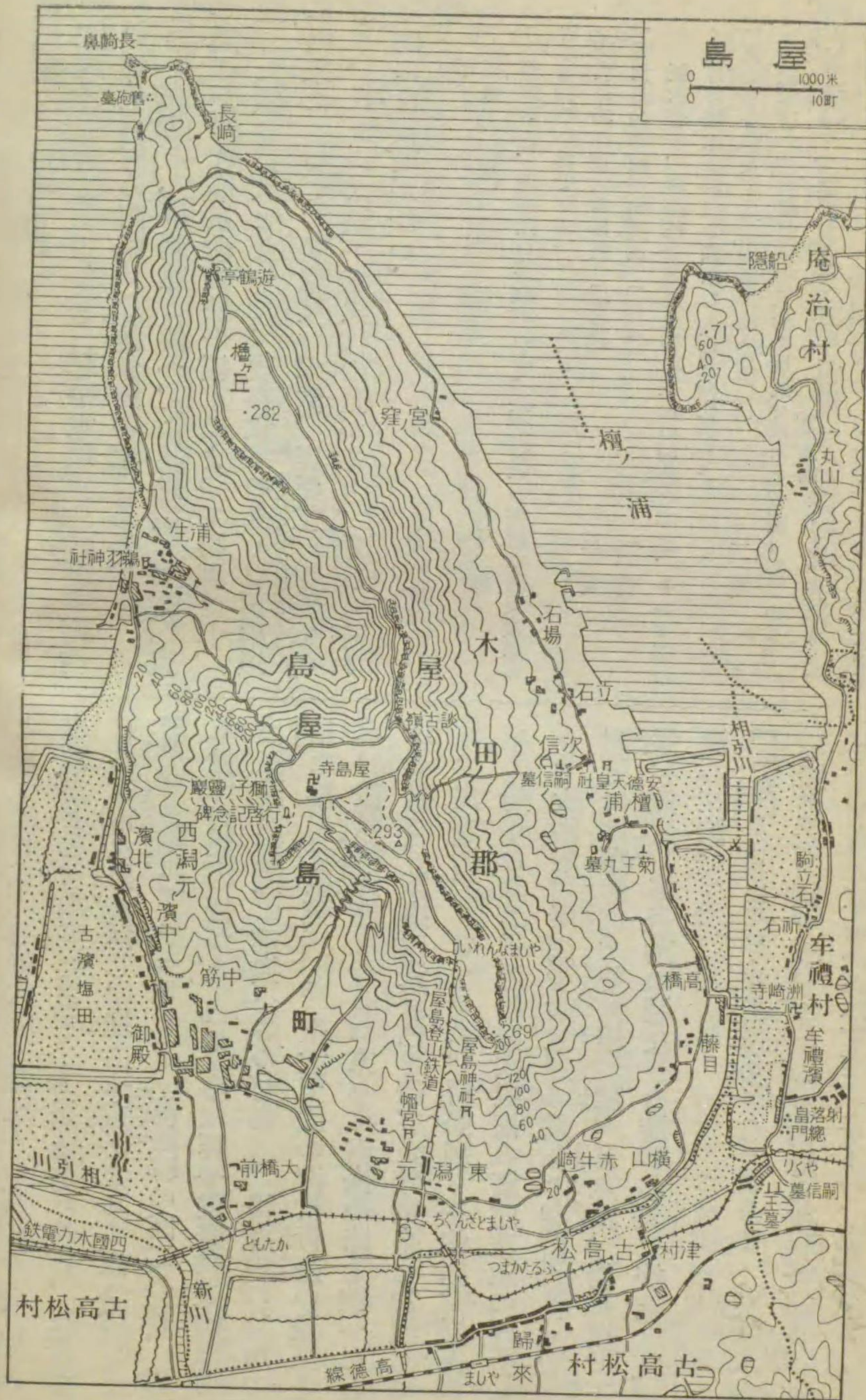
【鹽の江鏡泉】（二三圖二） 高松驛の南二七軒、自動車竝に電車の便がある。電車は琴平電鐵佛生山にて鹽の江温泉軌道に乗換へるのである。簗谷山の麓鹽の江川に臨んだ幽邃境で、聖武天皇の御代行基の發見と傳へ、後弘法大師もこゝに來りて浴湯の法を教へたと傳へて居る。鏡泉は淡黄色を帯びた硫黄泉で加熱して居り、皮膚病、リウマチス、胃腸病、花柳病、婦人病などに効くと云ふ。近年株式会社組織の旅館花屋の經營により、大浴場、所屬少女歌劇の設あり、面目を一新した。附近には藥師山、熊野權現社、月見橋、岩部橋、玉露崖、鎧岩、不岩動の瀧などの勝がある。旅館 花屋、鹽の江館。

【屋島】

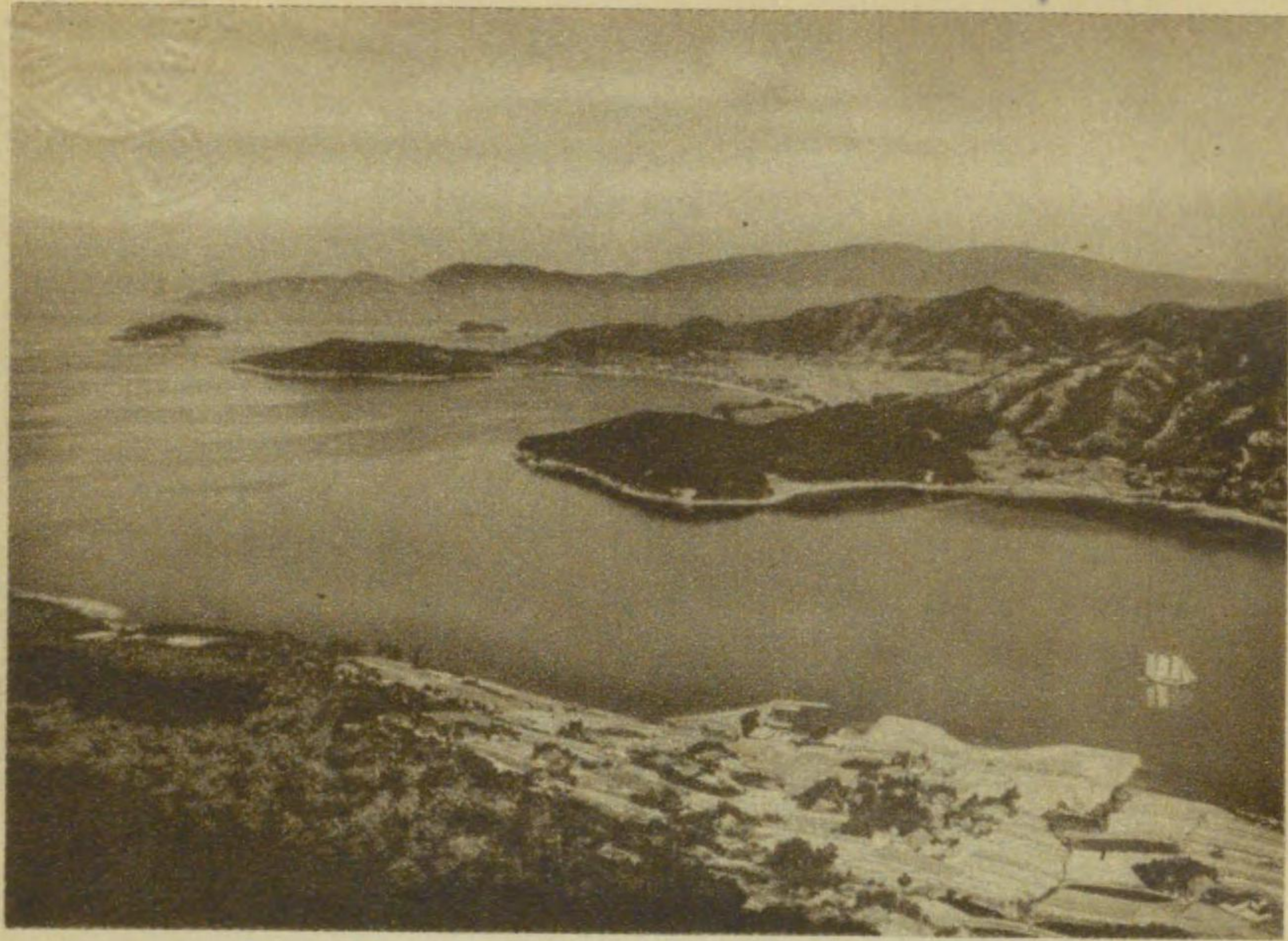
〔指定史蹟・天然記念物〕（二三圖一） 四國水力電車屋島登山口下車、高松の東内海に突出する火山臺地で、屋島神社前から臺上までケーブルの便がある。臺



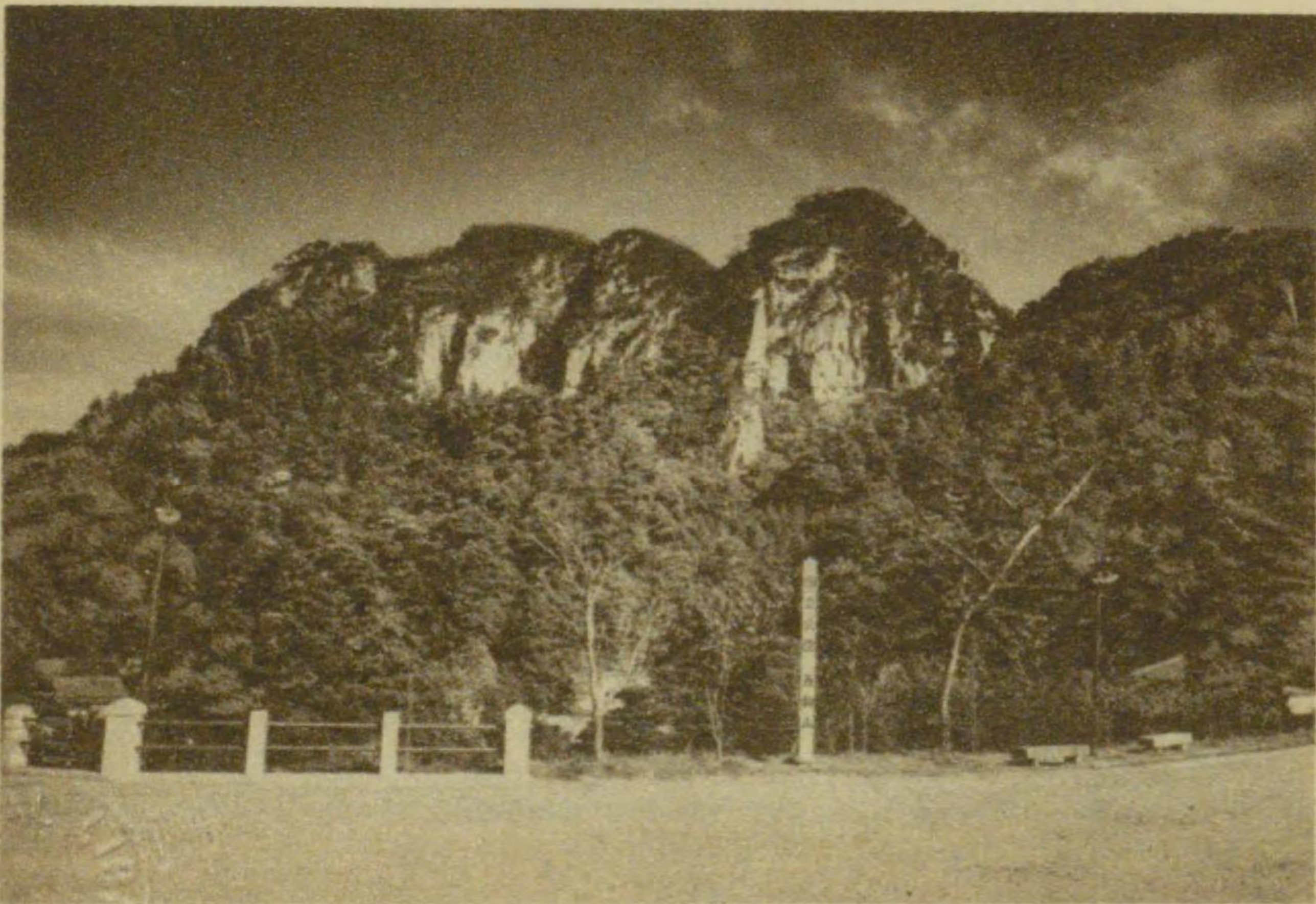
園公林渠



高松引田間



嶺古談島屋

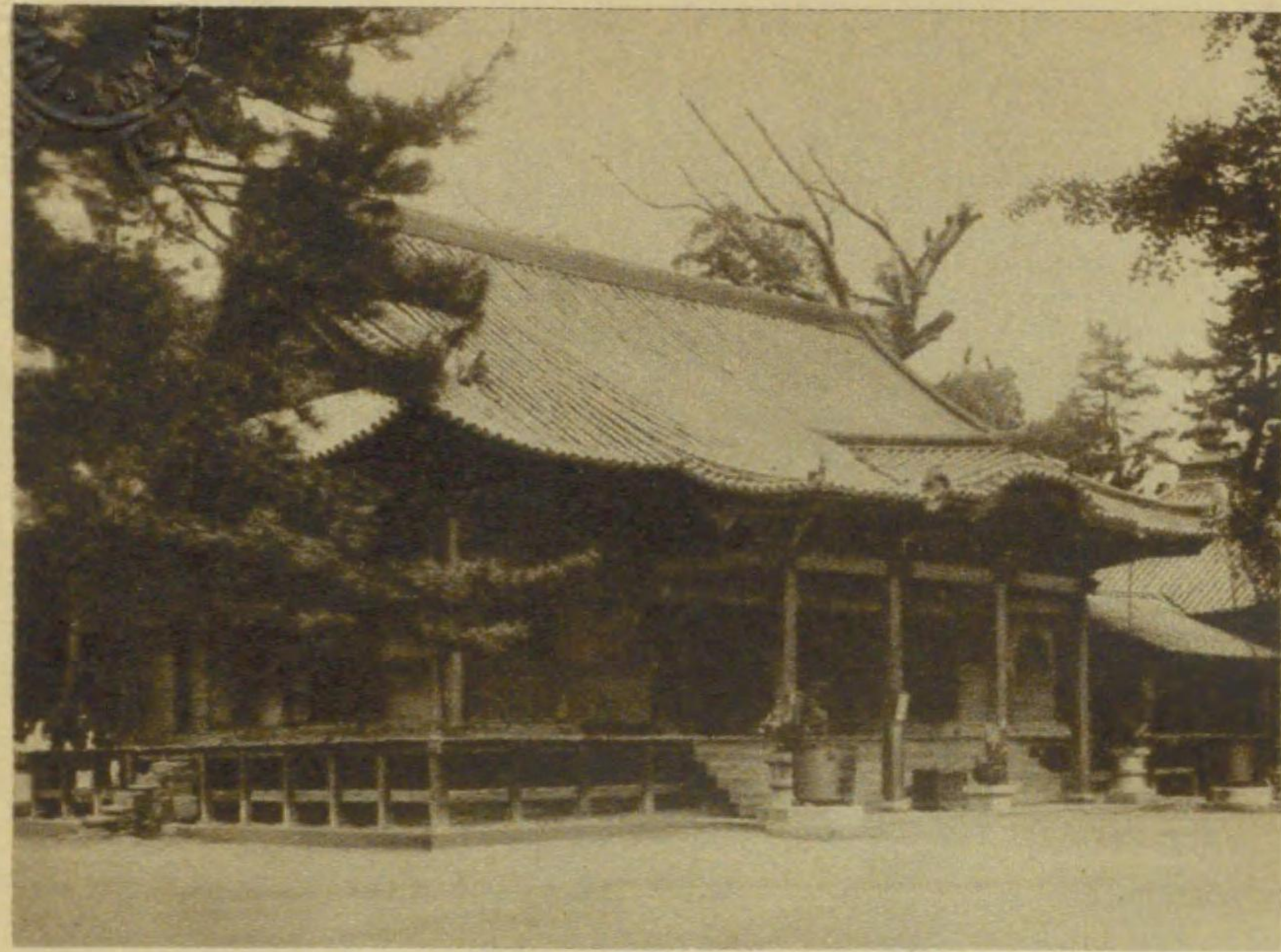


山 劍 五



寒 霞 嶺

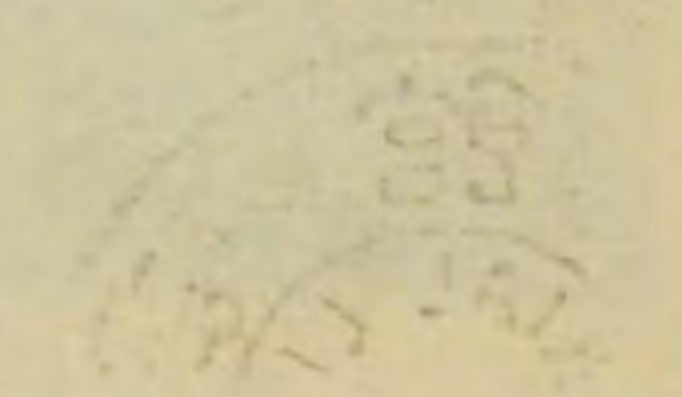




志 度 寺



津 田 松 原



地上は廣く且つ平坦で四周絶壁をなし、恰も屋梁の形をなし、南北に長く延びて自ら南嶺及北嶺に分たれて居る。東麓は有名な源平の古戰場であり、内海の形勝地を占めて風光勝れ、眺望の佳他に比類なしと云ふ。南嶺には稍、中央に屋島寺があり、その西に獅子の靈巖、東に談古嶺の勝があり、北嶺にはその北端に遊鶴亭の勝があり、臺上一帯平坦な小松原に廻遊道路を通じて巡覽に便して居る。

屋島は天智天皇時代屋島城を築いた際の舊跡で、降りては源平二氏争覇の古戰場として有名である。壽永二年閏十月平宗盛安徳天皇を奉じて筑紫よりこゝに移るや、行宮を營み將士の陣營を建てたが、平家の公卿先づこの地の六萬寺に入り、皇居未だ成らざる間、この寺を以て假皇居となした。西方に設けた總門の遺址には今碑が建つて居る。元暦二年二月源義經牟禮を焼き平軍遂に海に浮び、同年三月長門國壇の浦の海上に合戦ありて平軍敗滅した。行宮址及陣營址は安徳天皇社及其の附近の地と稱し、佐藤次(繼)信墓、菊丸墓等

當時の舊跡が多く存する。尙、屋島西麓の浦生の東に屋島城の古石壘と稱するもの残存し、また北方海中に突出する山角の長崎には文久年間の砲壘址が存する。【屋島神社(讚岐日光)】〔縣社〕屋島町東瀧元、屋島の南麓の稍、上りたる所にある。文化十三年藩主松平頼儀の勸請で徳川家康を祀り、日光廟に模して造られたものと云ひ、明治七年縣社に列せられ、同十五年藩祖頼重を合祀した。規模小であるが彫刻精妙である。

寶物

一太刀〔國寶〕銘元重

一口

松平頼壽寄進 附正徳元年十月の折紙がある。

【屋島寺】〔眞言宗御室派〕屋島山上にあり。四國遍路第八十四番の札所で、鑑眞の草創と傳へ、弘法大師弘仁元年七堂伽藍の改修あり、大師作の千手觀音を安置すと云ふ。天暦二年叡山の明達こゝに五大尊供を修したと云ふ。境内に貞應の鐘あり、書院の北庭は雪の庭と稱し、寺に源平時代の什寶を藏すといふ。附近に疊石獅子の靈巖等があり、寺東の談古嶺は脚下に屋島戦跡を指呼し得る展望臺である。

【獅子の靈巖】 屋島寺の西二〇〇米、屋島南嶺の西端にある見晴し臺である。直下に弘法大師の遺跡と傳ふる巨岩があり、前面内海の青波、高松の市街、中國の山々が望まれる。

【談古嶺】 獅子岩から二〇〇米、南嶺の東北端にある。眼近に五劍山の鋭峯と相對し、眼下に相引川、與一の祈り岩、駒立石、洲崎寺等を指顧され、風景雄大にして絶佳、屋島第一の勝である。

【遊鶴亭】 北嶺の北端にあり、脚下に屋島の北の突端長崎鼻を見下し、また小豆島を眼近に見渡し、風光がよい。

【神櫛王墓】 四國水電八栗下車牟禮村王墓にある。封土東西に横はり、頂上に立石が二個建つて居る。今宮内省の手で修治されて居る。神櫛王は景行天皇の皇子で讚岐國造の祖である。

【栗山堂】 同八栗の東北一軒、牟禮村牟禮にある。柴野栗山の誕生地で、舊宅址には巨碑が建ち、生塔を繞らして居る。堂は近年の新築にかゝる寶形造の大きな

な建物で、傍に堂の由來を記した碑があり、堂内に栗山の木像を安置し遺墨、遺愛品を所藏して居る。栗山名は邦彦、字は彦輔、尾藤二洲、古賀精里と共に寛政三博士と稱せられ、勤王の志が深かつた。元文元年ここに生れ、天明八年幕府昌平、巽の教官となり文化四年七十四歳で江戸に卒した。明治四十四年從四位を贈らる。墓は東京市小石川區大塚坂下町にある。

【八栗寺】 眞言宗大覺寺派 同八栗の東北四軒、牟禮村牟禮の五劍山腹にあり、自動車及ケーブルカーの便がある。四國遍路第八十五番の札所である。延暦年間弘法大師の開創であるが、天正年間兵燹に罹り、文祿年間に至り無邊上人が再興した。後、藩祖松平頼重大いに伽藍を修覆し、今の本尊聖觀音像はその際の寄進にかゝると云ふ。本堂、歡喜天堂、通夜堂がある。五劍山はその尖峰を一劍二劍と稱し、五劍に及び、第一劍峯は最高峯を成し、最も海に近く、瀬戸内海の望樓臺をなして居る。

【長尾寺】 天台宗 高松電氣軌道長尾驛の東二〇〇米、高

德線造田驛の南二軒、長尾町長尾西にあり、造田驛及

高松市内から自動車の便もある。四國遍路第八十七番の札所で、古くより讚岐七觀音の一に數へられて居る。

【極樂寺】 眞言宗 同長尾驛の東一軒、長尾町長尾東にある。行基の草創と傳へる古刹で、寺域廣く、本堂大師堂、鎮守堂等が建ち並んで居る。本尊藥師如來立像は國寶である。高さ五尺四寸總身檜材を用ゐ、漆箔を施してあり、鎌倉時代の作である。

【龜鶴公園】 同長尾驛の東二軒、造田驛の東四軒、長尾町長尾東にあり、共に自動車の便がある。公園は宇佐神社の神域、八幡池及附近の山林を含み、櫻の名所として知られて居る。

【大窪寺】 眞言宗 同長尾驛の南一五軒、多和村兼割矢筈山の東麓、四面に山を繞らした幽邃境にあり。長尾町から自動車の便がある。行基の草創、弘法大師の中興と傳へられ、四國遍路第八十八番の札所である。

本堂の前の寶杖堂は、大師が巡歴の間自ら所持された三國傳來の錫杖をこゝに納められたと云ふ傳説から

巡拜者が杖を納めるところである。

【小豆島】 (一三圖一) 瀬戸内海中淡路に次ぐ大きな島で、東西二九軒、南北一五軒、周圍二四軒、面積四〇方軒餘ある。古來讚岐に屬し、現に香川縣の一部をなし、高松から土庄、坂手に至る航路が表口交通路となつて居る。近來阪神方面からの捷路として大阪、神戸から福田港への航路も開かれて居る。

土地一般に山岳性で、東西に走る背梁山脈から南に走る支脈は土庄、三都、田浦の三半島となり、池田灣及内海灣を抱いて居る。

地質は内海諸島共通の花崗岩質で、その上部を火山岩及安山岩が被ひ、風化水蝕を受けて種々の奇形を呈し、中にも寒霞溪の奇景は古來名高い。島の最高地は星ヶ城山の八七〇米で、一體に地勢急峻で傾斜地が多い。島民は農業、漁業に携はるものが大部分であるが、近年工業勃興して素麵、醬油の産額が多い。

【土庄港】 (一三圖二) 小豆島の西部土庄の半島の頸部を占め、島内第一の繁華地である。町は小海峽で南

北に分たれて居るが、低潮の際は砂積で續く。高松港から東北約二〇料、北西から南東に深く入り込んだ港である。土庄町西北の小灣に小豆島、南方池田灣上に余島がある。

小豆島は淵崎八幡山の海岸にあり周圍僅に四五米の小島である。本島名の起原地で、應神天皇の御製に「あづしまよろしき島……」と歌はせられた島である。島上には住吉社を祀つてある。

余島は大小四島から成り四島とも云ひ、干潮時は洲を以て互に繋り、磯傳ひに大余島の先端象ヶ鼻まで行かれる。この邊一帶は風光勝れ、土庄の南濱にある富岳山はこれを眺めるに適して居る。大余島はまた夏季海水浴場として賑ふ。

【寶生院の眞柏】「指定天然記念物」土庄より數百米、淵崎村字北山寶生院境内東北側の廣場にあり、樹の西南側に石柵を設けてある。樹幹は地上から一米ならずして三大支幹となり、南、西、北の三方に向つて居る。全樹の根元の周圍約一五米、南方の支幹は本幹より約

【誓願寺の蘇鐵】「指定天然記念物」小豆島二生村誓願寺にあり、寺は海岸に近い南向の傾斜地に位し、門内石柵中に巨大なる蘇鐵の雌株がある。根元は盛土をなし、全周約六米、土際より五本の太き枝に分れ、主幹は高さ約二米に及び、稍、北に傾いて居る。

【皇子神社社叢】「指定天然記念物」小豆島の西南岸、三都村神浦字外濱、龜山神社の末社皇子神社境内にあり、小半島の山上にある魚附保安林で、うばめがし最も多く、殆ど純群落をなす。その他とべら、もくこく、たまつばき、あかめがしは、やまもも、なはしろぐみ、ていかかつら、かうやばうき、かはらなでしこ等發生し、いぶきも多い。樹下にはひとつばが群生し、樹間にはちやうじがまずみが生じて居る。

【オリーブ園】土庄の東約一二料、内海灣の奥の西村水木にある。明治四十一年の試作以來漸次擴張されて居る。果實は鹽漬とし、またオリーブ油を搾る。この地方は比較的地中海の氣候に類似してオリーブ樹の栽培に適するのである。

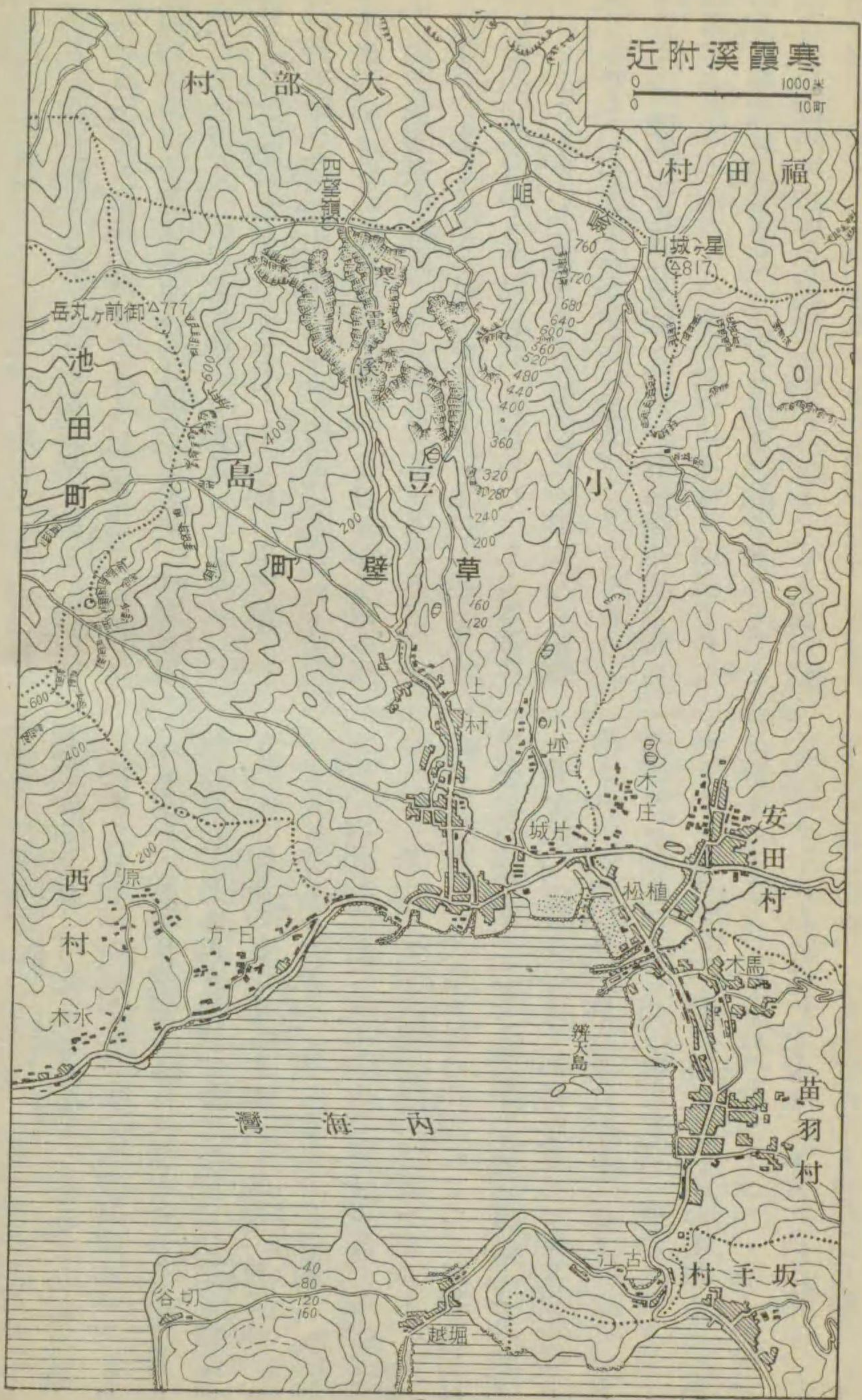
一米の高さに於て分岐し、その部の周圍八米弱に達し、他の二支幹の周圍はこれに及ばない。本樹の如く巨大な眞柏は他にないと云ふ。

【明王寺】「眞言宗御室派」小豆島の南岸、池田村池田東畑にあり、弘法大師の開基と傳へて居る。

釋迦堂「國寶」天文二年の創建、桁行三間、梁間四間、單層、屋根四注造、本瓦葺て、一間の向拜を附し、方柱を用ゐ、墓殿内の裝飾彫刻等室町時代の特色を發揮して居る。

【長勝寺】「眞言宗御室派」同池田村池田にある。弘仁年間弘法大師の開基で寛文年間の再興である。舊池田八幡本地佛坐像と傳ふる小木造坐像三軀あり、中尊阿彌陀、左は藥師、右は地藏と稱せられる。何れも普通の佛像と異り和服を著けた拱手の像で、首部に佛像の面影を存するも、その他に於ては神像の姿を現はして居る。そのうち一體は地藏菩薩像の如きも他の二軀は何佛とも定め難い。時代は鎌倉頃と認められるもので、國寶に指定されて居る。

【神懸山(寒霞溪)】「指定名勝」小豆島草壁町にあり、高松から土庄、下村(草壁)、坂手の三港へ汽船往來し、三港から自動車の便があつて、所要時間は下村からが最も少い。應神天皇嘗てこゝに遊び給ひし時登攀に困難し給ひ、乃ち鉤を岩角に懸けて僅に山頂に達し給うたので、鍵掛の名があると傳へ、鉤掛、浣花溪とも記される。東に星ヶ城山、西に御前ヶ丸岳峙ち、東西約八料、南北約二料に亘り、海拔凡そ五〇米、關西の勝區にして、全山の地質花崗岩その基礎を構成し、集塊岩これを被覆し、大氣水蝕の作用によつて峰巒奇絶怪巖秀絶、松杉雜樹その間を點綴して潤水流れ、一步進めば一景を呈し、溪山の勝その妙を極めて耶馬溪を凌ぐと稱され、表十二景、裏八景に分れて居る。この景勝四季孰れも觀賞によいが、秋季紅葉に燃ゆる時を以て第一とし、初夏頂上一帯に於ける躑躅の美觀もまた掬すべきものである。山嶺は四望頂と云ひ、海上の眺望雄大にして、芭蕉の名吟を刻せる猿蓑の碑があり、俳人可大の書である。また山腹にある神懸山名稱碑は中桐



儉吉の撰文である。

高德線は略、讚岐街道と併行して、高松から東し、香川、徳島兩縣境の大阪越を越えて吉野川を渡り徳島に至る豫定で、現に讚岐の東端引田まで通じて居る。

高松を出て、高松市街の西側及南側を繞つて、東に向ひ、栗林四軒三を経て屋島五軒二に至る。左窓屋島及八栗五劍山を望みつゝ尙東し、志度六軒八を過ぎて一旦南下し、造田五軒を経て東に折れる。讚岐津田六軒四を出ると左窓津田松原及津田灣の風光が眺められ、尙東進して、丹生六軒七、三本松三軒二、讚岐白鳥三軒一を通り引田四軒四に著く。

【志度寺】〔真言宗〕(一三圖なと) 志度驛の東半軒、志度町の東部にある。謠曲海人にて有名であり、四國遍路第八十六番の札所である。境内極めて廣く、北は内海に臨んで屋島、八栗五劍山を眺め、松籟颯々幽邃の地である。仁王門を入りて南の方に海人の墓と云ふのが古木の下にある。當寺はその創建遠く崇峻天皇時代にあ

りと傳へ、この地方の古刹である。現存堂宇の多くは江戸時代以後の建築にして本堂、大師堂、閻魔堂、藥師堂、地藏堂等がある。本堂 七間五面、單層屋根入母屋造、本瓦葺の建築で、次の本尊が安置されて居る。

十一面觀音兩脇士立像〔國寶〕 中尊は蓮坐共一木彫、高さ約四尺八寸二分、姿態に稍、窮屈な感があるが、平安初期一木彫の型を示して居る。兩脇士像は不動明王と毘沙門天の立像にして、兩像とも天部像としては頗る溫和な表情を示した藤原時代の作である。

靈寶閣 多數の寺寶が陳列されて居るがその主要なるもの數點を次に示す。

一十一面觀音立像 〔國寶〕 一幅

絹本着色、堅約七尺幅約三尺、左手に三莖の蓮花を挿した寶瓶を持ち、右手は垂下して與願印を結ぶ、宋末元初の支那畫で描線遒勁である。

一志度寺縁起圖 〔國寶〕 六幅

絹本着色、堅五尺五寸、幅四尺、當寺建立の縁起を描いたもので、謠曲「海人」と同じ物語である。室町時代の作。

【平賀源内舊宅】志度驛の西約半軒、志度町新町にある。當時の家宅は存しないが、遺品若干を所蔵して居る。源内この地に生れ幼時より聰敏奇警、本草學を修め、寶曆十一年江戸に出て、物産の研精に傾注し、火浣布を製して幕府に獻じ、明和七年長崎に遊び和蘭本草を學び、電機、寒暖計、諸種の機械を製作した。また鳩溪と號して稗史戲文に筆を染めたが、遇事に觸れて獄に下り、安永八年十二月に江戸の獄中で歿した。大正十三年從五位を贈られた。墓は東京市淺草區橋場總泉寺にある。

【津田の松原(琴林公園)】讚岐津田驛の北六〇米、津田町にあり、長さ約八〇米、幅三〇米餘、前は海に臨み、後は燧岳その他の山を負ふ。松原の内には郷社八幡宮、琴林碑がある。松は概ね黒松で、樹勢概して美しく幹の大なるものは地上一米半の幹圍三米六である。松原の西端海に面せる所に根上り松三十餘株あり、露出根は何れも低く、唯横に延長して居る。この松原は縣營の公園で、琴林公園と云ふ。海濱は遠淺で夏期海水浴

が行はれる。旅館 千歳、鐵道屋、掛鯛、中野。

【長福寺】〔眞言宗大覺寺派〕讚岐津田驛の西北三軒、鴨部村鴨部東山にある。天長元年弘法大師淳和天皇の勅を奉じて草創した寺で、寺寶の藥師如來坐像は木造高さ四尺七寸餘、藤原時代初期の作で國寶に指定されて居る。

【水主神社(大水主大明神)】三本松驛の西南約五軒、譽水村水主にあり、自動車の便がある。式内の古社で祭神倭迹々日百襲姫命、倭國香姬命、大倭根子彦太瓊命の三神像は何れも木造坐像で、藤原時代の作にかゝり國寶に指定されて居る。

寶物

- 一 狛犬〔國寶〕 木造 一對
高さ約二尺八寸、俗に八頭の獅子として知られ、頭部の甚だなる奇古の趣に富んだ作で、口を閉じた方は頭上に角の痕跡がある。寺傳運慶作と云ふもそれよりも古く藤原時代の製作である。
- 一 男神坐像〔國寶〕 木造 藤原時代 一 軀
- 一 女神坐像〔國寶〕 木造 藤原時代 四 軀
- 一 大般若經入箱〔國寶〕 六十箇

【興田寺】〔眞言宗御室派〕三本松驛の西南約三軒、譽水村中筋にある。虚空藏院と稱し、天平中行基の開基にして、はじめ法相宗で藥師寺と號したが、弘法大師入唐歸朝後當寺を修營して眞言宗に改め、大水主神を以て鎮守となした。爾後衰退して應永十九年増伴僧正來りて堂宇を修營し、中興の祖となつた。天正年間兵燹に罹つたが、元文年中國主松平頼重によつて大いに補を加へられた。

寶物

- 一 太刀〔國寶〕 銘正恒(青江) 一口
拵、絲卷太刀で松平頼重の寄進にかゝり、寶永元年六月の折紙一通を添へ太刀箱を附屬して居る。京都博物館出陳。

【白鳥の松原】縣社白鳥神社社殿の後方にあり、境内にあるものは東西約八〇米、南北約二〇米にして、北門から松原の東端まで約三〇米である。松は黒松を主とし赤松が混生し、幹の大なるものは地上一米半の周圍三米餘に及ぶ。境内の松原に接して北方の海岸まで、白鳥町有の松原がある。悉く黒松で幹は小さい。松原の前面は遙に小豆島の東部に面し、松原の兩端の後方に丹生村の北山を望み、その北方には馬の鼻山が長く海中に突出し、前面に島嶼點在して、風光が頗るよい。

寶物

- 一 佛涅槃圖〔國寶〕 絹本着色 一幅
普通の涅槃圖で描線に肥腹なく、諸佛の表情溫秀にして藤原時代の作と思はれる。
- 一 地藏曼荼羅圖〔國寶〕 絹本着色 一幅
十王經に據つて描いた地藏菩薩の圖像で宋畫の系統に屬する元朝以後の支那畫である。

【白鳥のうばめがし】〔指定天然記念物〕讚岐白鳥驛の西南約一軒半、白鳥村白鳥、國道の南方約三〇米のクヅメ池の下方に立つ。根元の西側は道路に面し、低地であるから、地盛をなし石壁を築いてある。幹は地上一米未滿のところまで兩分し、南北の二支幹となり、分岐部の幹圍約六米、樹高約一〇米。

【白鳥神社(白鳥大神宮)】〔縣社〕讚岐白鳥驛の西北三〇米、白鳥町新町にあり、日本武尊を祀る。中世以後兵亂によつて衰微したが、寛文年間藩主松平頼重深く崇敬して社殿を重修した。

部

【白鳥海水浴場】 讃岐白鳥驛の北約半軒、播磨灘に面した遠浅の海で、背後松林ながく連つて風景がよい。附近には白鳥神社、鹽越明神、ランプロファイアーと云ふ特異な岩層などがある。旅館 白鳥館、引田屋、松屋、荒馬。

【引田城山】 引田驛の北一軒餘、引田港頭にあり、往昔引田氏石壁を施して構築した城址で、眺望よく公園施設がある。

思ひぞいづる壇の浦の、その船軍今ははや、闊浮にかへる生死の、海山一同に震動して、船よりは関の聲、陸には波の楯、月に白むは劍の光、うしほに映るはかぶこの星の影、水や空、空行くもまた雲の波のうちあひ、さし違ふる船軍のかけひき、浮き沈むさせし程に、春の夜の涙より明けて、かたきと見えしは、群れ居る鷗、関の聲を聞えしは、浦風なりけり、高松の浦かぜなりけり、高松のあさ嵐さぞなりにける。

(謡曲八島)

高松 琴平 阿波池田間

高松から豫讃本線に依つて西に向へば、鬼無六軒一、端岡三軒四、國分二軒四を經、白峰山を右窓に望みつゝ鴨川四軒七を過ぎ坂出四軒七に至る。坂出から尙西し、右窓廣い鹽田を見つゝ宇多津三軒二、丸龜三軒六を通つて多度津四軒二に著く。多度津から豫讃本線は二つに岐れる。一つは南して琴平を經、徳島縣に入つて阿波池田で徳島本線に接續し、一つは西南に向つて愛媛縣に進み、今治、松山を經て伊豫上灘に終つて居る。

【根香寺】 「天台宗寺門派」 鬼無驛の西北六軒、下笠居村の青峯の頂上にある。四國遍路第八十二番の札所で、保元年間崇徳上皇行幸の御遺蹟と云ふ。近くの千尋崖は瀬戸内海を見下して眺望が佳い。

【讃岐國分尼寺址】 「指定史蹟」 端岡驛の西二軒、端岡村新居にある。古來法花寺と稱し金堂址と傳へる處に自然石の礎石十九個を存し、遺瓦は何れも奈良時代の様式を備へて居る。寺址の東北隅に鎮守春日社あり、南

方一帶は平野で、附近の耕地に小徑整然として寺址を包擁し、南面の道路は南に直行して當時の規模を見るに足るものがある。

【國分寺】 「眞言宗大覺寺派」 國分驛の東北約半軒、端岡村國分にある。千手院と稱し、四國遍路第八十番の札所である。本尊千手觀音立像は木造、丈六の像で全身牡丹瑞草等の模様を描かれ、平安時代の遺作で國寶に指定されて居る。

本堂 「國寶」 舊時の講堂址に存する。桁行五間、梁間五間、單層、屋根入母屋造本瓦葺の建築で、屢々修理されたため、外觀は新らしく見えるが、内部の臺股や虹梁等に鎌倉時代の特色を遺存して居る。

【讃岐國分寺址】 「指定史蹟」 國分寺境内にある。本堂前面の細長い蓮池の南に金堂址の自然石の礎石三十二箇遺存し、金堂址の東南に東塔址の礎石が残存して居る。今の本堂の在る場所は即ち講堂址で、土壇高く諸所に厚い藪が残存して居る。境内の北面に土壘址あり、東と南とは低くなつて居り、自然石の礎石が残存

する。寺址より唐草瓦及巴瓦が出土して居る。また附近の宅地、耕地面を限る小徑は、何れも整然として、舊時の區劃の保存されたものがある。

【府中山内瓦窯址】「指定史蹟」國分驛の南一軒、府中村前谷と山内村との村界に跨りて存し、低い臺地の傾斜面に營まれ敷口あり、中には底面階段状をなし、且煙出しの部分の部分を存せるものがあつて、内部に奈良時代の瓦破片を多量に存して居る。

【國府廳址】國分驛の西南二軒、府中村字本村にある。鐵道線路に沿へる田圃の邊で、地字垣の内の南邊に廳址築垣の一部を存し舊き條里の痕が残存し、奈良時代の様式を有する古瓦が出土して居る。尙、地字に帳繼印鑰、正惣等の名が残つて居るものがある。今遺址に廳址記念碑が建つて居る。

【鼓岡木丸殿址】國廳址の西に連なる所で丘陵の麓にあり、崇徳上皇が六箇年間御駐蹕あらせられて後崩じ給うた木丸殿の舊跡と稱し、中央に高さ三米の記念碑あり、明治四十年の建設で篆額は閑院宮載仁親王の

記念碑が建つて居る。

坂出驛 香川縣綾歌郡坂出町朝日町

▽琴平急行電氣鐵道 坂出、琴平間 一五軒七

▽琴平參宮電鐵 坂出、丸龜、琴平間 二〇軒六

▽乗合自動車 高屋行

【坂出町】(二三圖は2) 瀬戸内海に臨む要港で、鹽飽諸島を隔て、兒島半島と相對して居る。土地平坦にして横洲川東境を流れ、海濱は砂濱で鹽田廣く連り、全國第一の製鹽地として知られ、坂出地方專賣局が置かれて居る。この地の製鹽業は文政年間久米榮左衛門等が藩公の命を受けて、こゝに鹽濱を造つたのが始まりで、その築造法は舊法を脱して特色があつた。以來製鹽業は日に日に榮え、鹽の取引また盛んで穀類の集散これに次ぎ、小麥粉、綿絲等の製造も行はれ、活潑な商工業の一中心地となつて居る。港は東北に乃生岬突出し、北には金山鯛で有名な瀬居島、砂彌島があり、天然の良港を抱いて、港内水深く大船の碇泊に適して居る。大阪商船、近海郵船、北日本汽船の定期寄港地

御染筆、撰文は藤澤南岳、書は巖谷一六である。附近に鼓岡神社あり、その境内にある鼓岡文庫に、古瓦その他種々の郷土研究資料を陳列して居る。

【神谷神社本殿】(國寶) 鴨川驛の北三軒、松山村神谷にある。三間社流造、屋根檜皮葺の建物で、千木、鯉木を上げ、組物は舟肘木を用る、全部素木造で和様三斗を組んで居る。「正一位神谷神社大明神御寶殿 建保七年歲次乙卯四月十日丁未始之、惣官散位刑部宿正長」と書いた棟札があるが、天文永祿以後數回の修理ありしたため、懸魚その他の細部は明かに室町時代の様式を示して居る。神社は三代實錄、延喜式等にも載せられ、社傳に弘仁三年空海の叔父阿刀大足の勸請と云ひ、また再興と稱するが、本殿は構造様式より見て鎌倉初期の遺構に屬し、現存神社建築の古きものの一である。

【雲井御所址】鴨川驛の西北二軒、林田村中川にある。保元元年崇徳上皇讚岐に御着輦の當初、國司未だ御所を造進するに及ばざりしたため一時御座ありし舊跡と稱し、今、現場に天保六年高松藩主松平頼恕の建設した

として北海道、京濱、朝鮮方面へ移出する四國の貨物を大部分集散して居る。人口二萬。

【坂出鹽田】文政年間久米榮左衛門が藩主京極氏の命を受けて初めて築造したものである。昭和五年の鹽田反別二〇ヘクター、竈數九十、製鹽高は三千百萬疋を

超え、この賠償價額は百四十萬圓に近い。
【鎌田共濟會郷土博物館】坂出驛の西半軒、坂出町にある。鐵筋コンクリート造の建物で階下に讚岐物産、考古學的參考品、滿蒙關係資料等を、階上に讚岐の偉人傑士の遺墨、遺品等を陳列し、毎日無料で開館して居る。坂出鹽田に關する史料も見られる。尙、同會經營に係る圖書館及社會教育館の建物が同一構内に

ある。
【高照院(妙成就寺、崇徳天皇寺)】(眞言宗) 坂出驛の東三軒西庄村天皇にある。弘法大師の開基と云ひ、四國遍路第七十九番の札所である。

【白峰寺】(眞言宗御室派) 坂出驛の東北六軒、松山村青海にある。四國遍路第八十一番の靈場で貞觀二年智

證大師、國司紀夏井の請に應じてこの山に上り補陀落の香木を以て十軀の千手觀音像を刻んだと傳へるが、伽藍はこれより先弘仁六年に創建せられたと云ひ、弘法大師の開創であると云ふ。崇徳上皇長寛二年崩御し給ひて寺の西北に葬り奉るや、近侍の僧章實、國府鼓ヶ岡の木丸殿を移して廟宇となし頓證寺と稱し、宸筆の御影を奉安した。永徳二年烏有に歸して後、松平頼重堂宇を修造した。境内正面に崇徳上皇御廟所(頓證寺殿)あり、紫宸殿に擬し、前庭に左近の櫻、右近の橘あり、勅使門内左右には源爲義及爲朝の木像を安置し隨身として居る。本堂、藥師堂、行者堂、阿彌陀堂、大師堂等がある。寺の西北に白峯御陵、その北の斷崖に稚兒ヶ嶽あり、眼下に瀬戸内海を俯瞰して眺望がよい。寶物館は木造平屋建、有料で公開して居る。

一頓證寺勅額 (國寶) 木造 一面
 頓證寺の三字を浮彫せし、周圍に縁形ある板を附したものである。文書二通を附屬し、これによつて勅額の文字が後小松天皇の宸筆にかゝることが推定される。他の寶物類と共に寶物館に陳

▽琴平參宮電鐵 坂出、丸龜、琴平間 二〇料六

一日平均
 乗車人員 一、二二一人 降車人員 一、二二五人
 發送貨物噸數 三〇噸 到著貨物噸數 二四噸
 主要發送貨物噸數 石炭(年一、八三噸)、麥類(年一、五三噸)
 主要到著貨物噸數 木材(年一、〇〇噸)、木炭(年一、〇〇噸)

【丸龜市】(一三圖は二) 丸龜驛所在地。瀬戸内海沿岸の低地にあつて、土器川は東境を、金倉川は西部を流れて海に入る。大正六年六郷村を編入したので、面積は約一〇方軒ある。工産物は團扇骨を始とし、酒、製綿、木製品及團扇等を主とする。この地はもと海岸の小寒村に過ぎなかつたが、慶長年間生駒氏築城の頃から丸龜の名見え、後京極氏の城下となつた處で、城址の一部は龜山公園と呼ばれて居る。海岸の地形は古今同じからず、文化、天保の頃築造された二つの船溜即ち福島湛甫及新堀湛甫には金毘羅詣の旅客を運ぶ船の集まるものが多かつた。市内の繁華な通は通町、富屋町、濱町、本町等である。人口三萬。

▽官公廳その他 市役所(地方)、稅務署(御供所町)、聯隊區司令部(舊城内)、歩兵第十二聯隊(番丁)、區裁判所(同)、圖書館(地方)

列されて居る。

【崇徳天皇白峯御陵】(一三圖は二) 坂出驛の東北約七軒、松山村青海、白峯山上にあり、山麓まで自動車の便がある。方形にして西面し、松、杉、雜樹繁茂して居る。長寛二年八月、崇徳院讚岐國國府の行宮に崩し給うたので、同年九月こゝに火葬し奉つた。

飯野山(讚岐富士) (一三圖は二) 坂出驛乗換琴平急行電車の讚岐飯野下車、山麓まで約半軒、そこから登路約二軒で頂上(四三米)に達する。讚岐平野の中央に屹立するだけに展望極めて雄大で、北方遠く中國の連峯から内海の青螺白帆を、足下には坂出、丸龜、多度津の港灣街衢が一々指顧される。頂上松林の間には峯の藥師堂があり、その西南隅は噴火口址と云ふ。山頂から少しく降りたる邊には奇岩怪石多く、西方には柱立岩、不動岩、獅子岩、船底岩、競り岩、胎内潛り等の巨岩突兀として聳え、南方一帯は觀音岳の名あり、東方の奇岩には朝日岩、頭巾岩等と名つけて居る。

丸龜驛 丸龜市濱町

▽銀行 中國銀行支店(通町)、百十四銀行支店(本町)、多度津銀行支店(通町)、安田銀行支店(同)、不動貯金銀行支店(同)、讚岐貯蓄銀行支店(同)

▽會社工場 おふく足袋製造會社(通町)、備讚商船會社(福島町)、琴平參宮電鐵會社(中府)、大久保商會(鹽屋)、三豐紡績會社分工場(同)閉鑿鹽業會社(福島町)、多度津製氷冷蔵會社出張所(新堀)

▽旅館 東洋樓(魚屋町)、玉川樓(西平山町)、日ノ出(通町)

▽娛樂場 地球館(濱町)、蓬萊館(通町)、帝國館(新町)、新町座(同)、大黒座(新堀)、戎座(南條町)

▽土産物 團扇、保多織、花籠、四ツ目饅頭、坊太郎餅

【丸龜城址】 驛の東南半軒、市の南端にある。龜山城とも蓬萊城とも云ひ、慶長二年、生駒親正の築く所て、その子一正こゝに居城した。同十八年山崎家治封ぜられ大いに土木を起して新城を造築し、居る事三代、萬治元年京極高知これに代りて居り更に修築を加へ、爾來世襲約二百年にして明治維新に至つた。今、城は毀れたが内、外濠及石壘等よく保存され、天守閣、大手門の建物が遺存し、龜山公園となつて居る。

【土居の清水】 驛の東南一軒、丸龜城の東、土居字清

水にあり、往古神功皇后が當國に上陸遊ばされし時、土人この靈水を汲んで奉り、甚美清水と宣らせられたと云ふ傳説がある。今も大旱尙涸れず、清冽な清水湧き、古來市民の過半は運搬車によりこの水を購うて飲料として居たが、大正十四年上水道施設に際し、その水源地となつた。

【井上通女墓】 驛の南二〇〇米、市内南條町法音寺境内にある。通女は京極氏の臣井上本因の女で感通と號し、萬治三年六月丸龜藩邸に生れた。幼にして聰敏經史に通じ東海紀行、江戸日記、歸家日記、和歌往事集等十餘種の著がある。

【田宮坊太郎塔】 驛の南半軒、市内南條町玄要寺の境内にある。古い五輪塔で院本金毘羅利生記で有名な孝子坊太郎の分骨塔と傳へ、參拜者が多い。

【萬象園】 驛の西二軒、市内中津にある、舊藩侯京極氏の別墅で、金倉別館と稱して居たが、維新後一時全く荒廢した。後年改修して舊觀を復したのが現在の庭園で、北は海に瀕し、南は遙かに阿讃の連山を望み、

滿庭悉く松樹が生ひ茂つて居る。

多度津驛 香川縣仲多度郡多度津町多度津

▽豫讃本線 多度津、阿波池田間 四三軒六

▽琴平參宮電鐵 多度津、琴平間 一一軒九

▽乗合自動車 築港行

【多度津町】 (一三圖まご) 多度津驛所在地。舊藩時代は金毘羅宮參詣者の出入する港として、殷盛を極めたが、高松港完成及鐵道の發達の爲、大いに打撃を受けて昔時の殷賑はないが、現に軀、尾道との連絡船の外別府航路の船も寄港する。人口七千五百。

【桃陵公園】 驛の西約一軒、多度津町の海濱に在り、翠樹鬱蒼たる丘陵で、北は紺碧の内海に面して遙に鹽飽諸島を望み、西は白方の松原を眺めて風光が佳い。園内に美談「太郎ヤイ」の母の銅像がある。

【多度津附近海水浴場】 多度津の海岸には多度津、中津の二海水浴場がある。多度津は驛の北約一軒、中津は驛の東北約二軒、丸龜驛からは西約二軒、共に自動車の便がある。白砂青松遠淺の海で、前面には鹽飽の



坂 出 港



多 度 津 港



善通寺



宮羅比刀金





圖水山及布瀑筆舉應宮羅比刀金





琴 彈 公 園



諸島散在して明媚な風光である。

【道隆寺】〔真言宗大覺寺派〕多度津驛の東北一軒、豊原

村北嶋にあり、四國遍路第七十七番札所である。天平神護二年和氣道隆、桑園をこの地に造り、桑樹を以て薬師如來立像を刻み本寺を建立して安置したと傳へ、延暦年間その孫朝祐これを修めて道隆寺となしたのが濫觴であると云ふ。寺寶の星曼荼羅圖は絹本著色で、比丘形を以て北斗七星を現示し、一星、雲に乗じて下界に下りて漢帝に會するを圖したもので、その着想は通常の星曼荼羅と異なり、時代は鎌倉末期に屬し、國寶に指定されて居る。

多度津から琴平方面に向へば、金藏寺三軒七、善通寺二軒三を經、琴平山を右窓に仰いで琴平五軒三を過ぎ、鹽入六軒四、讚岐財田六軒二を通つて猪鼻峠の長隧道（三、八四五米）に入り、徳島縣に進み、箸藏一軒二を經て阿波池田八軒五に至りて徳島本線に接續する。

【金倉寺】〔天台宗寺門派〕金藏寺驛の東半軒、龍川村金

藏寺本村にある。智證大師誕生の地で、寺は寶龜五年

の草創と傳へ、四國遍路第七十六番札所で、建武、天文再度の兵火に罹災し、後享保年間松平頼重によつて再建された。寺寶の智證大師畫像は絹本著色で、兩手を膝前にあつめ床子に端坐せる極めて謹嚴な像である。力強い鐵線描はこの謹嚴な相貌を現はすに重大な役割をつとめて居る。左の短冊形の中に「天台宗延暦寺座主入唐傳法阿闍梨贈法印大和尚位勅諡智證大師」とあり右の色紙形には「雙瞳遠瞻 奇骨嶽峯 覺月現相 夢日繫陰 華頂步石 英峯振金 識良諧滅 山瀛阻深」の讚がある。鎌倉時代肖像畫として注意すべき優秀な作で、國寶に指定されて居る。

善通寺驛 香川縣仲多度郡善通寺町善通寺

▽乗合自動車 上高瀬村

【善通寺町】（二三圖ま）善通寺驛所在地。弘法大師出生の地で、大師の父善通の名から大師自ら名づけた地名と云ふ。その縁故から善通寺が創建されて自ら町をなしたのが現在の所で、琴平と共に信仰的都會で何等

産業の云ふべきものは無いが、第十一師團司令部が置かれてから漸次活氣を添へて來た。人口一萬七千。

【善通寺】〔眞言宗〕善通寺驛の西約一料、善通寺町にあり、丸龜及多度津から電車の便もある。弘法大師の誕生地と傳へ、また同大師の建立と稱し、四國遍路第七十五番の札所として名高い。境内廣くして、内外二區に別かれ、一を本坊境内と云ひ一を伽藍境内と云ふ。

伽藍境内には金堂、常行堂、五重塔婆等があり、本坊境内には御影堂、護摩堂、寶物館、庫裏等がある。何れも江戸時代以後の再建にかゝり、往時の壯觀はないが、今復興の途上にある。

金堂 五間五面重層入母屋造、丈六の藥師坐像が安置されて居る。

常行堂 五間六面單層屋根入母屋造本瓦葺、釋迦如來の坐像を安置して居る。

五重塔婆 明治年間の再建。

御影堂 禮堂は十間四面屋根入母屋造本瓦葺、江戸時代の建築にして、奥殿には弘法大師の御影が安置さ

した兩界曼荼羅をこの地に埋納したと傳へ、四國遍路第七十二番の札所である。寺の西半料、水莖岡には西行の假寓の舊跡と云ふのがある。

【出釋迦寺】〔眞言宗〕曼荼羅寺の西南半料、吉原村吉原、我拜師山の西南麓にある。弘法大師がこゝに來て釋迦出現を祈り、捨身の行を修したと傳へ、四國遍路第七十三番の札所である。

【大麻神社】善通寺驛の東南三料、善通寺町大麻、大

麻山の東麓にある。式内の古社で祭神天太玉命像は木造坐像で高さ一尺五寸三分、冠を戴き、袍を着け、兩手を拱した藤原時代の作である。また彦火瓊杵命坐像は高さ二尺一寸の木像で、時代は前者と同じく、共に國寶に指定せられて居る。

琴平驛 香川縣仲多度郡榎井村榎井

高松から四三料六 約一時間

▽琴平電鐵 琴平、高松間 三一料三

▽琴平參宮電鐵 琴平、丸龜、坂出間 二〇料六

▽琴平急行電鐵 琴平、坂出間 一五料七

高松琴平阿波池田間

三五五

れ、大師將來と傳ふる金銅錫杖〔國寶〕が祕藏されて居る。尙本堂の地下には戒壇廻りと稱するものがある。

寶物館 佛像、佛畫、肖像畫、古文書、古寫經等が多數陳列されて居るが、次にその主なるもの數點を擧げる。

一 地藏菩薩立像 〔國寶〕 一 軀

木造、高さ約三尺八寸、面貌圓滿、姿態溫雅、衣文流麗、藤原時代の作である。

一 吉祥天立像 〔國寶〕 一 軀

木造、高さ四尺五寸、藤原時代の作。

一 一字一佛妙法蓮華經序品 〔國寶〕 一卷

紙本淡彩料紙に方眼を設け、經文各行間内一字毎に佛像を配し一行十字に對して佛像十體を描いて居る。書體は支那唐代寫經風のもので、佛像も唐朝の形式を示して居る。

【甲山寺】〔眞言宗〕善通寺驛の西二料半、筆岡村弘田、第十一師團練兵場の西端に接してある。弘仁年間弘法大師の建立と傳へ、四國遍路第七十四番の札所である。

【曼荼羅寺】〔眞言宗〕善通寺驛の西四料、詫間驛の東五料、吉原村字曼荼羅寺にある。弘法大師が自ら書寫

【琴平町】(二三圖ま) 琴平驛所在地榎井村と隣接して居る。金刀比羅宮の門前町として發達した町で、西南に象頭山を負ひ、その中腹の神社から東北に延ぶ參道に沿うて段階をなして旅館、土産物店などの民家が蜜集して居る。旅館 虎屋、備前屋、櫻屋、數島館。

【金刀比羅宮】〔國幣中社〕琴平驛の西約半料、琴平電鐵の西約四〇米、琴平町琴平山の中腹にあり、山麓から本殿まで徒歩約一料、多數の石段があり、途中寶物館、社務所、木馬舎、火雷社及旭社を経て本殿に達する。

旭社は社務所から本宮に至る途中にあり、天照大神を祀つて居る。五間五面重層入母屋、素木造、江戸末期の大きな建築である。

本宮は旭社の前から賢木門を経て更に石段を登つて達する。この邊り、老樹繁り、市街村落を見下し、遠く讚岐富士の稱ある飯野山を望み展望美に富んで居る。

本宮の祭神は大物主神を主神とし、崇徳天皇を配祀して居る。もと金毘羅宮と稱し、明治維新の際金刀比羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

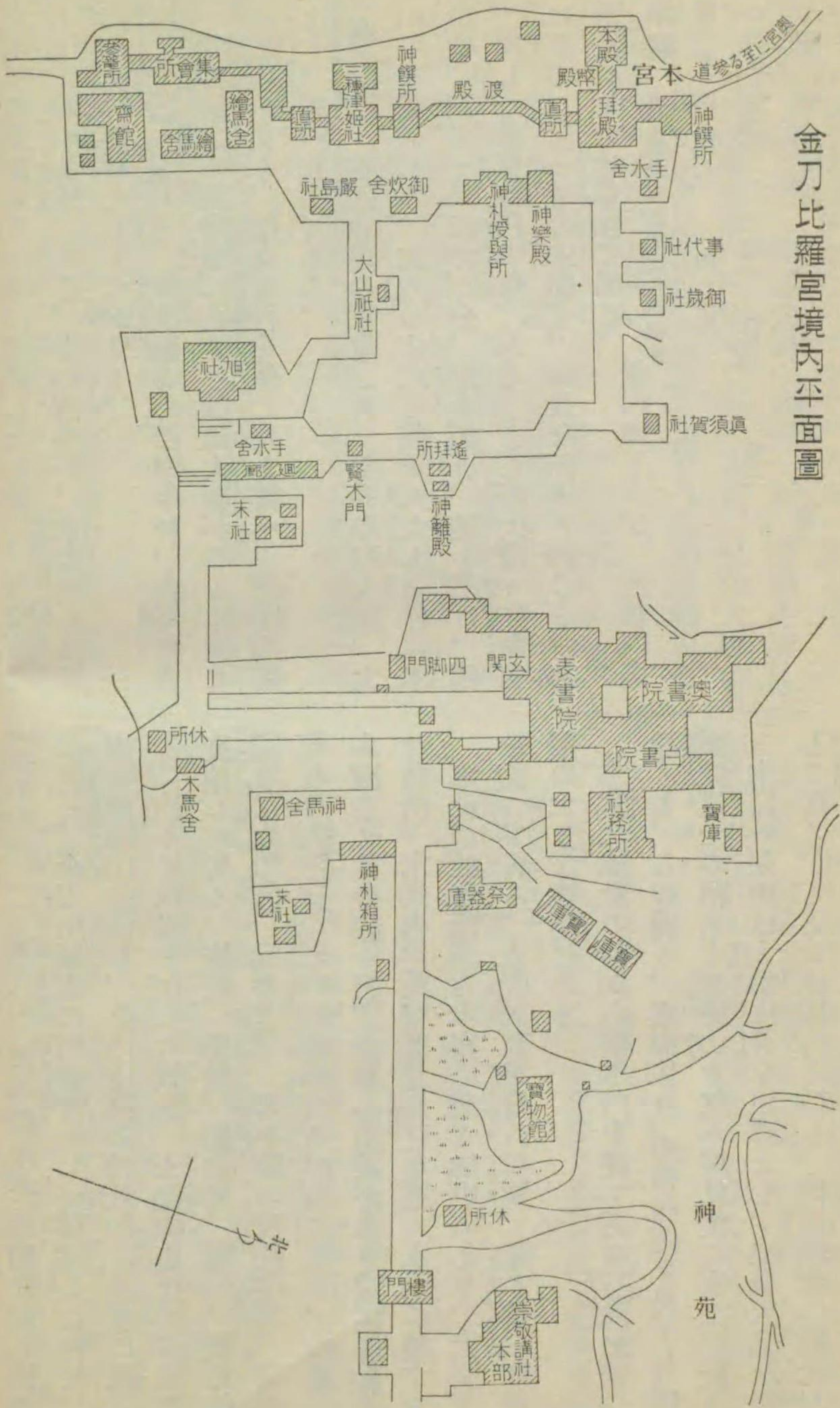
羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

羅宮と改稱された。本宮は崇敬者の多きこと著しく、

金刀比羅宮境内平面圖



特に航海業者の信仰が厚い。今の本殿は明治時代に再建されたもので、その形式は權現造に屬し屋根は檜皮葺である。本殿の向つて右手には神饌殿があり、また左方には少し離れて神樂殿及三保津姫社がある。例祭は十月十日。

奥社 本殿の右側より幽邃な樹下を通ずる参道がある。社殿は一間社朱塗の流造で、社前に金剛坊大僧正參籠の舊跡と稱する威徳巖がある。参道の途中には攝社白峯神社がある。

社務所書院 萬治二年の建築にして上段及二の間、七賢の間、虎の間及鶴の間に別かれ、その襖、明障子、床の間等に描かれた貼付繪はすべて應擧の筆にして何れも國寶に指定されて居る。次に各室の圖をその主題によつて説明する。

瀑布及山水圖 「國寶」 上段及二の間の貼付で大小合して三十三枚ある。何れも紙本墨畫で全面に薄く金砂子を蒔いて居る。上段床の間の貼付は中央に松樹右側に大瀑布が描いてある。帳臺の四枚には山水樓閣を描き、

書院火燈窓の明障子の腰及違棚の袋戸等には若松、竹細流等を描いて居る。次の間の襖には支那山水を描きその一枚に「寛政甲寅初冬寫平安源應擧」の落款がある。甲寅は寛政六年に當り應擧六十二歳の時である。床の間の瀑布は構圖雄大、運筆輕妙にして應擧晩年の一大傑作である。

竹林七賢圖 「國寶」 七賢人の間の襖八枚と明障子八枚の腰に描いたもので、何れも紙本墨畫で全面に薄く金砂子を蒔いて居る。構圖がゆつたりとして人物竹林の描寫には清らかな氣品の高い描線が使はれて居る。社傳に瀑布の圖と同時の作と云ふ。

遊虎圖 「國寶」 虎の間の襖八枚に描かれて居る。紙本墨畫、金粉地で、中央大なる斷崖に瀑布を描き、丘上八尺の虎は或は流れに水を呑むもの、或は蹲踞せるものを描いて居るが、筆致生動の氣に乏しく、彼の山水畫に見る如き優秀な技量は到底この畫に見ることは出來ない。落款に「天明七丁未夏月寫平安源應擧」とあるからこの圖は應擧五十五歳の時の筆である。他の明

障子八枚の腰には若松と笹を描いて居る。

遊鶴圖 (國寶) 紙本墨畫で床の間の貼付及襖八枚に描かれて居る。鶴に若松を配したもので、構圖筆致ともによく圓山派の特徴を示し、落款は無いが勿論應舉の筆に成つたものである。尤もこの中一枚だけは明治時代に森寛齋の補作にかゝるものである。

奥書院 これも萬治二年の建築である。上段の間の貼付繪には若冲筆と傳ふる花卉の圖、春の間、菖蒲の間及柳の間には岸岱筆の柳、菖蒲、若松、遠山等の圖がある。

寶物館 石造建築で陳列室は階上階下に分かれて居る。次にその主なるものをかゝげる。

一十一面觀音像 [國寶]

木造著色、高さ四尺八寸、もも境内觀音堂の本尊と傳へて居る。彩色文様の一部がその儘殘存し、刻線力強く平安初期の作と認められ、この地方に於ける優秀なる遺品である。

一辨財天十五童子像 [國寶]

絹本着色、中央に六臂の辨財天が立ち、その左右に多數の童子持物を捧げ樂器幢幡を手にして侍立し、背景に山を描き、上方には圓

る。

【法道寺】 [古義眞言宗高野派] 琴平電氣鐵道陶驛の南四

軒、山田村山田下にあり、行基の草創と傳へて居る。天正年間兵火に罹つたが、本尊地藏菩薩立像は高さ三尺一寸、寄木造、鎌倉時代の作で、國寶に指定されて居る。

【滿濃池】 鹽入驛の東北約二軒、七箇村と神野村の間

にあり、東西八八米、南北一四四米、大寶年間の築造と傳ふる灌漑用池で池堤に滿濃神社がある。讚岐第一の大池で、弘法大師の修築を經たと云ふ。古來苗代時に行はれる揺拔の古式は賑かである。近年改良工事を施し堤防を約一米半高くして貯水量を増し、新式配水塔を完成し、幹線水路の改修をなして配水を圓滑ならしめた。

【箸藏寺】 [眞言宗] 箸藏驛の東一軒、ケーブルカーの

便がある。吉野川の北箸藏山中腹にあり、山麓から寺門迄登路二軒、山門を入れれば松柏蒼鬱として森嚴の氣

相内に坐せる佛を五體現はし、前面には戴冠して跪ける人物が如意寶珠を獻じて居る。全面剝落甚しきも鎌倉末期の作と思はれる。

一なよ竹物語繪卷 [國寶]

紙本着色、この物語は後醍醐天皇に關する戀物語で、吳竹物語がたりも鳴門中將物語とも稱する。繪も詞書もその筆者は明かでない。その作風には鎌倉時代の形式を踏襲せる點も少くないが、室町時代に入れるもので構圖も頗る巧妙であり、描寫またなかく精緻である。

一伏見天皇御歌集 [國寶]

紙本墨書、御製の和歌百首を草假名文字で美しく書寫されたもので、後伏見天皇の宸筆と稱せられて居る。

一短刀 [國寶]

銘筑州住國弘作

一太刀 [國寶]

銘備州長船

この外、佛像佛畫、甲冑古寫經等がある。

【瀧宮天滿宮】 [縣社]

琴平電氣鐵道瀧宮驛の西半軒、瀧宮村にあり、菅原道真を祀り、念佛踊は菅公以來有名である。社の西に瀧宮神社あり、その側を流る、綾川は崇徳天皇の御製にある「瀨をはやみ岩にせかる、瀧川」で、一に瀧川と呼ばれ、清流巨巖に激し壯觀を呈す

が溢れて居る。數百級の磴道を登りつくせば正面に護摩堂、左に方丈、庫裡、客殿等が軒を連ねて居る。更に護摩堂前を過ぎ鐘樓、大師堂を右に、天神祠を左に見て再び石階を登れば本堂である。本堂には金毘羅大權現の扁額があり、殿堂結構壯麗である。弘法大師の創建で世俗呼んで金刀比羅宮奥の院と稱し、四國遍路番外の札所として順禮者の參詣が多い。境内梅、櫻、楓が多く春秋は美觀を呈する。

多度津 松山間

多度津から西南に向ひ海岸寺三軒八を通れば右窓瀬戸内海の風景が眺められる。詫間二軒五から暫く南進し、上高瀬五軒、本山五軒四を経て観音寺四軒一に至り、尙南下して豊濱五軒五、箕浦四軒四を過ぎて香川縣から愛媛縣に進む。

【海岸寺】〔真言宗〕海岸寺驛の北二〇米、白方村西白方の海岸、屏風ヶ浦にある。四國遍路の札所には數へられて居ないが、弘法大師誕生地として順禮者の參詣が多い。嘗て善通寺と大師の誕生地であることを争うた事がある。

本堂の西南二軒の奥ノ院は俗に子安觀音と呼ばれ、境内に大師産湯の井、湯手掛松等の舊跡がある。

【屏風ヶ浦海水浴場】海岸寺驛の西北三〇米、白砂青松の砂濱で遠淺をなして居る。附近に津島神社がある。旅館 田中屋、龜岡屋、莊原。

【彌谷寺】〔真言宗小野派〕詫間驛の東四軒、大見村彌谷

石で、東西一六米、南北一三米、展望、釣魚によい。

【法蓮寺(歡喜院大坊)】〔真言宗小野派〕上高瀬驛の東五軒、麻村下麻にあり、自動車の便がある。道雄法師の開基で、本尊阿彌陀如來像を安置する。寺寶の不空羅索觀音像は木造、八臂の坐像で、天冠のひれを長く左右に垂れ、前手は合掌して端嚴な相好を現はし、袈裟及裳のひだは特に柔か味に富み、上體の豊かな肉付とよく調和して居る。藤原時代初期の作で國寶に指定されて居る。

【本山寺】〔真言宗大覺寺派〕本山驛の東南一軒、本山村寺家にあり、四國遍路第七十番の札所である。大同二年弘法大師の草創する所で、當時、根本中堂、五重塔、虚空藏堂、普賢延命堂、入灌頂堂その他の堂宇を具備した大伽藍であつたと云ふ。正應年中近江大守佐々木氏信の歸依ありて堂宇の修營あり、天正年間長宗我部元親の兵火に遭ひて本堂、仁王門等を遺して焼燼した。同十五年生駒近規修營し、更に寛文年間京極氏によりて修補されたが、嘉永年間罹災し、後明治年間に至り

山の南側中腹にあり、自動車の便がある。四國遍路第七十一番の札所で、天平勝寶年間行基の開創であると云ひ、大同二年弘法大師登山して求聞持の法を修したと云ふ。本尊千手觀音像を安置する本堂を始め、大師堂、護摩堂、多寶塔、十王堂、金剛藏王權現堂、鐘樓等何れも絶壁により谷に臨みて建ち、護摩堂と大師堂は半ば窟によりて造られ、護摩堂に不動明王像を安置し、大師堂の石窟は開持窟と稱せらる。寺寶の五鈷鈴は空海將來の遺品、惠果阿闍梨所持の品と云ひ、金銅製、高さ六寸二分、唐朝の製作品で國寶に指定されて居る。

【須田海水浴場】詫間驛の西北約四軒、自動車の便がある。詫間灣に臨んだ砂濱で遠淺をなして居る。前面には粟島、志々島など波に泛び風景がよい。附近一帯は魚釣の適地である。旅館 明雲、小川。

【仁尾町】〔三圖ま?〕詫間驛の西約七軒、燈灘に面して居る。海岸には岩嶼横はりて風光明媚、また鹽田の多きこと坂出に次ぐ。

【仁尾平石】仁尾町の沖合二軒にある。表面平坦な大

て諸堂宇復舊するを得た。

八脚門(仁王門) 〔國寶〕三間一戸、屋根切妻造、本瓦葺、寺傳久安三年の創立と稱するが、唐様に和様を混へた自由且奇抜な構造様式で、珍奇な繪様線形を有し、鎌倉時代中期、恐らく本堂と同じく正應四年の建築であらう。

本堂(觀音堂) 〔國寶〕桁行五間、梁間五間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、正應四年の再建て、長宗我部氏の兵火を免れた建物である。堂々たる大建築で、雄健な手法に成り、内部の厨子は優美な透彫を有し、破風、懸魚、狐格子、鬼板は當時の儘を完存して居る。

【妙音寺】〔真言宗大覺寺派〕本山驛の東三軒、上高野村にある。弘法大師の開基と云ひ、本尊の阿彌陀如來坐像は木造、丈六の巨像で高さ七尺六寸餘、藤原時代の作で國寶に指定されて居る。

【二ノ宮窯址】〔指定史蹟〕本山驛の東四軒、二ノ宮村羽方字砂原にある大水上神社境内丘陵の西麓にあり、現在二箇の窯址が発見されて居る。一箇は方形で火口

東北面し底部に造付臺二つあり、その中間及左右は通火溝をなし、巴瓦、唐草瓦、土器及瓦硯等が発見された。他の一箇は前者の西北約一二米にあり、略、圓形をなし、火口北面し底部に造付臺六箇あり、その間の通火溝は葉脈状を呈して居る。唐草瓦を發見して居るが、二箇ともに鎌倉時代を降らざる頃のものである。

【觀音寺驛】 香川縣三豐郡觀音寺町觀音寺

高松驛から 五六軒一 約一時間半

▽乗合自動車 琴彈公園行、五郷溪温泉行、栗井行

【觀音寺町】 (二三圖三) 財田川の懸灘に注ぐ河口に

位し、尾道港と内海を距て、相對して居る。伊吹、大股、小股、圓上の諸島を含み面積約七方料、人口一萬八千に餘る。主なる産物は綿絲で、農産物、漁獲物、水産製造品その他、織物、酒等の工産品が集散及生産され、讃岐西部の商工業中心地である。

【琴彈公園】 觀音寺驛の北一軒半、觀音寺町を流れる

財田川の北にあり、自動車の便がある。琴彈山及有明濱一帯を云ひ、眺望絶佳の地である。琴彈山は花崗岩

左右に釋迦、藥師の坐像が安置されて居る。

寶物

一 不動二童子像 (國寶)

絹本着色、豎八尺五寸、横四尺一寸の大幅である。不動明王は岩上に結跏趺坐し、肉身紺青、頸飾、劍等は金泥で描かれ、腰衣は赤地に金泥で七寶文を描いて居る。前面には白色の狩野羅童子と赤色の制吒迦童子が立つて居る。寺傳に狩野元信の筆と稱するも、それより古き時代の作と思はれる。箱裏に永享八年伊豫守源信之の寄進銘がある。

一 琴彈八幡本地佛像 (國寶)

絹本着色、豎約四尺三寸、横約一尺三寸、上部に來迎阿彌陀三尊を描き、下段に釋迦三尊を描いて居る。佛體にはすべて精緻な金彩を施した作で、鎌倉時代の作と思はれる。第六十八番札所本堂の本尊である。

一 涅槃像 (國寶)

木造長二尺五寸、右肘を屈して枕とし、右脇を下に横臥せる像で、相好衣文に力強い鎌倉時代の特徵を發揮して居る。木彫涅槃像は極めて稀にして、大和國岡寺の涅槃像と共に珍重すべき遺品である。

一 琴彈宮繪縁起 (國寶)

絹本着色、豎約三尺五寸、横約四尺五寸、山上に八幡宮、山麓に觀音堂を描いて居るのは、琴彈山の實景を寫したものである。裏書には土佐光信筆とあるが、光信の時代よりも稍古い作と

より成る丘陵で海拔六〇米、松樹多く繁り、根上り松があり、小傘松の群生があり、象ヶ鼻と云ふ巨巖もあり、山上には琴彈神社、山腹には觀音寺、興昌寺、一夜庵等がある。有明濱は白砂青松の海水浴場で、古銭寛永通寶の形が外圍三三米の大きさに掘られ、またトラックがある。

【琴彈神社(琴彈八幡宮)】 (縣社) 琴彈公園内琴彈山

頂上にあり、長い石階參道によつて達する。大寶三年日證上人が宇佐八幡を勸請したのが創祀で、後大同二年弘法大師この地に巡錫の時、山腹に觀音寺を建ててこの社の別當とされたと傳へて居る。境内の眺望極めてよく、東に財田川の清流、西に懸灘の海波、北に九十九山から仁尾灣の風光が望まれる。

【觀音寺】 (眞言宗) 琴彈公園の東麓景勝の地にある。

當寺の創建は遠く奈良朝にありと傳へ、四國遍路第六十八番及第六十九番の札所になつて居る。第六十八番の本堂には八幡の本地佛阿彌陀如來の像が安置され、また、第六十九番の本堂には觀音像が安置され、その

思はれる。

【興昌寺】 (臨濟宗東福寺派) 琴彈公園内興昌寺山の南腹

にあり、山崎宗鑑の居住終焉の址として知られ、境内の一夜庵と名付けられる庵室に宗鑑自作の木像が安置されて居る。

【讃岐博物館】 琴彈公園内にある。博物學、歴史、美術、軍事、産業の各部門を別ちて各々蒐集品が陳列され、無料で公開して居る。

【有明の濱海水浴場】 觀音寺驛の西約二軒、自動車の便がある。懸灘に臨んだ延長三軒に亘る遠淺の砂濱で、海上には伊吹、股、圓上の小島が夢の様に泛んで居る。附近は琴彈公園で風光明媚の地として知られて居る。旅館 松廼屋、池徳、藤川、お多福。

【大興寺(小松尾寺)】 (眞言宗) 觀音寺驛の東一〇軒、辻村小松尾にあり、四國遍路第六十七番の札所である。弘仁年間弘法大師の草創と傳へる巨利で、仁王門、鐘樓、本堂、大師堂、鎮守堂等の堂塔が備つて居る。

鐘樓、本堂、大師堂、鎮守堂等の堂塔が備つて居る。

【萩原寺(地藏院)】 眞言宗大覺寺派 豐濱驛の東四料、萩原村寺家(はぎはら)にあり、自動車の便がある。雲邊寺の奥院で、行基の開創と云ひ、大同二年弘法大師によつて修營されたと傳へ、本尊として地藏菩薩像を安置して居る。

寶物

- 一 觀經曼荼羅圖 「國寶」 絹本着色 一幅
- 一 畫表裝で軸は八相金物を附し、原形をその儘傳へて居る。
- 一 急就章 「國寶」 彩絹墨書 一卷
- 一 急就章と云ふは後漢史游の作で、弘法大師が支那から將來したものである。

護持院隆光記一卷及南谷筆、急就篇加點一卷を附屬して居る。

【雲邊寺】 豐濱驛の東南一二料、雲邊寺山の頂上にある。記事阿波池田驛参照。

箕浦を出て愛媛縣に入れば川之江五料八、伊豫三島五料四、伊豫寒川四料一、伊豫土居六料九を経て小隧道を潛り、多喜濱一〇料八、新居濱三料七、中萩四料八を過ぎ伊豫西條六料四に至る。伊豫西條から西して石鎚山三料五、伊豫小松三料八を通れば西北に折れ、壬生川五料

べて紐状を呈し、針状のものはない。

【三角寺】 「眞言宗」 伊豫三島驛の東五料、金田村三角寺にあり、四國遍路第六十五番の札所である。本堂の左に弘法大師の築いたと傳へる三角形護摩壇がある。境内老樹鬱鬱として幽寂である。

【仙龍寺】 三角寺の東三料、新立村銅山川の左岸に沿ひ、東西北の三面山を以て圍まれ、老杉古木鬱鬱として畫尙暗く、奇巖、怪石屹立重疊せる一大岩壁の下にあり、飛瀑聲々四時風光が佳い。

新居濱驛

愛媛縣新居郡泉川村十郎

高松から 一〇二料七 約三時間

▽ 乗合自動車 山根行、惣開行

【新居濱町】 (二三圖ら4) 新居濱驛の所在地泉川村の西北に接し、住友別子鑛山鐵道(惣開、端出場間一〇料)の起點惣開の所在地である。海岸の沖積地に位し、尻無川、東川等が貫流して居る。別子鑛山の咽喉に當り、同鑛山に誘發されて工業次第に隆盛となり、住友別子鑛山會社の外、肥料製造所工場、人絹製造會社等

二、伊豫三芳三料四、伊豫櫻井七料六、伊豫富田三料八を経て今治三料三に著く。

【川之江町】 (二三圖や3) 川之江驛所在地。下山川の河口東岸にあり、阿波街道讚岐街道の要衝に當り、徳島本線阿波池田驛へは自動車の便がある。吉野朝の頃土肥義昌が義兵を擧げた地で、今の城山はその古城址と云ふ。地方取引の中心で製紙業が盛んである。人口七千。

【三島町】 (二三圖や3) 伊豫三島驛所在地。宇摩郡地方の中心地で川之江と共に内海に臨む小港である。この附近製紙業盛んでその中心地をなし、その産額は縣下全數の半を占むと云ふ。人口一萬。

【下柏の柏】 伊豫三島驛の東約三料、松柏村下柏柏檜にある。田畝の間にあつて約方形をなせる小空地の中央に立ち、根廻り約一米、幹圍は地上約一米の高さに於ける大瘤の直下で約八米、枝下は約三米半、主幹は屈曲して五本の枝を生じ、幹の東側の下部は缺裂して空洞となり、洞内に地藏尊を安置してある。葉は總

がある。御代島を利用した築港は工事が着々進捗し、完成の曉には一萬噸の汽船も岸壁に繋留されると云ふ。人口一萬一千。

【住友別子鑛山會社】 新居濱町惣開にあり、別子鑛山に於ける銅鑛の採掘及製鍊事業を主な目的とし、兼ねて農林、機械製作、海運、鐵道、販賣等の諸業及これ等の附帶事業を營んで居る。

【別子鑛山】 (二三圖ら4) 新居濱町惣開から住友別子鑛山鐵道の便がある。別子山、角野、中萩の三村に跨り、鑛區面積約二六方料、古く元祿三年發見、同四年六月採掘を開始して以來、住友家の經營にかゝり、現今住友別子鑛山會社の手にあつて、我が國屈指の大鑛山である。地質は結晶片岩系に屬する。鑛床は鑛層或は層狀鑛脈と稱される扁豆狀の鑛塊で、含銅硫化鐵鑛より成り、東西の延長約一、五〇米、厚さ〇・六米乃至七米六にして、露頭より四五度の傾斜をなして地底に走り、下部に至つて六〇度乃至七五度の急傾斜をして居る。採掘はこの鑛床の頂部、海拔一、四五米の地點

なる東延より始め、鑛床下磐に斜距離三六米の東延斜坑を開鑿し、約七九米毎に走向に沿ひ運搬坑道を開いてある。斜坑の基底たる八番坑道以下は深さ約六〇米の大堅坑を穿つて更に地中深く掘進し、この堅坑に連絡して九一米乃至二三米毎に走向に沿ひ運搬坑道を設けてある。斯くの如くして山頂から地中へ順次坑道を敷へること十六、現在露頭から一、二〇米の地中まで採掘して居る。坑道中東延斜坑の基底坑道たる八番坑道は約一、八〇米の第三通洞を経て山腹東平に連絡し、大堅坑の基底たる十四番坑道は約四、五〇米の第四通洞を通じて、山麓に近い端出場選鑛場に連絡して居る。

採掘された鑛石は端出場選鑛場に運ばれ、先づ粗鑛を篩別し、塊鑛は手選鑛帶上にて貧鑛、硫化鑛及製鍊鑛の三種に選別する。篩別の際に生じたる粒粉鑛及選別された貧塊鑛はこれを新居濱選鑛工場に送付する。同工場では粒粉鑛は比重選鑛法により硫化鑛、製鍊鑛及貧鑛に分ち、貧塊鑛は比重法により選別された粒粉鑛の貧鑛と共に、これを粉碎して浮游選鑛に附

し、浮游銅精鑛を選別する。別子鑛山昭和六年度の出鑛量は四十六萬匁に近い。

【四阪島製鍊所】 四阪島は新居濱の沖合約一八軒に位し、宮窪村友浦に屬する。三の島(美濃島)家の島、鼠島、明神島及梶島より成り、家の島は別子鑛山附屬の製鍊所がある所で、現今三の島と連絡して一島をなして居る。選鑛場で選別された製鍊鑛並に浮游銅精鑛は新居濱から海路四阪島に送つて製鍊する。製鍊所では先づ粉狀鑛物をグリナワルト式燒結爐で焙燒して燒結鑛とし、他の塊鑛と共に鎔鑛爐に装入する。鎔鑛爐では生鑛、硫酸滓、燒結鑛及含銅雜物を原料とし、鎔劑として金銀鑛石及石灰石を、燃料として少量の骸炭を装入し、微粉炭を吹き込み、鎔鑛を行ひ、鍍を造る。鍍は直ちにグレートフォールス型鹽基性轉爐に注入し、強壓風を吹き込んで合金銀粗銅とし、アノード板として新居濱電鍊工場に逆送する。製鍊に當り燒結爐、轉爐等より放出する排煙を利用して硫酸を製造するため、四阪島にペテルゼン式硫酸製造工場を設けてあ

る。昭和七年度の粗銅製鍊高約二、〇七五萬匁。

【住友肥料製造所工場】 新居濱町惣開にあり、株式會社住友肥料製造所の經營にかゝり、大正二年九月創業、爾來數回擴張された。主たる目的は磷酸肥料、窒素肥料並にこれに關聯せる各種化成肥料、合成肥料及配合肥料の製造で、硫酸、硝酸その他一般工業藥品の製造も兼營して居る。工場は硫酸、磷酸、窒素並に藥品の四種に分れ、窒素工場は米國NEC法により、鈞熱せるコークスに水蒸氣を通じて水性瓦斯を發生させ、これを變成して水素を製造し、この水素に空中窒素を添加してアムモニヤとし、更に硫酸を作用させて硫酸アムモニヤを製造する最新式工場である。主要製品の製造能力は硫酸十萬匁、過磷酸石灰二十萬匁、無水アムモニヤ三萬六千匁、硫酸アムモニヤ十二萬匁、各種配合、化成合成、肥料五萬匁である。

伊豫西條驛 愛媛縣新居郡西條町大町

高松から 一一三杆九 約三時間

【西條町】 (一三圖ら4) 伊豫西條驛所在地。新居濱町

多度津松山間

の西に接し、地勢概ね平低、加茂川西北に流れて海に注ぐ。もと松平氏三萬石の城下であつた處で、街衢端正である。近年玉津村及大町村を編入して境域を擴めた。目下人絹工場設置の計畫があると云ふ。人口一萬六千。

寶物

- 一 太刀 (國寶) 銘備州長船景光 拵絲卷太刀 一口
- 一 松平頼和の寄進狀一通を添へて居る。
- 一 太刀 (國寶) 銘備州長船政光 康安元年十一月日 一口
- 一 松平頼英寄進。

【武丈櫻】 伊豫西條驛の南一杆半、八堂山の麓にあり、加茂川の清流に臨んで居る。風光京都の嵐山に似て居るので東豫の小嵐山と云つて居る。

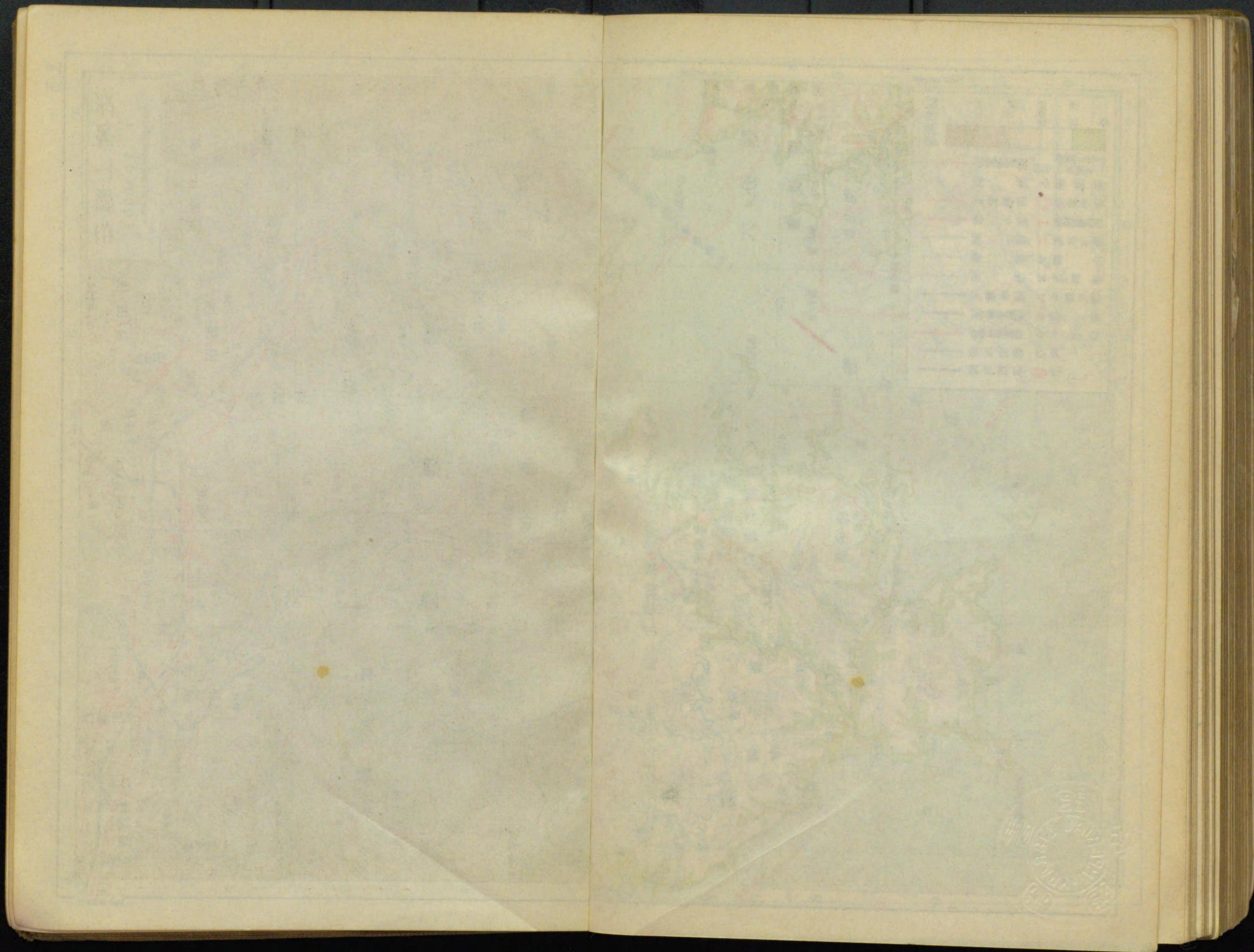
【伊曾乃神社】 (縣社) 伊豫西條驛の南二杆半、神戸村中野にある。天照大御神を祭神とし、創立年代は詳か

でないが、社傳成務天皇の御鎮齋と云ひ、延喜の制名
神大社じんたいしゃに列した古社である。天正年間兵火に罹りて社
殿悉く焼失したのを慶長年間に至り假宮かりみやを造立し、元
祿年間に社殿を再建した。祭禮は伊曾いそ乃祭のまつりと稱し近郷
の賑ひである。

【王至森の金木犀】〔指定天然記念物〕 伊豫西條驛の東約
四料、飯岡村野口の王至森寺の門外西側にあり、樹の
南側は高き石壁せきへきに密接し、根元には盛土もりつちを施し、北側
には石壁を繞してある。根元の周圍約三米、地上一米
餘の高さに於て幹は四本の支幹に分れ、樹高約一五米、
有數の巨樹である。花は十月頃開き、香氣二料の遠き
に達すると云ふ。

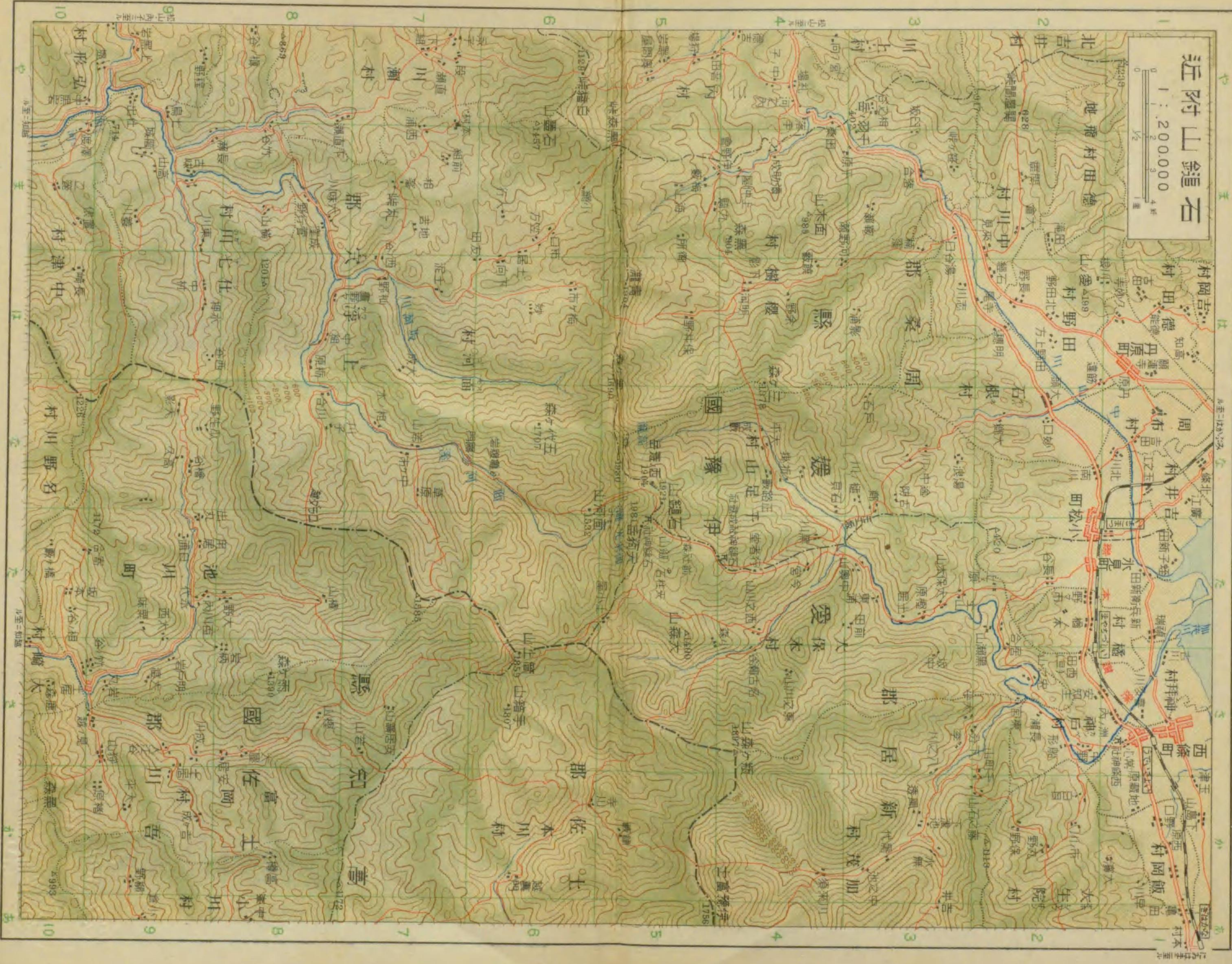
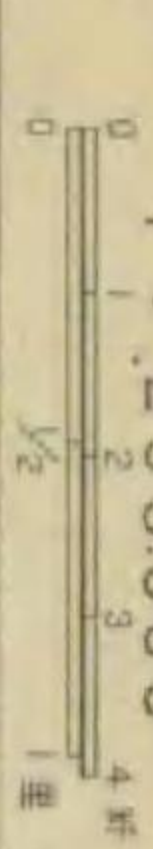
【石鎚山】（二六圖） 石鎚山は愛媛縣と高知縣との縣界
近くに聳えて居る四國第一の高峯で、海拔一、九二米、
近畿から中國、九州にかけて徳島縣の劍山つるぎさんと共に肩を
競ふ高山である。夏季は白衣びやくえの行者列ごろうじやを連ね、信仰登
山者甚だ多く年々一萬人以上に達する。比較的深山の

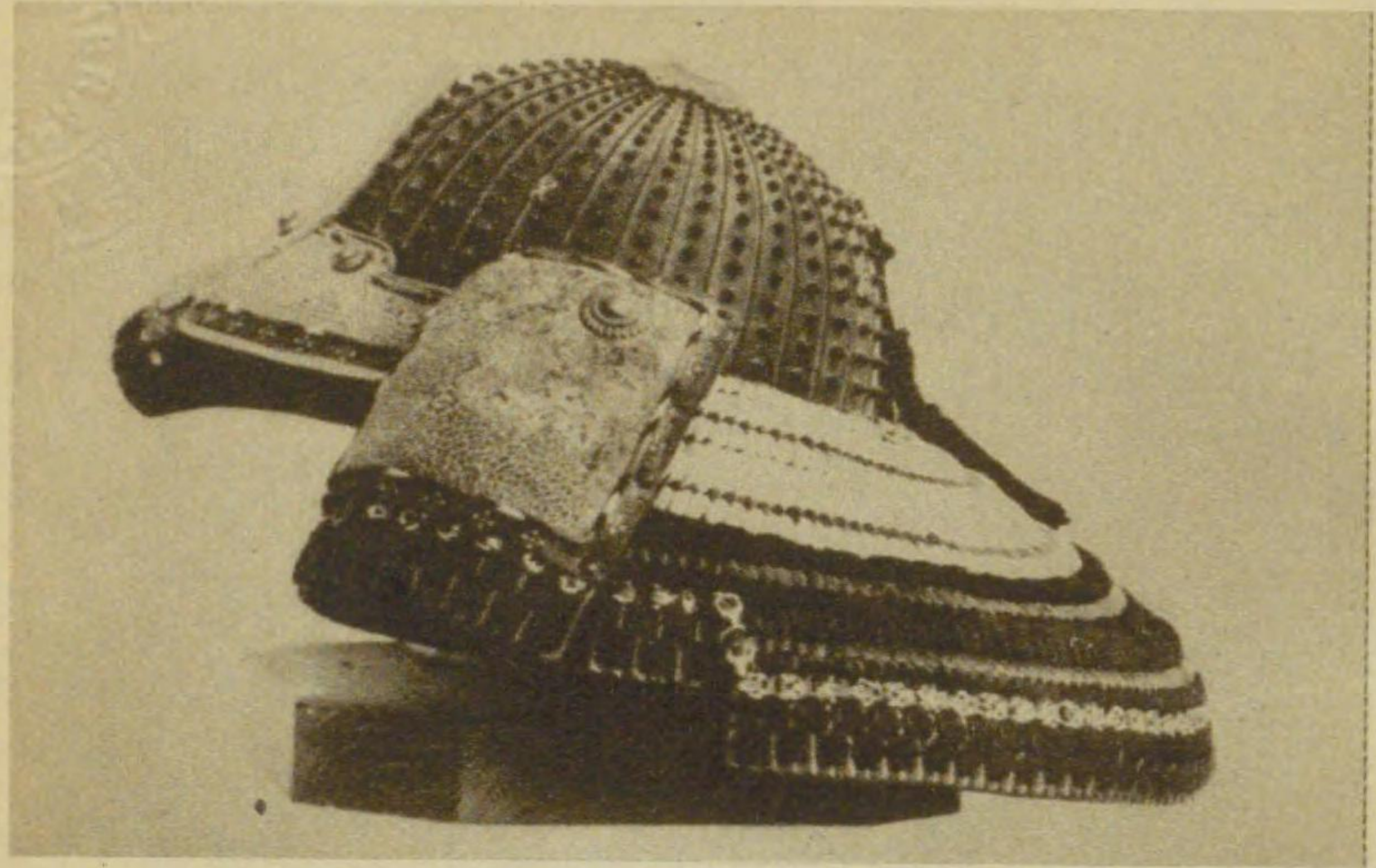
相を見せて、谷深く、南側土佐灣とさわんに注ぐ仁淀川の源流
には面河溪おもがけいがあり、近來その溪谷美が著名となつて松
山方面から自動車交通が開け、探勝するものが多い。
中腹以下は大部分杉等の植林帯であるが、中腹には
ぶなの原生林げんせいりんが茂つて森林景觀が優れて居る。山頂近
くは岳樺たけびんばと榎えん、樅等の針葉樹の混淆林で、この岳樺帯
は暖國四國としては石鎚山及劍山山頂附近にのみ見ら
れる。一帯に太平洋の黒流の影響を受けて、森林の生
態は特異なものが見られ、山頂附近にはいはかゞみ、
みやまざくら等を初め數種の高山植物が見られる。山
頂附近には相當岩石の露出ろしゆつがあり、概ね結晶片岩帯の
地盤を被つて噴出した安山岩あんざんがんの峻峯が聳えて居る。
登山路は松山から面河溪おもがけいを探つて登るものを裏口と
し、概ね石鎚山驛、伊豫小松、伊豫西條驛等から登
る。石鎚山驛から頂上まで二四料、驛から黒川くろがわまで約
一四料は夏季登山期には自動車の便がある。
驛から氷見町ひみまちを過ぎ、松林の中を曲り曲つて峠に出
る。峠を越えると一旦下り、加茂川かまがわに沿うて黒川合流



近附山鑪石

1 : 200,000





大山大神祇社大圓山兜形



大山大神祇社紺糸威